

参考資料 2 基礎的調査の整理

2-1. 基礎的調査の整理項目

都市の現状把握については、前回計画(H30)の内容を踏襲しつつ、「立地適正化計画の手引き(令和7年4月 国土交通省都市局都市計画課)」に示されている「都市の状況の分析における視点(P22)」を参考に整理しました。

都市計画マスタープラン・立地適正化計画に係る項目

項目	分類	収集データ
地理的条件	位置・地形	位置、傾斜、標高
	水系	河川系統、排水系統
社会的条件	人口	総人口世帯数、年齢3区分別人口、 人口動態行政区別人口分布、都市計画区域の人口
	産業 (経済活動)	就業者数、農業、林業、水産業、工業、商業、観光
	土地利用	土地利用現況、東部土地利用計画、法規制 開発動向、新築動向、農地の転用状況、空き家の状況
	都市交通	町民バス鉄道の利用者数の推移、路線図(公共交通網)
	都市機能	生活サービス施設、公共施設等の配置
	都市施設	道路、公園、上水道・下水道
	災害	避難所・避難場所、避難路、防災ため池 *災害ハザード区域は災害リスク分析で整理
	地価	地価の動向
	財政	歳入・歳出の推移、整備年度別公共施設
広域的条件		通勤通学動向、買い物動向、商圈
その他		指定文化財

※各種図面に用いた下図は、国土地理院ウェブサイトの基盤地図情報ダウンロードサービスを使用しています(<https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php>)。

2-2. 地理的条件

(1) 位置

本町は、宮城県南東端に位置し、「亘理・山元地区都市計画区域」に属しています。

宮城県市町村調査地区別位置図

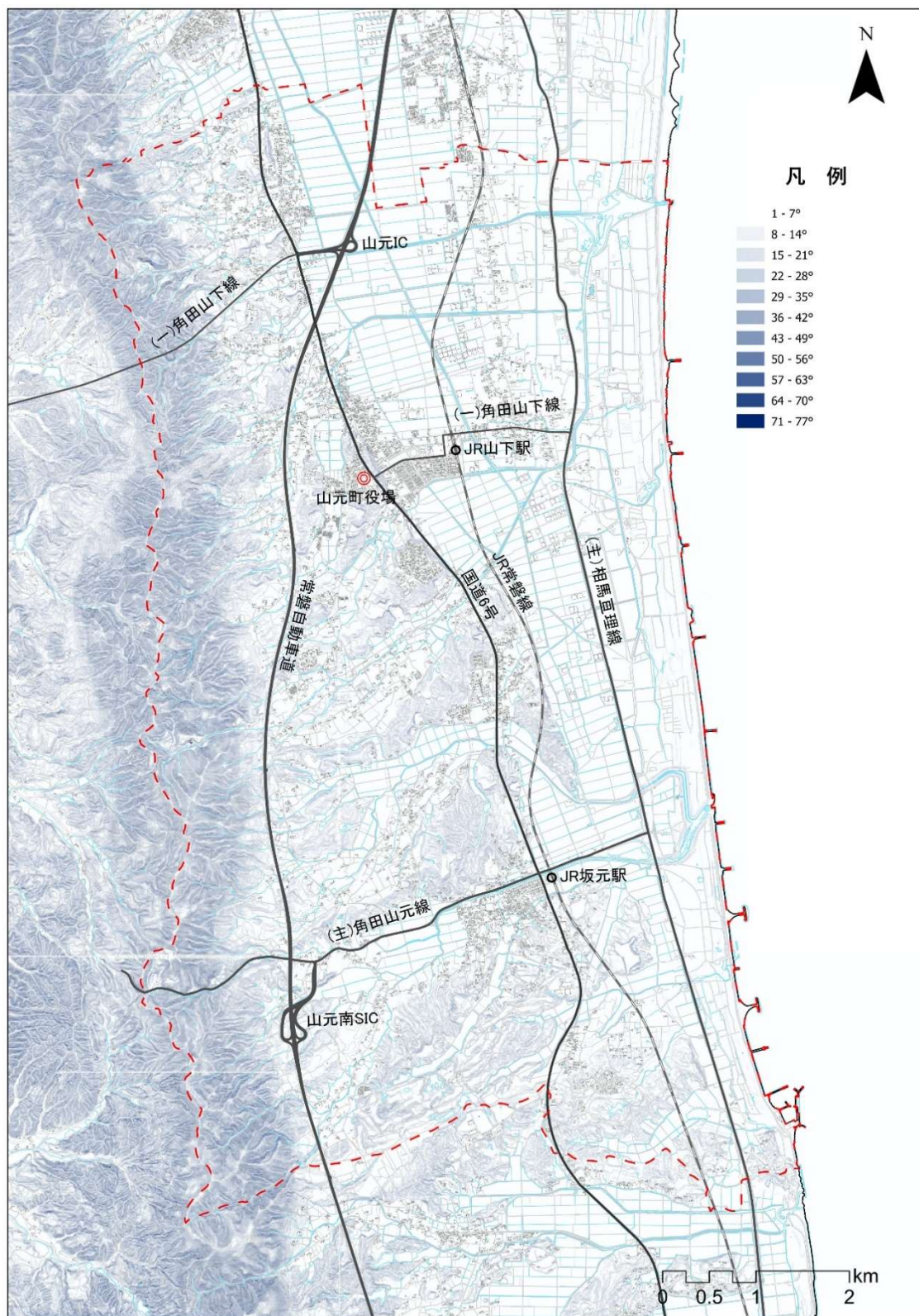


出典：平成 31 年度亘理・山元地区都市計画基礎調査

(2) 地形

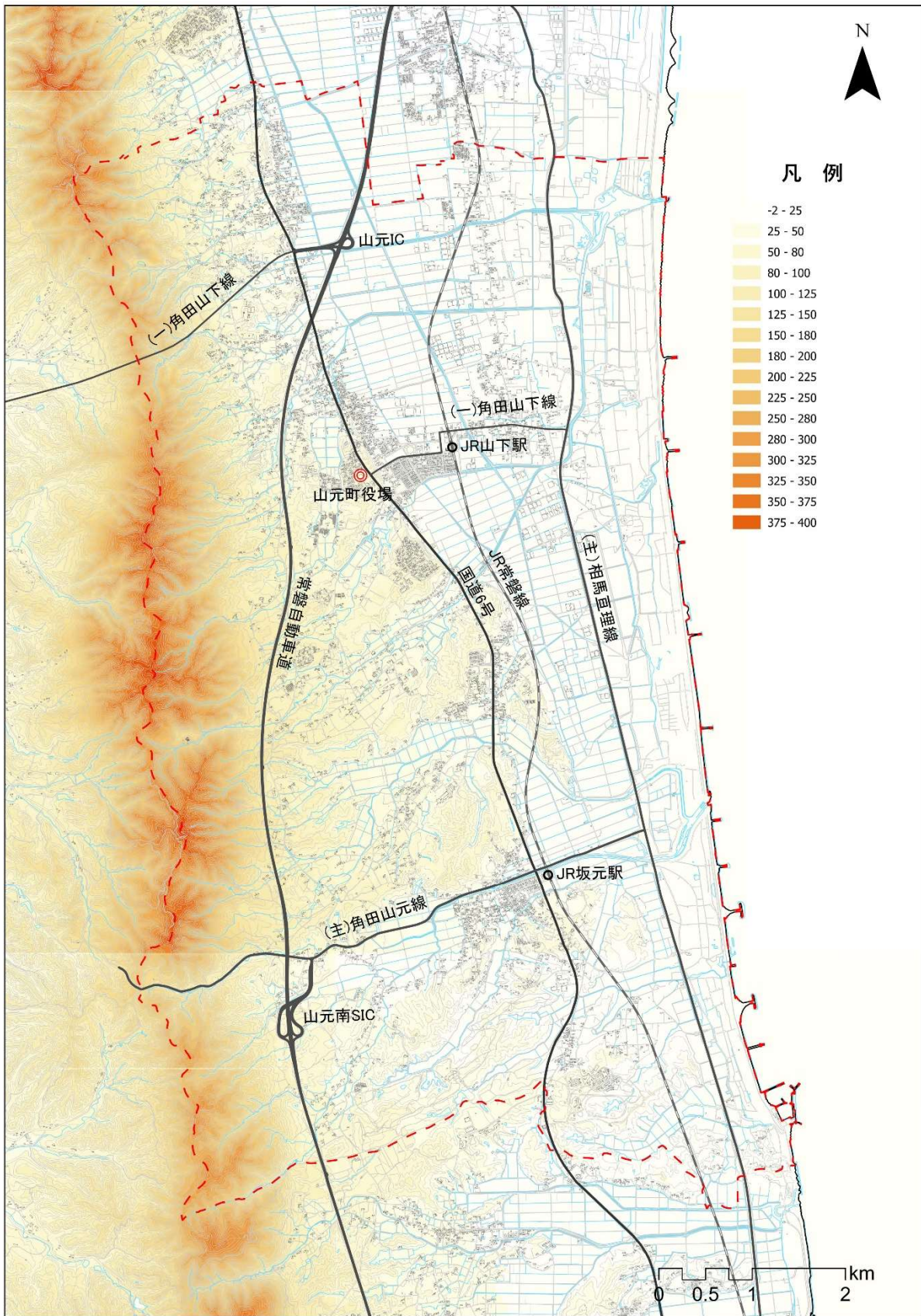
本町の地形は、西側に山地が連なり、阿武隈山地の北端部を形成しています。山麓部は緩やかな傾斜の丘陵地帯となっており、畑や山林が広がっています。町域は、東西約6 km、南北約12kmの広がりを持ち、国道6号以東には主に田園地帯が形成されています。

傾斜区分図



出典：国土数値情報（国土交通省）

標高図



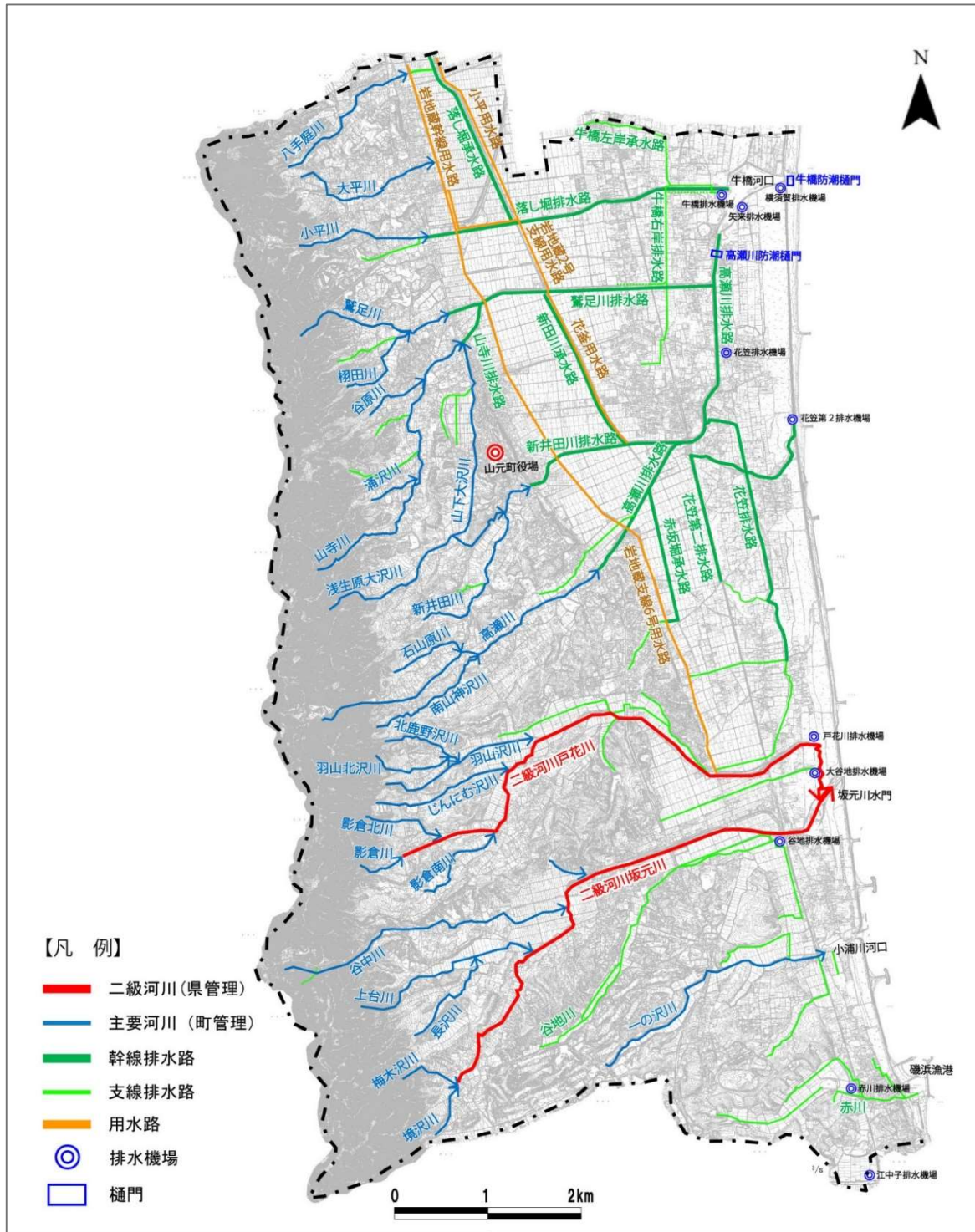
出典：国土数値情報（国土交通省）

(3) 水系

雨水等は、県が管理する二級河川(坂元川・戸花川)や町が管理する主要河川、土地改良区が管理する基幹排水路等を通じて、町東部の太平洋に排水されています。

また、町北部から南部にかけては、亘理町域を流れる阿武隈川を水源とする用水路が整備されています。

水系図



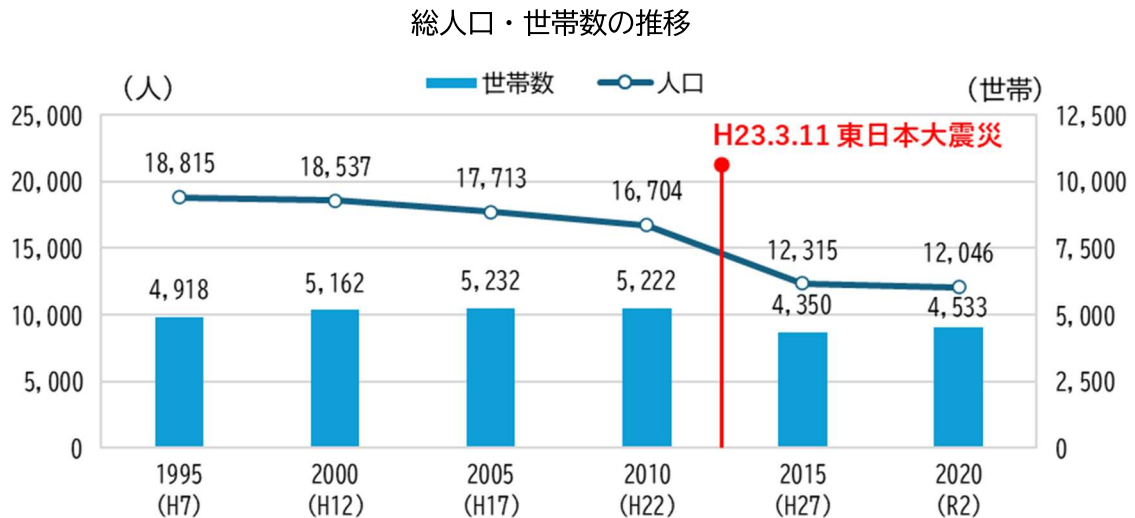
出典：山元河川位置図（平成23年12月）、山元町管内排水系統図（令和元年6月）

2-3. 社会的条件

(1) 人口

【総人口・世帯数】

減少傾向が続いていた本町の総人口は、平成 23(2011)年に発生した東日本大震災を契機として、大幅に減少しました。

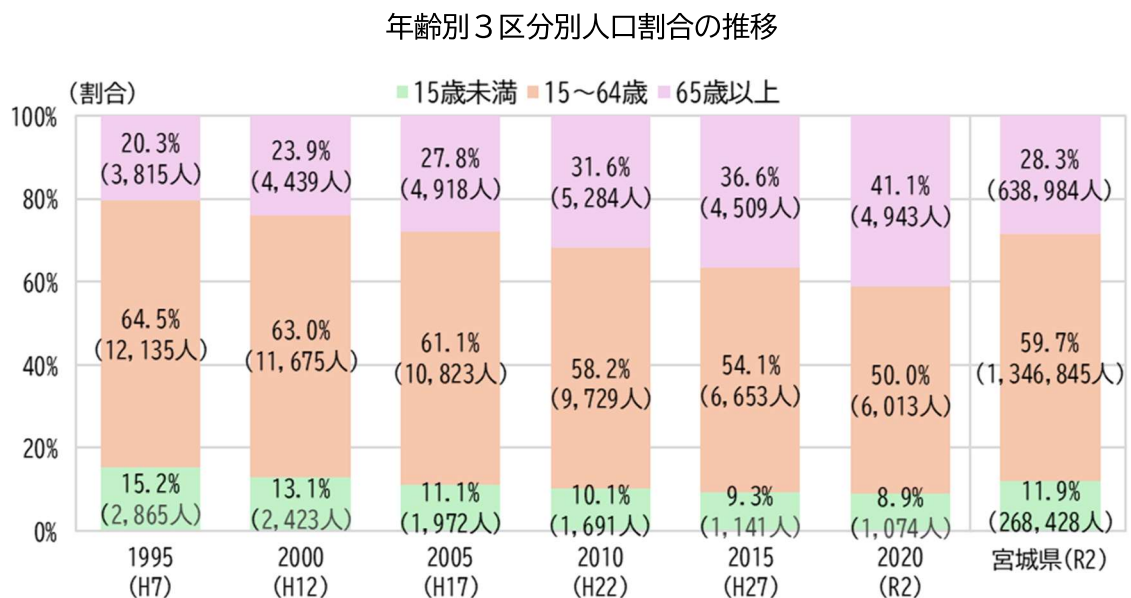


出典：令和 2 年国勢調査（総務省統計局）

【年齢 3 区分別人口】

年齢 3 区分別の人口割合を見ると、15 歳未満人口及び 15～64 歳の生産年齢人口は減少傾向が続いている一方で、65 歳以上の老年人口の割合は増加を続けています。

令和 2 (2020) 年には、65 歳以上の老年人口が総人口の 40% を超えており、県全域と比較しても、本町では少子高齢化が進行している状況にあります。



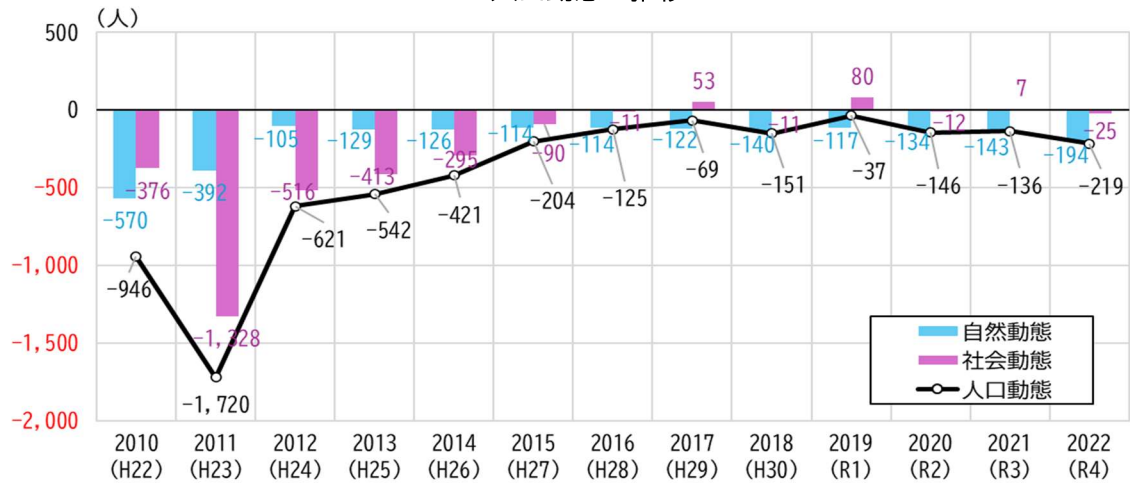
出典：令和 2 年国勢調査（総務省統計局）

【人口動態（自然動態、社会動態）】

過去 10 年間の人口動態（自然動態と社会動態の合計）を見ると、総体としては減少傾向で推移しています。ただし、平成 29(2017)年以降の社会動態においては、一定数の転入者が見られることから、増加に転じた年も確認されています。

合計特殊出生率は、平成 20～24 年(2008～2012 年)に 1.11 まで低下しましたが、平成 25～29 年(2013～2017 年)には 1.29 と上昇に転じています。その後、平成 30～令和 4 年(2018～2022 年)にかけては再び減少し 1.16 まで低下しているものの、この傾向は全国及び宮城県においても同様に見られます。こうした中、本町においては、移住定住施策の取り組みが一定の効果을上げており、県平均との差が縮小しているものと考えられます。

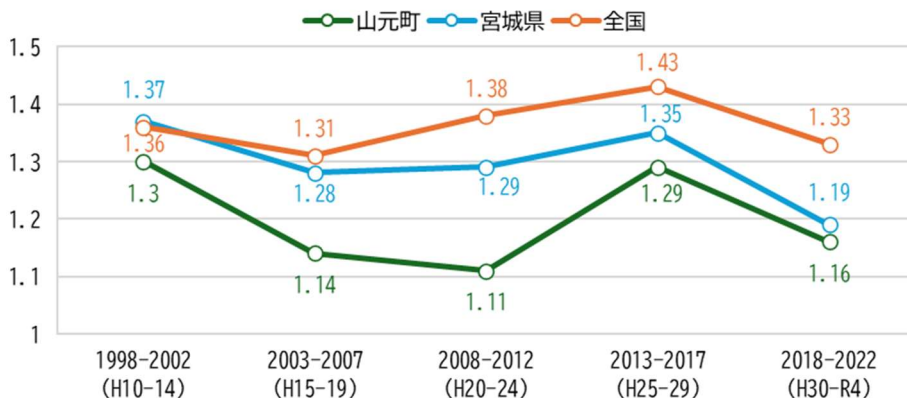
人口動態の推移



項目	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
■ 出生	79	66	66	59	61	56	65	52	46	62	50	49	41
	649	458	171	188	187	170	179	174	186	179	184	192	235
	△570	△392	△105	△129	△126	△114	△114	△122	△140	△117	△134	△143	△194
■ 転入	372	429	437	405	336	448	456	461	400	416	353	320	334
	748	1,757	953	818	631	538	467	408	411	336	365	313	359
	△376	△1,328	△516	△413	△295	△90	△11	53	△11	80	△12	7	△25
人口動態	△946	△1,720	△621	△542	△421	△204	△125	△69	△151	△37	△146	△136	△219

出典：住民基本台帳（山元町）

合計特殊出生率の推移



出典：人口動態統計（厚生労働省）

【行政区別人口】

令和2(2020)年と令和6(2024)年の行政区別人口を比較すると、小平区、山下区及び浅生原区において人口の増加が見られる一方で、その他の行政区では人口が減少しています。

また、沿岸部に位置する新浜区については、津波被害により全ての住宅が流出したことから、現在、居住者はいない状況となっています。

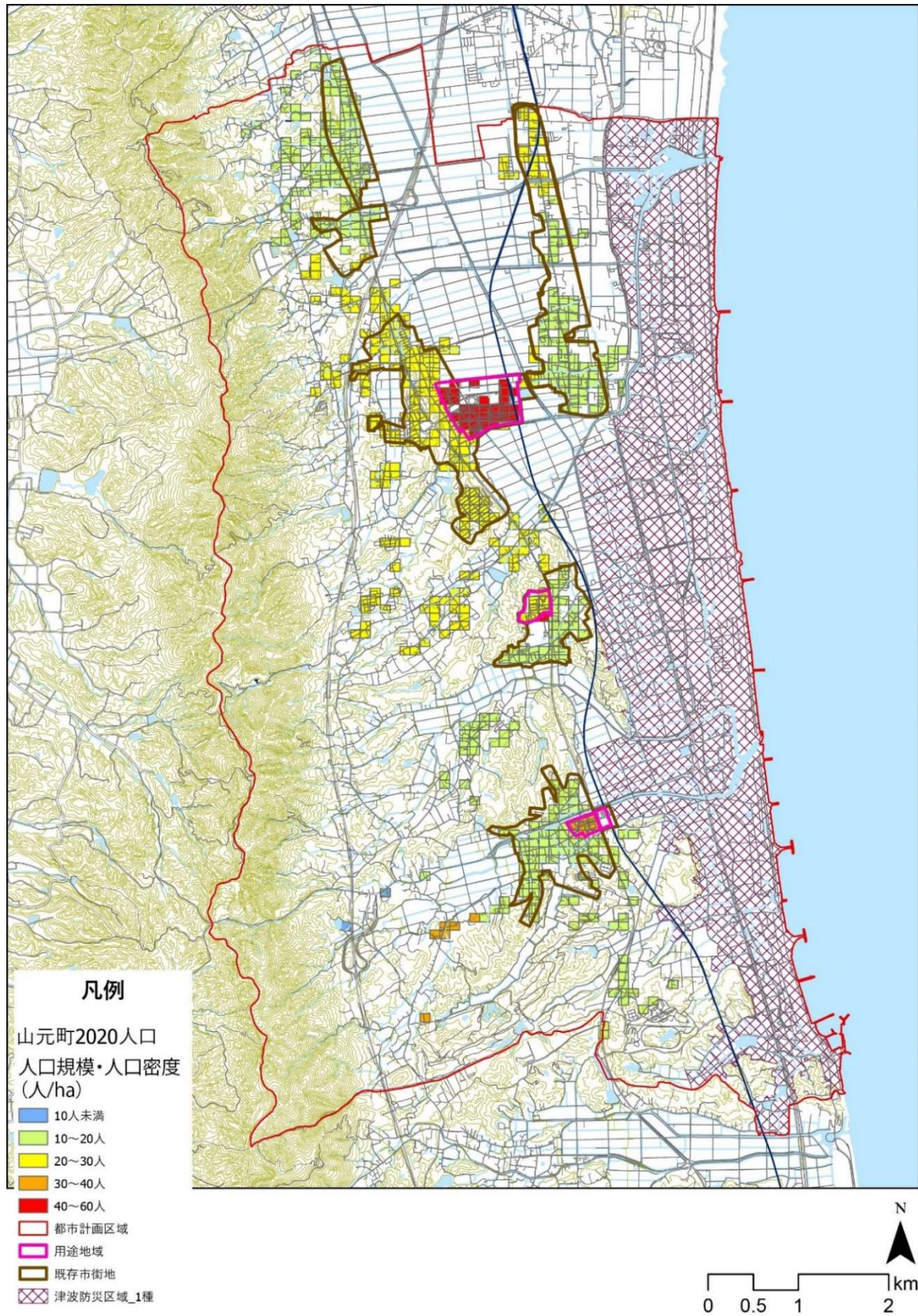
行政区別の人口推移

行政区	平成22年 (2010年)		平成27年 (2015年)		令和2年 (2020年)		令和6年 (2024年)		伸び率 R6/R2	
	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯
牛橋	1,343	481	726	275	538	233	501	237	0.93	1.02
花釜	3,097	1,029	1,502	561	1,157	469	1,152	493	1.00	1.05
笠野	827	244	273	83	95	30	94	32	0.99	1.07
新浜	286	86	82	27	0	0	0	0	0	0
八手庭	226	71	207	76	186	73	176	76	0.95	1.04
横山	459	144	441	140	374	133	321	124	0.86	0.93
大平	722	246	733	246	687	258	623	254	0.91	0.98
小平	248	77	274	83	289	106	299	130	1.03	1.23
鷲足	372	103	393	117	372	121	326	123	0.88	1.02
山寺	712	212	764	230	799	285	724	282	0.91	0.99
山下	1,347	464	1,397	502	1,407	574	1,447	619	1.03	1.08
つばめの杜西	-	-	-	-	559	271	538	270	0.96	1.00
つばめの杜東	-	-	-	-	663	271	622	273	0.94	1.01
浅生原	1,031	348	1,456	598	1,032	415	1,056	440	1.02	1.06
高瀬	890	315	784	284	691	264	647	270	0.94	1.02
合戦原	310	100	324	115	268	106	235	100	0.88	0.94
療養所	162	160	64	64	82	80	61	61	0.74	0.76
桜塚	-	-	-	-	151	88	150	100	0.99	1.14
中浜	1,000	315	326	137	80	30	71	30	0.89	1.00
磯	505	153	156	64	49	21	39	19	0.80	0.90
真庭	646	192	581	186	503	180	462	173	0.92	0.96
町	852	285	636	227	718	299	664	289	0.92	0.97
下郷	865	291	814	288	710	267	626	248	0.88	0.93
上平	278	111	240	90	206	88	178	86	0.86	0.98
久保間	278	78	253	78	228	80	205	78	0.90	0.98
中山	279	69	289	81	237	72	213	72	0.90	1.00
総計	16,735	5,574	12,715	4,552	12,081	4,814	11,430	4,879	0.95	1.01

出典：平成22年・平成27年統計書、令和2年・令和6年町資料（各年12月31日時点）

【人口分布】

100m人口メッシュ図（令和2（2020）年）



出典：将来人口・世帯予測ツールV3(国土技術政策研究所-R2 国調対応版 2024年7月5日更新)より作成

【都市計画区域の人口】

本町は、町域の全域が都市計画区域に指定されており、令和5(2023)年3月には、3地区の新市街地を中心として用途地域を指定しています。

なお、本町においては、D I D(人口集中地区)の指定はありません。

都市計画区域の面積と人口

区分	面積(ha)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
山元町全域	6,448	100	11,416	100
都市計画区域	6,448	100	11,416	100
用途地域	64.5	1	1,757	15
用途地域外	6383.5	99	9,659	85

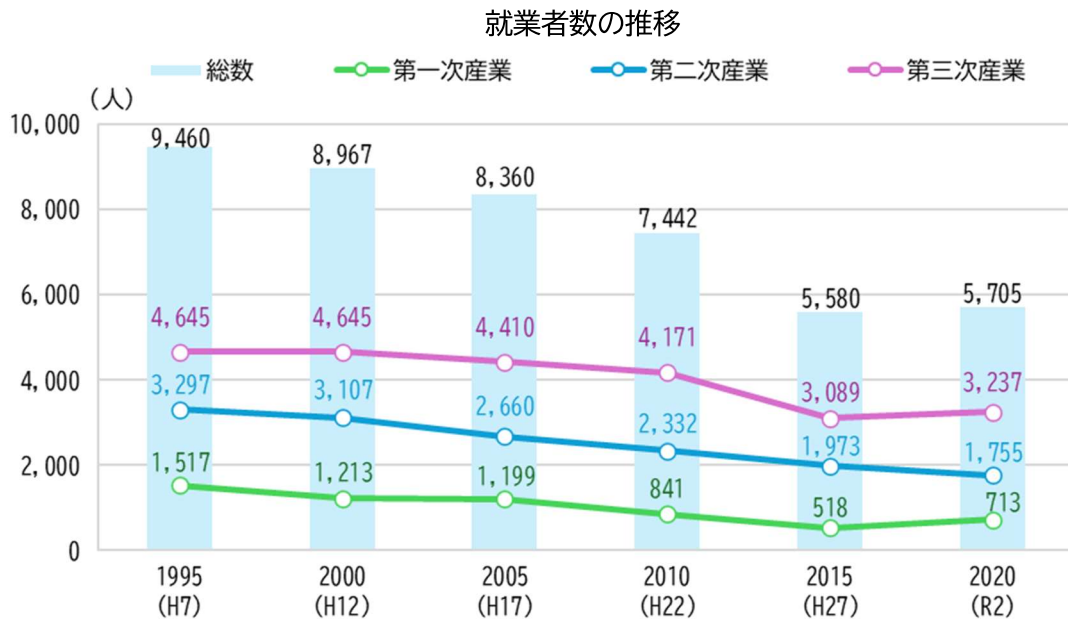
出典：面積 | 町資料、人口 | 住民基本台帳令和6年12月

(2) 産業（経済活動）

【就業者数】

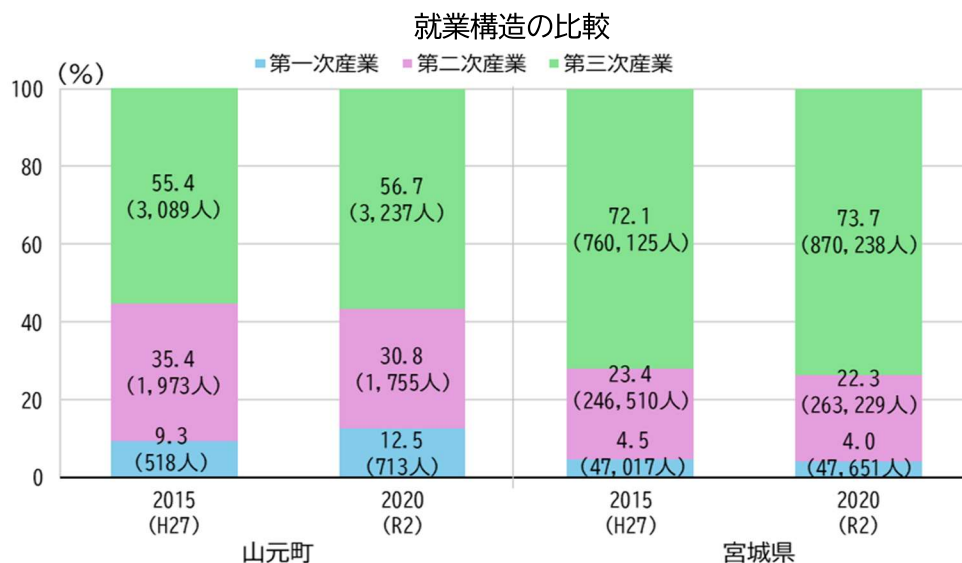
就業人口の総数は、平成 27(2015)年まで年々減少していましたが、令和 2 (2020)年には第一次産業及び第三次産業において増加に転じています。その結果、就業人口の総数は、平成 27(2015)年と比較して 125 人の増加となりました。

第一次産業	農業、林業、漁業
第二次産業	鉱業、建設業、製造業
第三次産業	電気・ガス・熱供給・水道業、運輸・通信業、卸売・小売業、飲食店、金融・保険業、不動産業、サービス業、公務(他に分類されないもの)



出典：令和 2 年国勢調査

就業構造を見ると、本町は宮城県平均と比較して、第一次産業及び第二次産業の割合が高いことがわかります。また、本町の平成 27(2015)年と令和 2 (2020)年の就業構造を比較すると、第一次産業及び第三次産業の構成比率が微増しています。



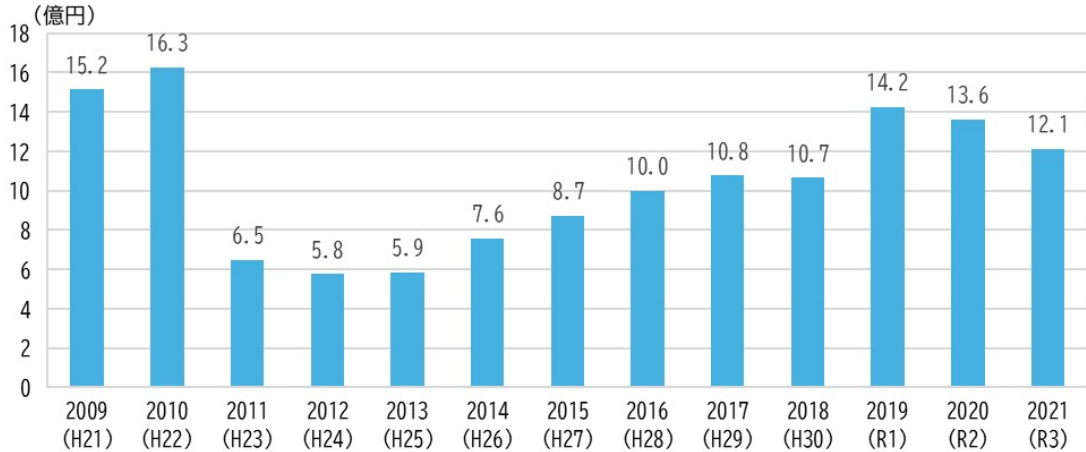
出典：令和 2 年国勢調査

【農業】

農業生産額は、東日本大震災の発生時に、前年度である平成 22(2010)年度の 16.3 億円から、半分以上となる 6.5 億円まで大きく減少しました。その後、被災農地の復旧や圃場整備事業の進捗等により、徐々に回復傾向を示し、令和元(2019)年には、農水産物直売所の開業等も相まって、14.2 億円と震災以前に近い水準まで回復しました。

しかし、その後は、新型コロナウイルス感染症の流行等の影響により、再び減少に転じています。

農業生産額の推移

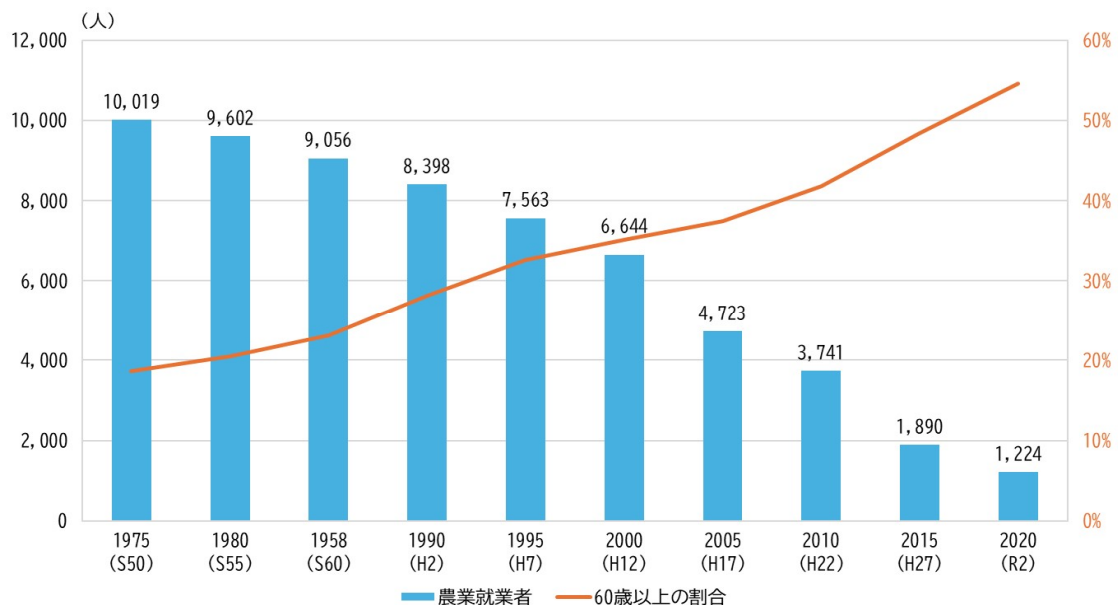


出典：宮城県市町村民経済計算 平成 23 年基準(平成 21~22 年度)、令和 3 年度基準 (H23~R3)

農業就業人口は減少傾向が継続しており、震災前の平成 22(2010)年と震災後の令和 2(2020)年の 10 年間を比較すると、約 2,500 人(約 7 割)の減少が見られます。

また、60 歳以上の就業人口の割合は年々増加しており、令和 2(2020)年には 5 割を超える水準に達しています。

農業就業人口と高齢化の推移

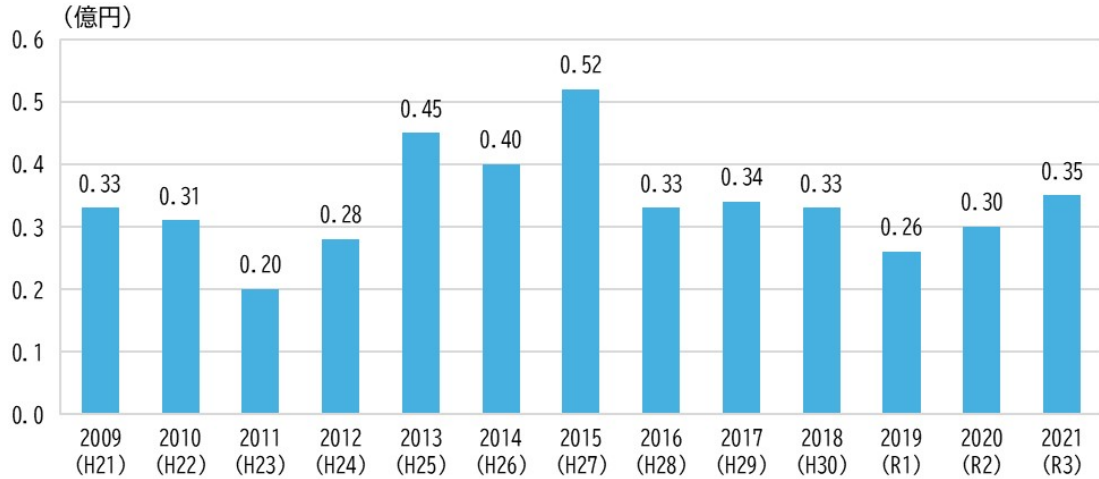


出典：農林業センサス(農林水産省)より集計
 ※令和 2 年は出典元に調査項目がないことから、農業経営体(個人)と(団体)の合計値とした。

【林業】

林業生産額は、震災後の平成 27(2015)年に 0.52 億円とピークを迎えましたが、その後は概ね 0.3 億円前後で推移しています。生産額全体が小規模であることから、長期的に見て明確な増減傾向は確認されていません。

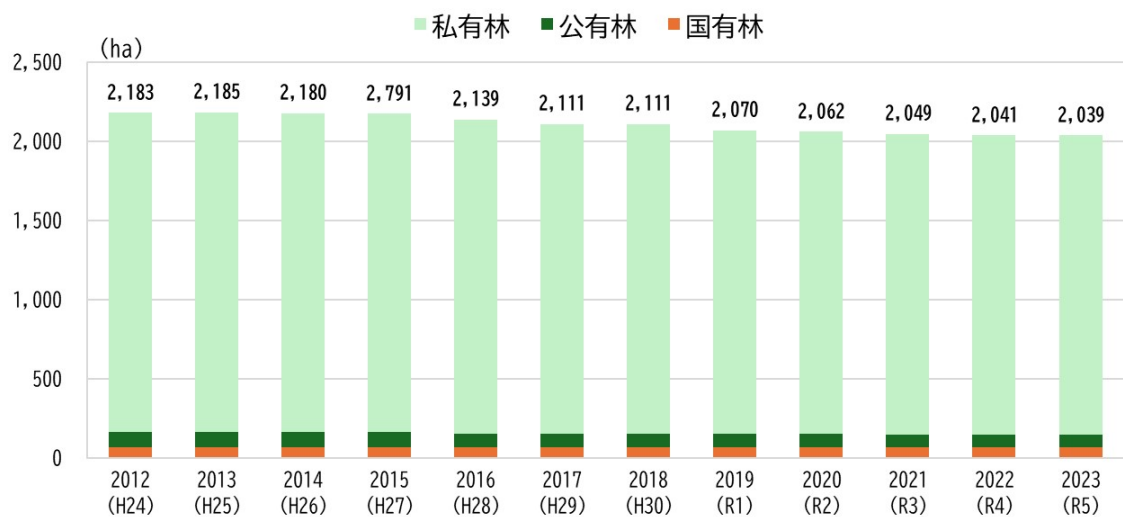
林業生産額の推移



出典：宮城県市町村民経済計算 平成 23 年基準(平成 21~22 年度)、令和 3 年度基準 (H23~R3)

林野面積は、全体として減少傾向にあります。平成 24(2012)年と令和 5 (2023)年を比較すると、震災復興事業に伴う土砂採取の影響等により、公有林の面積は約 15%減少しています。

林野面積の推移



	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
■ 私有林	2,017.70	2,019.79	2,014.41	2,011.05	1,984.24	1,956.80	1,956.80	1,916.25	1,908.28	1,900.02	1,892.69	1,890.31
■ 公有林	93.16	93.16	93.16	93.16	81.92	81.65	81.65	81.58	81.58	79.59	79.02	79.02
■ 国有林	72.38	72.38	72.38	72.38	72.38	72.38	72.38	72.38	72.38	69.67	69.67	69.67
総面積	2,183.24	2,185.33	2,179.95	2,791.14	2,138.54	2,110.83	2,110.83	2,070.21	2,062.24	2,049.28	2,041.38	2,039.00

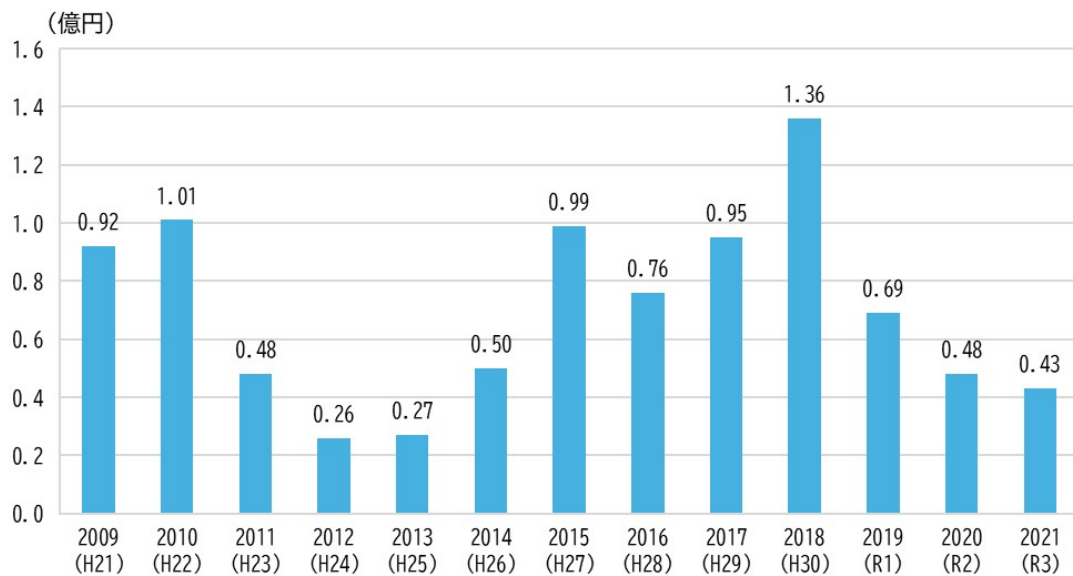
出典：みやぎの森林・林業のすがた(宮城県)より集計

【水産業】

水産業生産額は、東日本大震災の影響により一時大きく落ちこみましたが、漁港の災害復旧や瓦礫撤去等の進展に伴い、徐々に回復してきました。その結果、平成 30(2018)年には 1.36 億円まで回復しました。

しかし、その後は、新型コロナウイルス感染症の流行等の影響を大きく受け、再び減少に転じています。

水産業生産額の推移



出典：宮城県市町村民経済計算 平成 23 年基準(平成 21～22 年度)、令和 3 年度基準 (H23～R3)

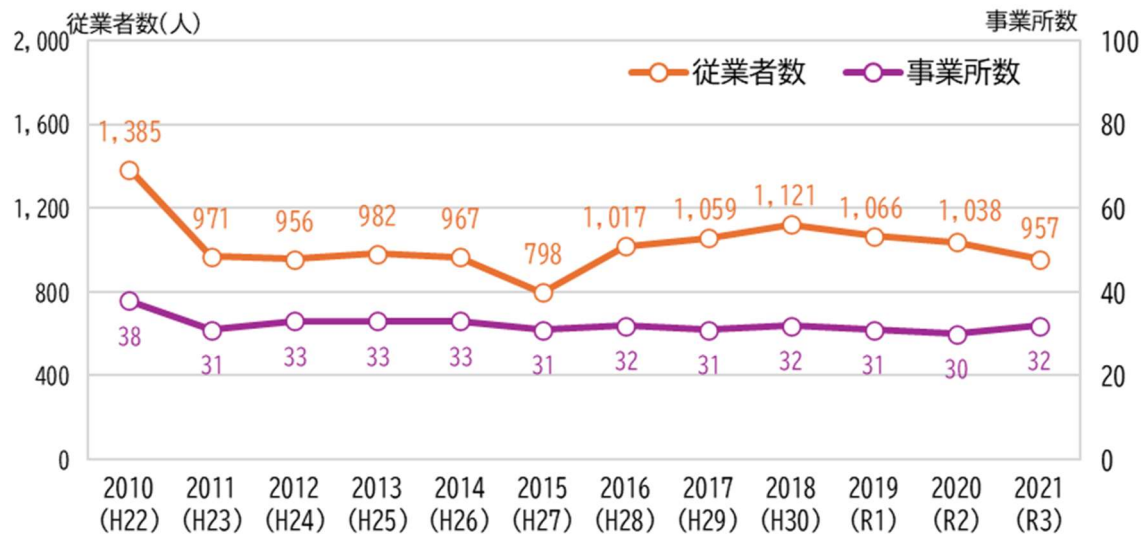
【工業】

従業員数及び事業所数は、いずれも東日本大震災の影響により減少しましたが、その後、事業所数については概ね横ばいで推移しています。一方、従業者数は、震災後に 950 人から 980 人程度で推移していたものの、平成 27(2015)年には 798 人まで減少しました。

その後は回復傾向に転じ、1,000 人を超える水準まで回復しましたが、平成 30(2018)年に 1,121 人とピークを迎えた後、近年は再び減少傾向となっています。

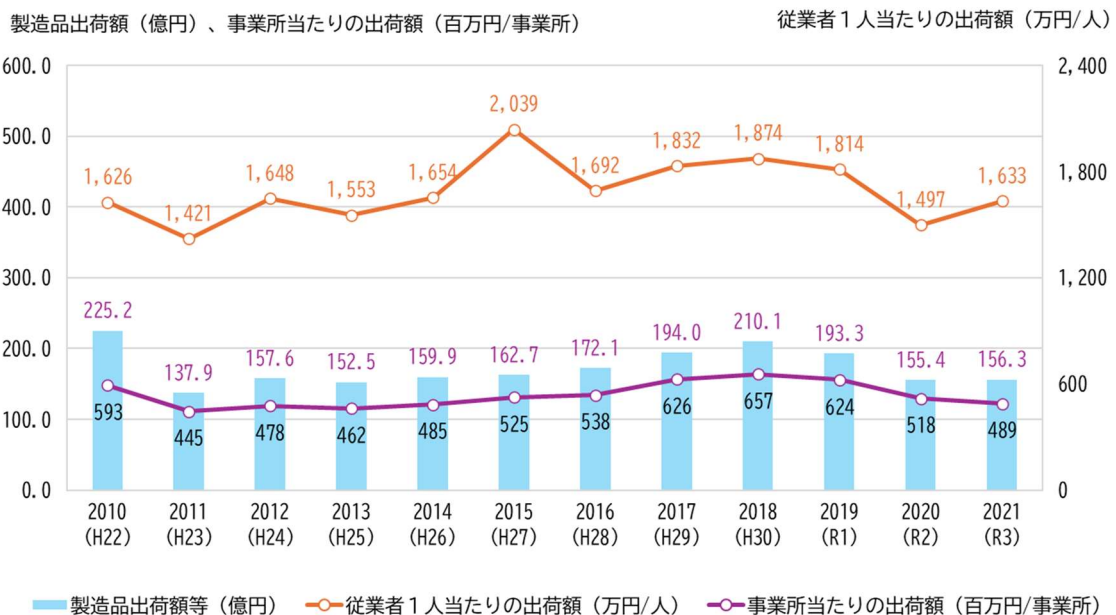
また、製造品出荷額及び事業所当たりの出荷額については、震災後は増加傾向を示し、平成 29(2017)年から令和元(2019)年にかけては震災前の水準を上回りました。しかしその後は近年の社会経済情勢の変化等を背景に、減少傾向となっています。

事業所数、従業員数の推移



出典：工業統計調査、経済構造実態調査(経済産業省)より集計

製造品出荷額等と出荷額の推移



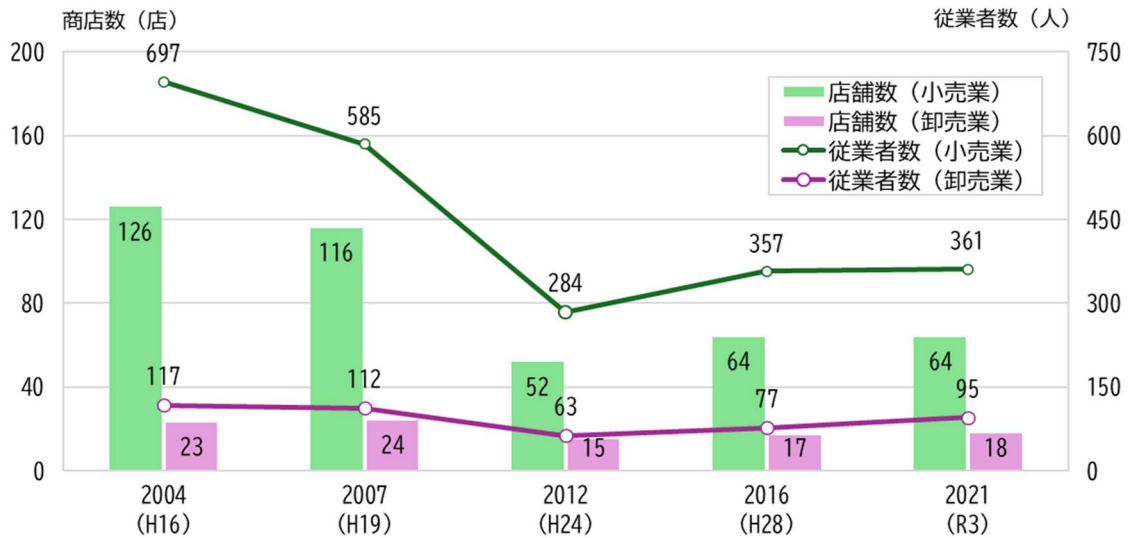
出典：工業統計調査、年経済構造実態調査(経済産業省)より集計

【商業】

東日本大震災の影響により、小売業及び卸売業はいずれも店舗数及び従業者数が減少しました。その後、平成 24(2012)年から平成 28(2016)年にかけては増加傾向を示しましたが、依然として震災前の水準には回復していません。

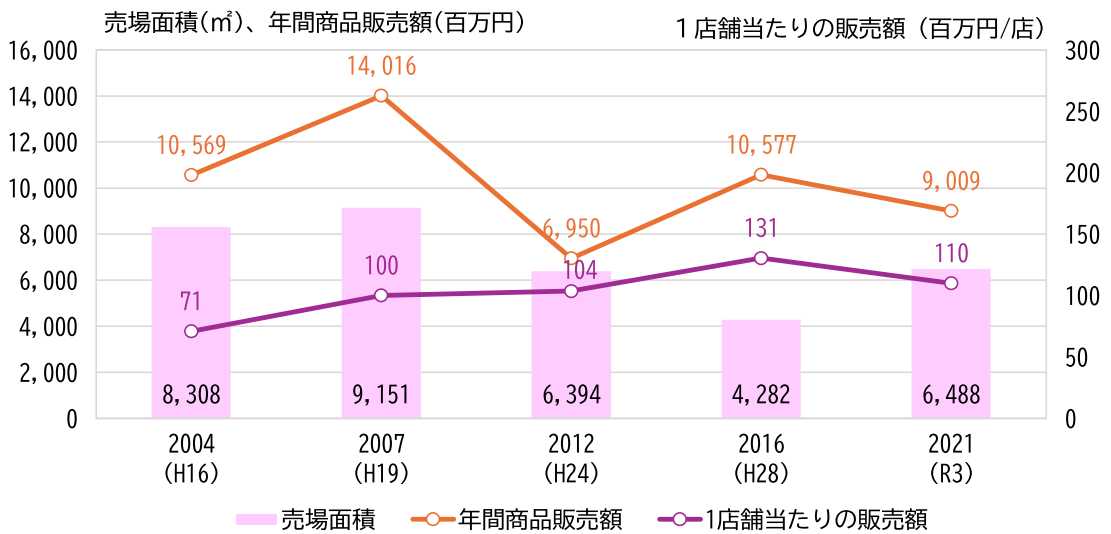
一方、平成 28(2016)年 10 月に山下駅前ヘスーパーマーケット及びドラッグストアが出店したことを受け、令和 3 (2021)年には売り場面積が大きく増加しています。なお、経済センサス活動調査は 6 月を基準としているため、上記 2 店舗の出店効果は令和 3 (2021)年の数値に反映されています。

商店数、従業者数の推移



出典：経済センサス活動調査(総務省統計局)より集計

売り場面積、販売額の推移



出典：経済センサス活動調査(総務省統計局)より集計

【観光】

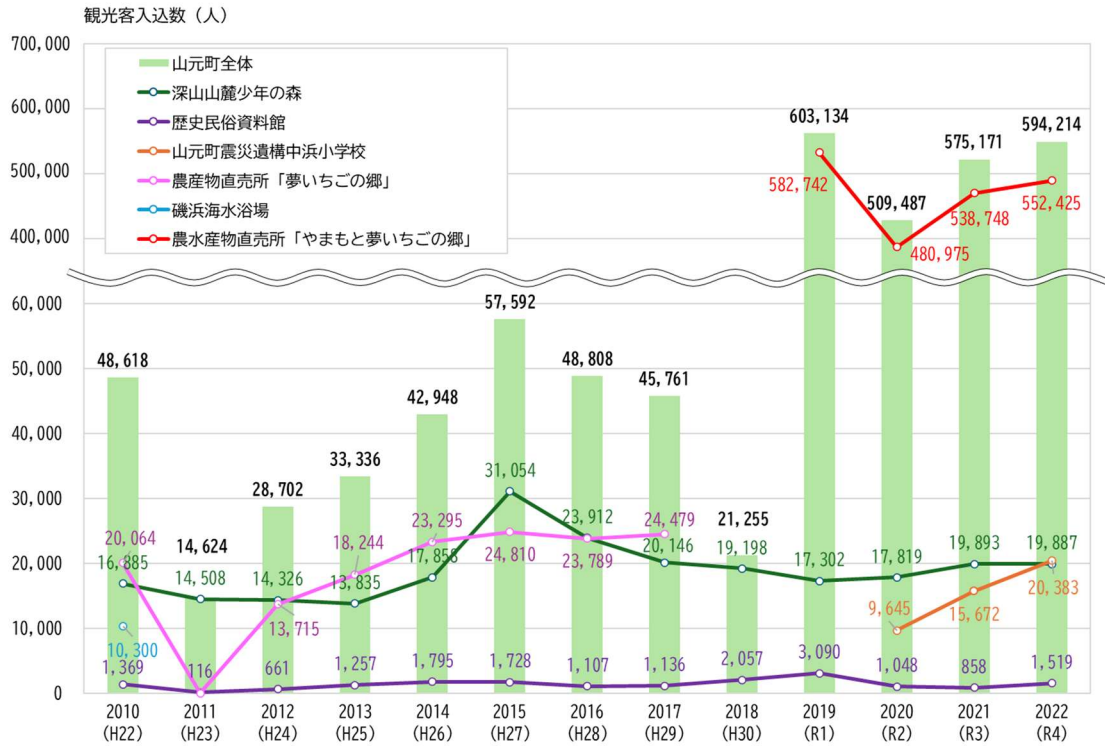
観光客入込数は、東日本大震災前の平成 22(2010)年には全体で約 48,000 人でしたが、平成 31(2019)年に農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」が開業したことにより、約 12 倍にまで増加しています。また、令和 2 (2020)年に一般公開された震災遺構中浜小学校については、開館以降、来場者数が増加傾向で推移しています。

一方、深山山麓少年の森及び歴史民俗資料館については、来場者数は概ね横ばいの傾向が見られます。

震災前、震災後、最新の観光客入込数の比較

震災前(H22)	震災後(H23)	最新(R4)	H22～23 年比較	H22～R4 比較
48,618 人	14,624 人	594,214 人	0.3 倍	12.2 倍

観光客入込数の推移



※磯浜海水浴場は東日本大震災の影響により閉鎖中
出典：観光統計概要(宮城県)より集計

観光資源の位置図

山元町マップ

ストロベリーライン

町の田園地帯の真中を走る町道いちご街道線がストロベリーライン。ビニールハウスの中のいちごは、開花期に可憐な花を咲かせ、果実が実る12月下旬から6月中旬には各農園でいちご狩りが楽しめます。

☎0223-36-9837 (山元町商工観光交流課)

アップルライン

いちごだけでなく、山元町はりんごの名産地。町の西側、山沿いの町道東街道線がアップルライン。9月～12月にかけて旬を迎えるりんごは、歯応えも良く、美味しいと評判。スーパーにはあまり並ばないので、ぜひ、現地で味わって。

☎0223-36-9837 (山元町商工観光交流課)



1 しほろざん 四方山

頂上付近の展望台からは、東に太平洋の大海原、西に雄大な蔵王連峰など、360度のパノラマを楽しむことができます。毎年秋に開催されるトレッキングイベントもオススメです。

☎0223-36-9837 (山元町商工観光交流課)

ユニークな山元町の寺院

2 ほうせんじ 鳳仙寺

所/宮城県亶理郡山元町小字平字53-1
☎0223-37-1733

3 ふもんじ 普門寺

所/宮城県亶理郡山元町山寺字浜163
☎090-1497-5111

4 とくほんじ 徳本寺

所/宮城県亶理郡山元町坂元字寺前13
☎0223-38-0320

お茶を飲みながら気軽に参加できる座禅会を開いているのは「鳳仙寺」、「普門寺」では、飲食・手作り品の販売ブースが並ぶイベント「てらマルシェ」を毎月1回開催。電話で3分間法話が聴ける「テレホン法話(☎0223-38-1717)」を行っているのが「徳本寺」。町内の寺院はなかなかユニークです。



5 東日本大震災慰霊碑 大地の塔

東日本大震災で犠牲となられた方々を追悼し、震災の記憶を後世に伝える目的で建立。「慰霊」「復興」「記憶」「願い」の思いが竹の地下茎のように大きく伸長し、大地から成長していく様子がイメージされています。塔の高さは震災の日を表す3.11m。毎年3月11日14時46分に塔の影が刻銘板に埋め込まれた「水晶」に重なり、震災の記憶を継承します。

所/宮城県亶理郡山元町山寺字坂元125-6
☎0223-37-1111 (山元町総務課)



6 サーフポイント

山元町は海にも近い町。町内どこからでも5分ほど車を走らせれば、海岸線へ出ることができます。時に「東北の湘南」と呼ばれるのはこのため。打ち寄せる穏やかな波。吹き抜ける爽やかな潮風。どこまでも続く海のすくそばで、のんびりと癒しの時間を楽しむのもオススメです。



7 やえがきじんじや 八重垣神社

応永18年(西暦1411年)藤波亮雄が伊勢神宮に詣で、霧彦鳴尊の神霊を乞い牛頭天王と称し鎮守したとされています。東日本大震災の津波ですべて流されましたが、6年半を経て新たな社殿が完成。近くには、築山(避難丘)を備えた「笠野避難丘公園」があります。太平洋や大区画のほ場の眺めがオススメです。

所/宮城県亶理郡山元町高瀬字笠野128
☎0223-36-8611 (社務所)

海の見える公園

8 うしほしこうえん 牛橋公園

所/宮城県亶理郡山元町山寺字東泥沼15

9 はながまひなんおほかこうえん 花釜避難丘公園

所/宮城県亶理郡山元町山寺字浜140-5

10 かさのひなんおほかこうえん 笠野避難丘公園

所/宮城県亶理郡山元町高瀬字笠野73

11 いそぎやまこうえん 磯崎山公園

所/宮城県亶理郡山元町坂元字浜谷地44-1

海が見える公園が海沿いに点在。なかには、藩政時代からの歴史を継ぐものや楽しいイベントの会場となる公園も。

12 しんさいいこう 震災遺構

なかはましようがっこう 中浜小学校

屋上に避難した90人の命を守り抜いた校舎を被災したままの状態に保存し一般公開。遺構保存の手法や見学体験の工夫などが評価され、グッドデザイン賞を受賞した震災遺構で、「自分のこととして」災害を捉え、考えることができます。

所/宮城県亶理郡山元町坂元字久根22-2
☎0223-36-8948 (山元町教育委員会生涯学習課)



出典：観光パンフレット「ヤマモトイロ」(山元町)

(3) 土地利用

【土地利用現況】

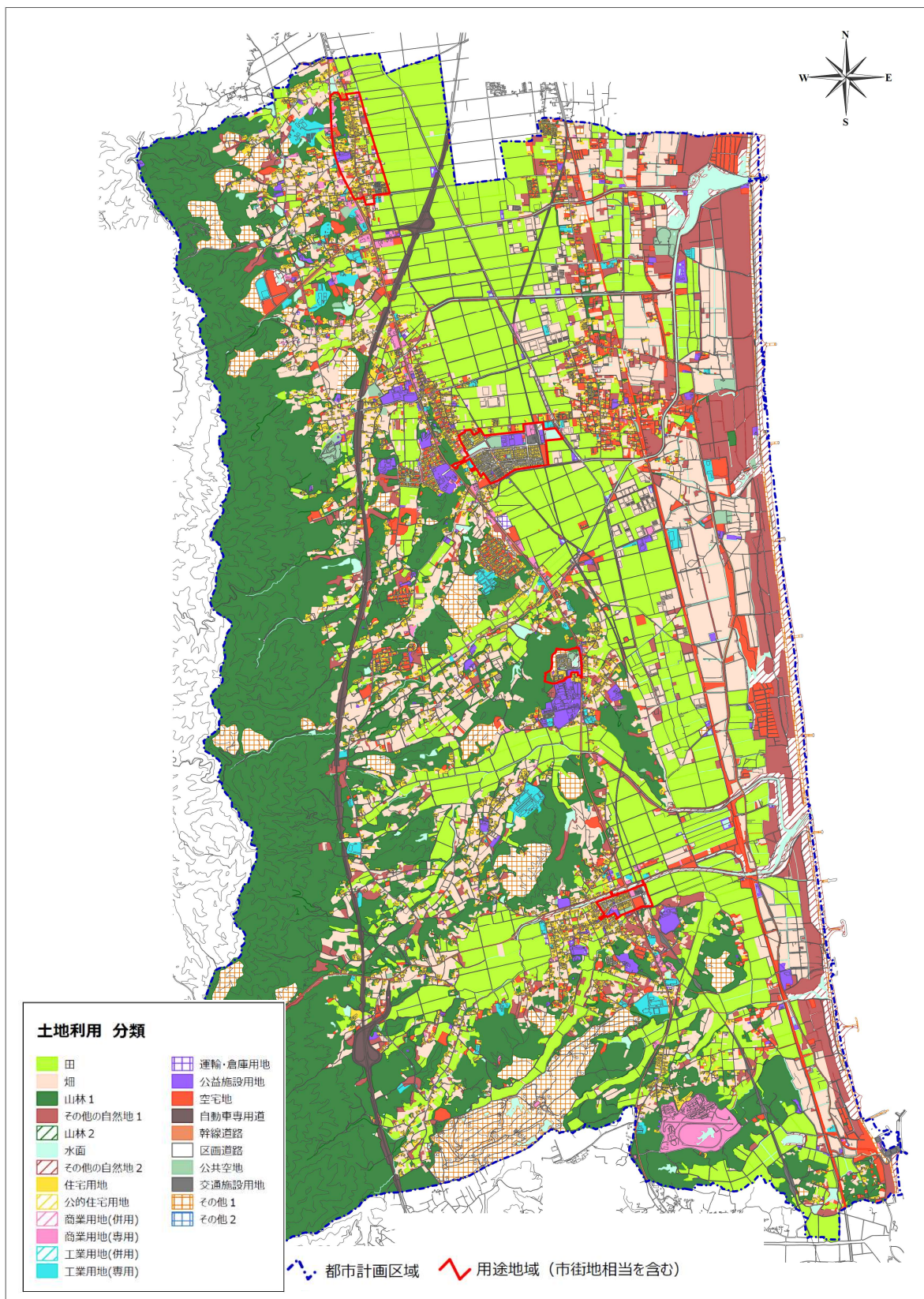
本町の土地利用は、自然的土地利用が81.1%(5,212ha)を占めています。平成25(2013)年と比較すると、自然的土地利用では山林が減少し水面が増加しており、都市的土地利用においては、住宅用地及び工業用地が増加している一方で、商業用地は減少しています。

土地利用現況

区分	分類	H31 面積 (ha)	H31 割合 (%)	H25 割合 (%)	備考		
■	田	1,510.26	23.50	23.08	水田		
	畑	855.34	13.31	12.08	畑、樹園地、採草地、養鶏(牛、豚)場		
	山林1	2,256.45	35.12	35.20	樹林地		
	その他自然地1	310.93	4.84	6.44	原野・牧野、荒地(耕作放棄地等自然的状況のもの)、低湿地、河川敷・河原、海浜、湖岸		
	未利用地計	4,932.98	76.77	76.81			
	水面	125.08	1.95	0.02	河川水面、湖沼、ため池、用水路、豪、運河水面		
	山林2	1.26	0.02	2.15	急傾斜の樹林地、防災危険区域、保存緑地等の樹林地		
	その他自然地2	152.68	2.38	1.87	低湿地、河川敷、河原、海浜		
	その他の緑地計	279.02	4.34	4.04			
	自然的土地利用計	5,212.00	81.11	80.85			
■	住宅用地	441.91	6.88	5.04	専用住宅、アパート、マンション、長屋、寮等の敷地		
	公共住宅用地	4.10	0.06	-	公営住宅の敷地		
	商業用地	専用商業	39.70	0.62	0.99	業務、商業、宿泊、娯楽、遊戯施設等の敷地	
		併用商業	2.46	0.04	0.20	店舗併用住宅、店舗併用共同住宅の敷地	
	工業用地	専用工業	73.97	1.15	0.62	重・軽工業、サービス工業、家内工業、危険物貯蔵、処理施設等の敷地	
		併用工業	20.13	0.31	0.03	作業所(工業施設、運輸・倉庫施設)併用住宅の敷地	
	運輸・倉庫用地	0.78	0.01	0.04	運送業、倉庫・荷とき場、トラックターミナル等の敷地		
	公益施設用地	71.93	1.12	1.15	官公庁、文教厚生施設、処理場、浄水場、火葬場、変電所、発電所等の敷地		
	宅地計	654.98	10.19	10.19			
	空宅地計	109.73	1.71	1.71	建物跡地等の都市的状況の未利用地、平面駐車場		
	■	■	自動車専用道	0.13	0.13	0.16	高速道路、自動車専用道路
			幹線道路	0.69	0.69	0.70	自動車専用道路以外の国道、県道、都市計画道路
			区画道路	4.04	4.04	4.05	自動車専用道路又は幹線道路以外の道路用地
		公共空地	12.76	0.20	0.28	公園・緑地、広場、運動場、墓園	
公共用地計	325.61	5.07	5.19				
交通施設用地	15.77	0.25	0.25	自動車ターミナル、立体駐車場、鉄道用地、空港、港湾			
その他1	105.06	1.63	1.65	防衛施設、ゴルフ場、急傾斜地(樹林地除く)、団地周辺造成法面			
その他2	2.68	0.04	0.04	大規模宅地開発事業地区内における造成中の土地			
都市的土地利用計	1,213.83	0.19	0.19				
合計	6,425.83	100.00	100.00				

出典：平成31年度巨理・山元地区都市計画基礎調査

土地利用現況図



出典：平成 31 年度巨理・山元地区都市計画基礎調査(山元町)

【東部地区土地利用計画】

東日本大震災により甚大な被害を受けた沿岸地域(牛橋区から磯区まで)を対象とした山元東部地区農地整備事業については、有効かつ計画的な土地利用を図るため、換地制度を活用し、被災した農地、宅地及び公共用地等の集約・再配置(整序化)を行い、令和4(2022)年度に完成しました。

本事業の実施により、持続可能な農業経営が可能となるとともに、排水機能の向上など防災面での機能強化が図られ、併せて地域振興に資する企業用地等としての土地利用が進められています。



大区画に整備された畑(1区画約8ha)



大区画に整備された水田(1区画約1ha)



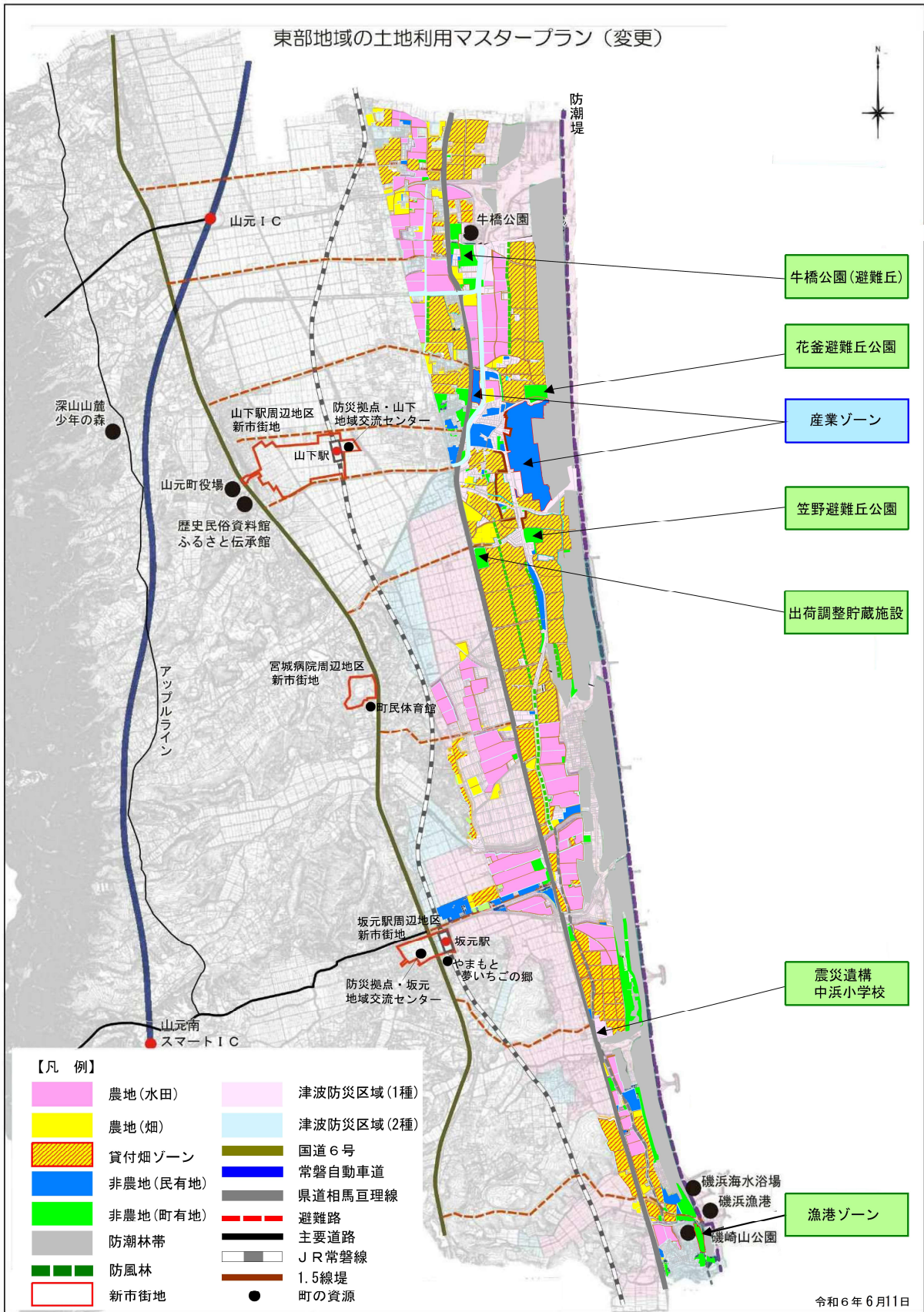
集約された企業用地(約27ha)



防災機能強化のため新設された排水機場
(戸花川排水機場)

出典：山元町公式HP

東部地区土地利用計画図



出典：山元町

【法規制】

本町における土地利用に関する法規制は、以下のとおりです。

土地利用規制一覧

項目	指定概要	規模等	指定日
県自然環境保全地域	・仙台湾海浜 (仙台市、名取市、岩沼市、 亶理町、山元町)	1,508 ha (区域全体)	指定 昭和 48 年 8 月 17 日 最終 昭和 61 年 4 月 30 日
緑地環境保全地域	・深山(角田市、山元町)	312 ha	指定 昭和 61 年 11 月 7 日 最終 昭和 61 年 11 月 7 日
保安林・地域森林計画対象民有林	・保安林	72.38 ha	
	・地域森林計画対象民有林	256.0 ha	
農業振興地域	・農業振興地域	5,507 ha	
	・農用地区域	(※)1,991 ha	
漁港区域	・第一種 磯浜	—	指定 昭和 26 年 12 月 13 日
河川区域	・二級河川 坂元川	6,563 m	
	・二級河川 戸花川	5,400 m	
海岸保全区域	・山元地区	7,990 m 189.7 ha	指定 平成 16 年 1 月 16 日
急傾斜地崩壊危険区域	・作田山	0.85 ha (実面積)	指定 平成 15 年 3 月 14 日
砂防指定地	・29 箇所	36.81 ha	指定 昭和 27 年 8 月 8 日 ～平成 21 年 12 月 25 日
津波防災区域	・第一種 (浸水深が概ね 3mを超える地区)	1,413 ha	指定 平成 23 年 11 月 11 日
	・第二種 (浸水深が概ね 2～3mの地区)	260 ha	指定 平成 23 年 11 月 11 日
	・第三種 (浸水深が概ね 1～2mの地区)	271 ha	指定 平成 23 年 11 月 11 日

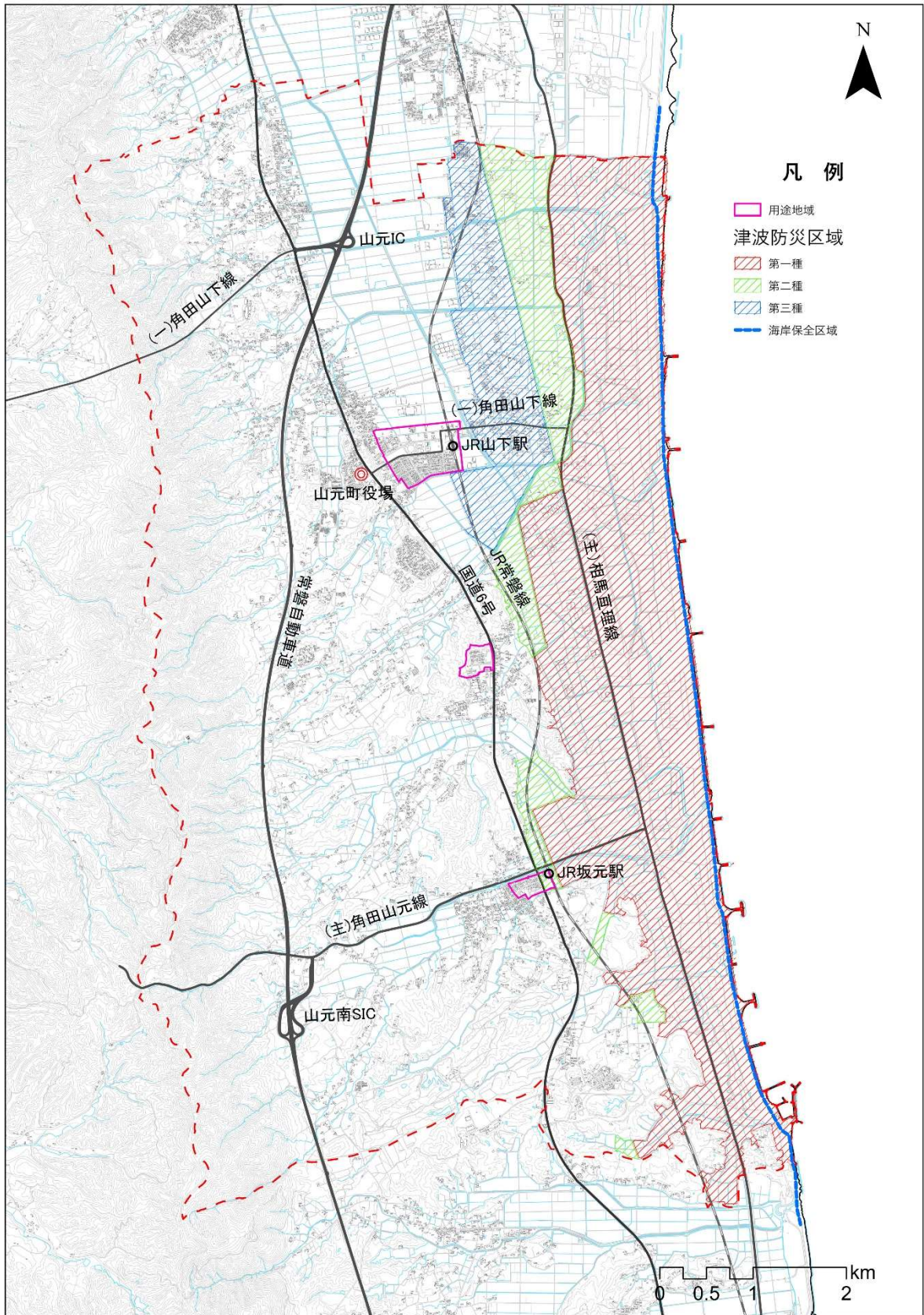
(※)令和 7 年度山元農業振興地域整備計画では、農用地の面積は 1,603ha に見直されています。

出典：平成 31 年度亶理・山元地区都市計画基礎調査、津波防災区域(山元町)

津波防災区域ごとの制限内容

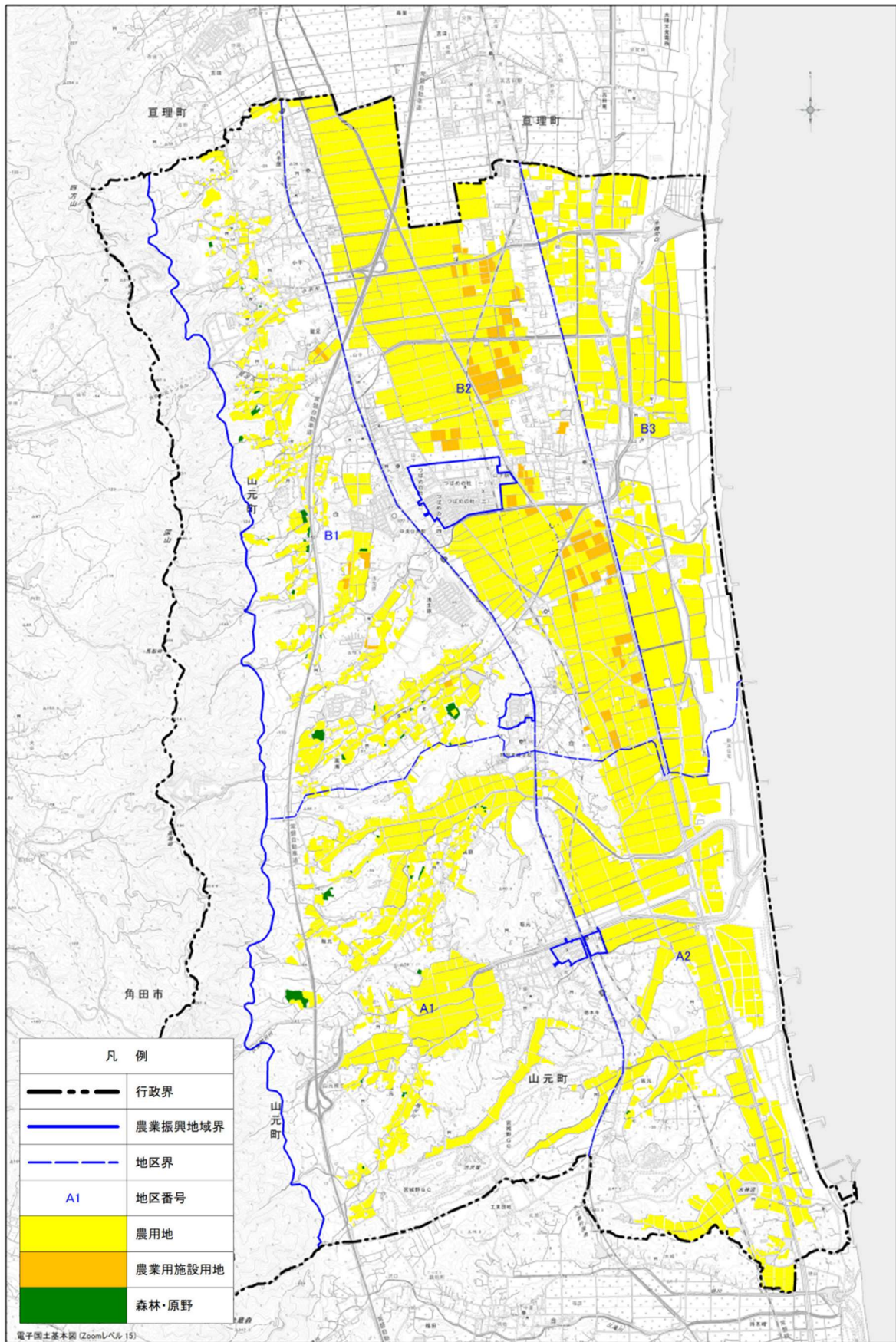
種別	制限内容	第二種、第三種区域における建て方
第一種	居住用の建築物の建築禁止	
第二種	道路面から基礎の上端の高さ 1.5m以上とした住宅は建築可	
第三種	道路面から基礎の上端の高さ 0.5m以上とした住宅は建築可	

津波防災区域図



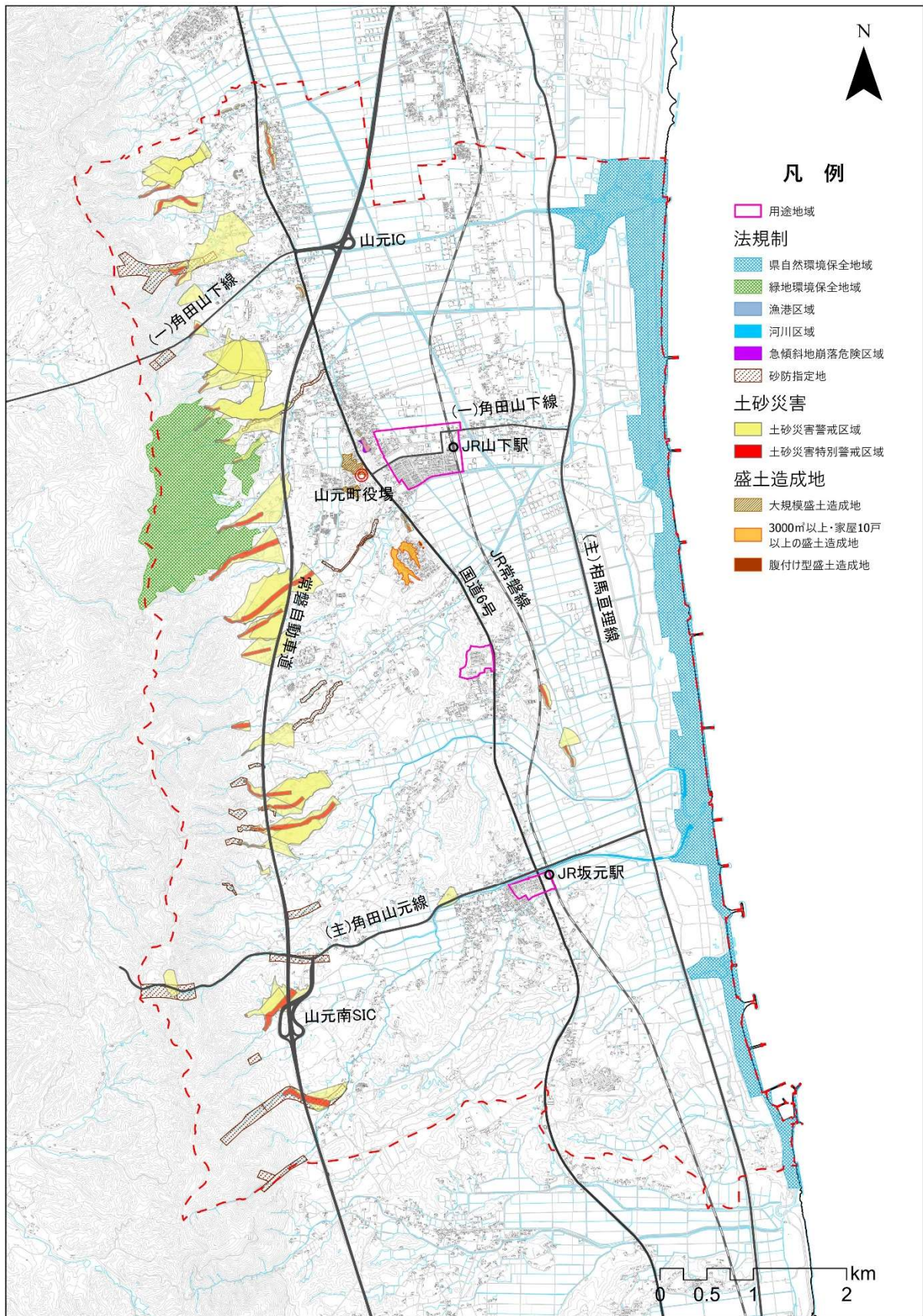
出典：平成 31 年度亘理・山元地区都市計画基礎調査

農業振興地域、農用地位置図



出典：山元農業振興地域整備計画(令和7年 11 月)

その他の法適用状況



出典：平成 31 年度亘理・山元地区都市計画基礎調査、国土数値情報、山元町

【開発動向】

平成 27(2015)年から令和 6(2024)年までの期間における開発許可の件数は、合計 18 件となっています。

開発許可の用途を見ると、震災復興に関連する住宅地及び商業地を除いた場合、工業用地に係る開発許可が多数を占めており、特に山下地域の I C 周辺の国道 6 号沿線や、JR 常磐線沿線、主要地方道相馬亘理線沿線において多くの整備が進められています。

※平成 31(2019)年度亘理・山元地区都市計画基礎調査において、許可権者が「その他」とされている項目及び、仙台土木事務所が許可した 2 箇所の工業用地については、開発区域面積の記載がないことから、本集計には含めていません。なお、「その他」に区分されている項目は、震災復興関連事業に該当するものです。

開発許可状況（平成 27 年～令和 6 年）

用途	住宅	商業	工業	農林漁業	合計
面積(ha)	19.9	0.4	20.1	0.0	40.4
件数(件)	6	1	11	0	18

出典：平成 31 年度亘理・山元地区都市計画基礎調査、山元町

【新築動向】

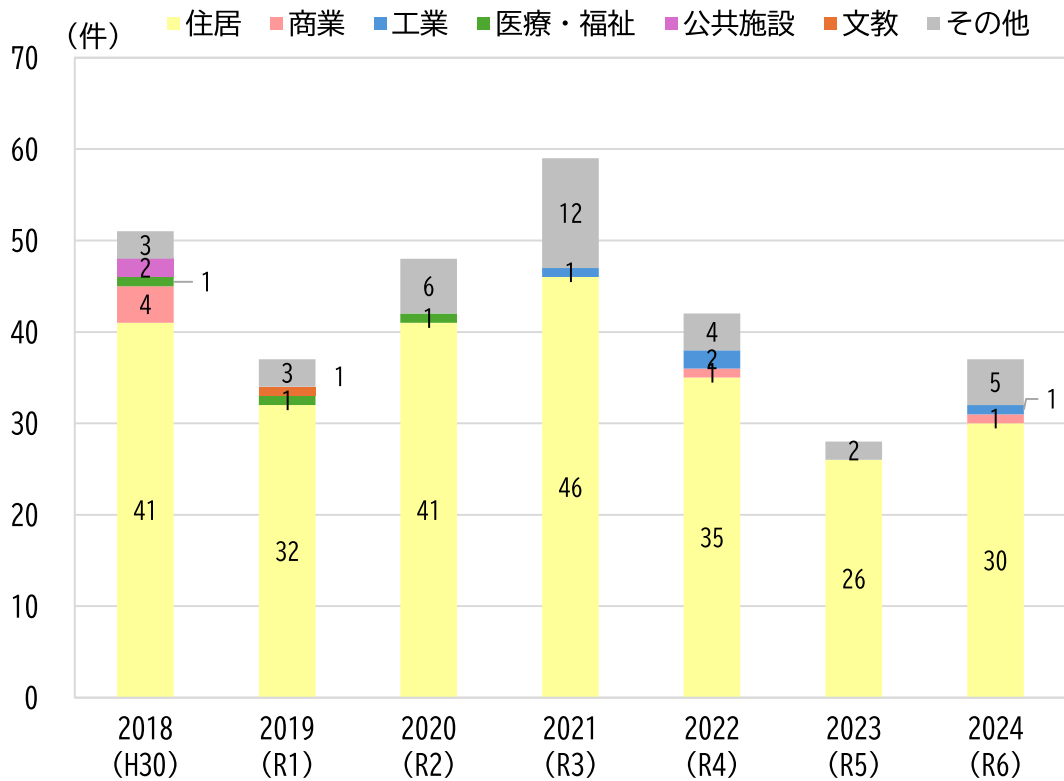
新築動向について見ると、直近7年間では令和5(2023)年の28件が最も少なく、最多であった令和3(2021)年の59件と比較すると、約半数に減少しています。

用途別に見ると、住居用途が大きな割合を占めており、次いでその他(物置、車庫、作業場等)の用途が多くなっています。

「その他」を除く住居以外の用途では、「商業」用途が最も多く、平成30(2018)年には4件確認されています。一方、令和5(2023)年においては、住居及びその他を除く用途の新築は確認されていません。

次頁の新築物向図を見ると、役場周辺の作田山団地や太陽ニュータウン、旧山下駅周辺を中心に、新築建築物が多く分布しています。

新築動向（用途別の推移）



出典：山元町

【農地の転用状況】

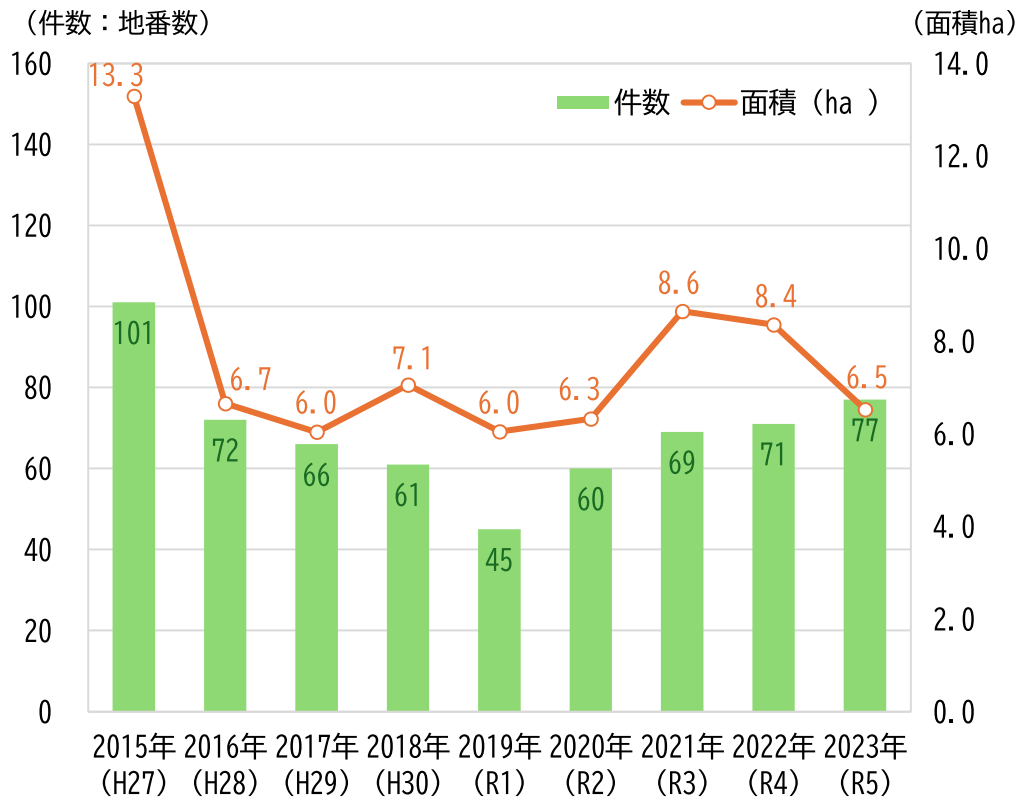
平成 27(2015)年度から令和 5 (2023)年度までの農地転用件数の合計は、385 件となっています。転用後の用途を見ると、「その他」の用途が大きな割合を占めており、その中でも太陽光発電設備の設置を目的とした転用が多くを占めています。

年代別(※)に見ると、平成 27(2015)年度が 101 件(13.3ha)と最も多く、一方で、最も少ないのは令和元(2019)年度の 45 件(6ha)となっています。その後、件数は増加傾向を示していますが、転用面積については令和 3 (2021)年度以降、減少傾向に転じており、令和 5 (2023)年度では 77 件(6.5ha)となっています。

※年代別の件数については、申請件数の正確な把握が困難であることから、地番数を基に集計しています。

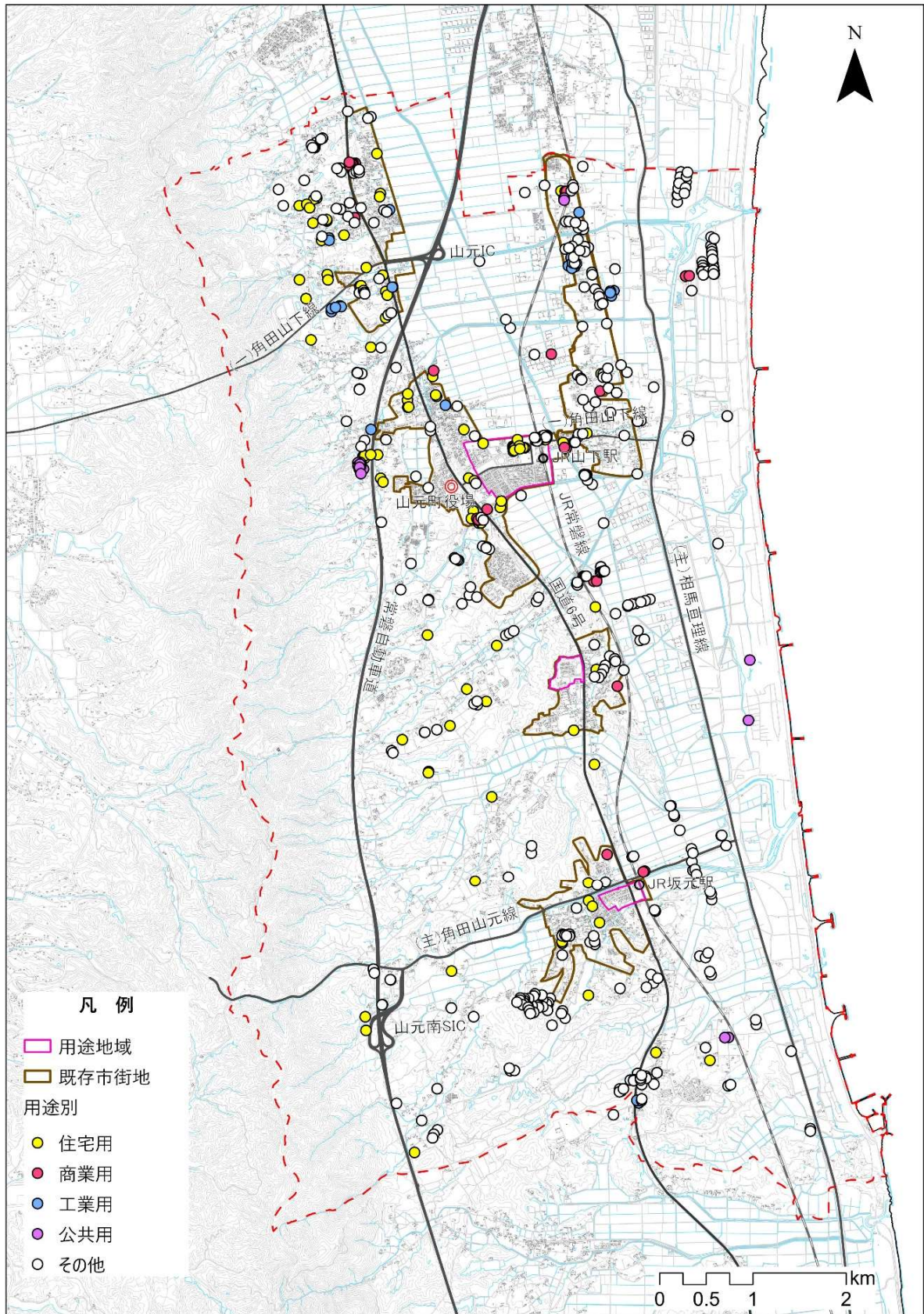
農地の転用状況 (H27~R5 年度)

用途	面積(ha)	件数(申請数)	1件当たりの規模(m ² /件)	用途の詳細
住宅用	4.3	87	493	居宅、共用住宅等
商業用	2.5	19	1,299	店舗、商品置き場等
工業用	3.1	16	1,960	工場、従業員駐車場等
公共用	1.8	6	2,999	少年の森改修、集会所等
その他	57.2	257	2,227	太陽光発電、土砂採取等
合計	68.9	385	1,790	



出典：山元町

農地の転用状況(用途別)



出典：山元町

【空き家の状況】

令和6(2024)年3月に策定した山元町空家等対策計画に基づき、空き家の分布状況を整理しました。

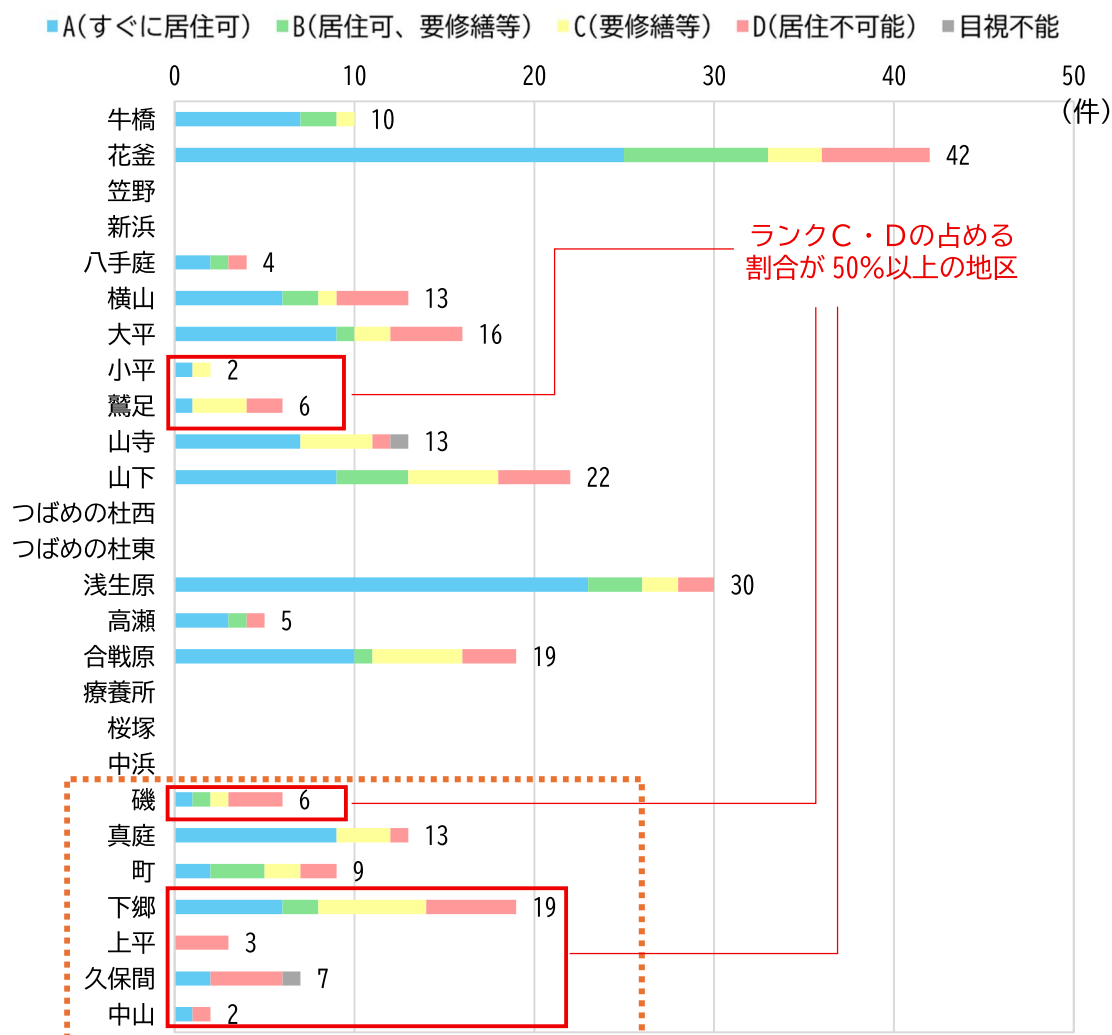
空き家は、山下地域では花釜区や浅生原区(太陽ニュータウン)に多く、坂元地域では下郷区(坂元新市街地の西側)に多く見受けられます。空家等対策計画に基づく状況判定によると、直ちに居住可能なランクAの割合が高い状況にあります。

一方、ランクCまたはランクDが占める割合が半数以上となっている地区は、山下地域と比較して坂元地域に多い傾向が見られます。

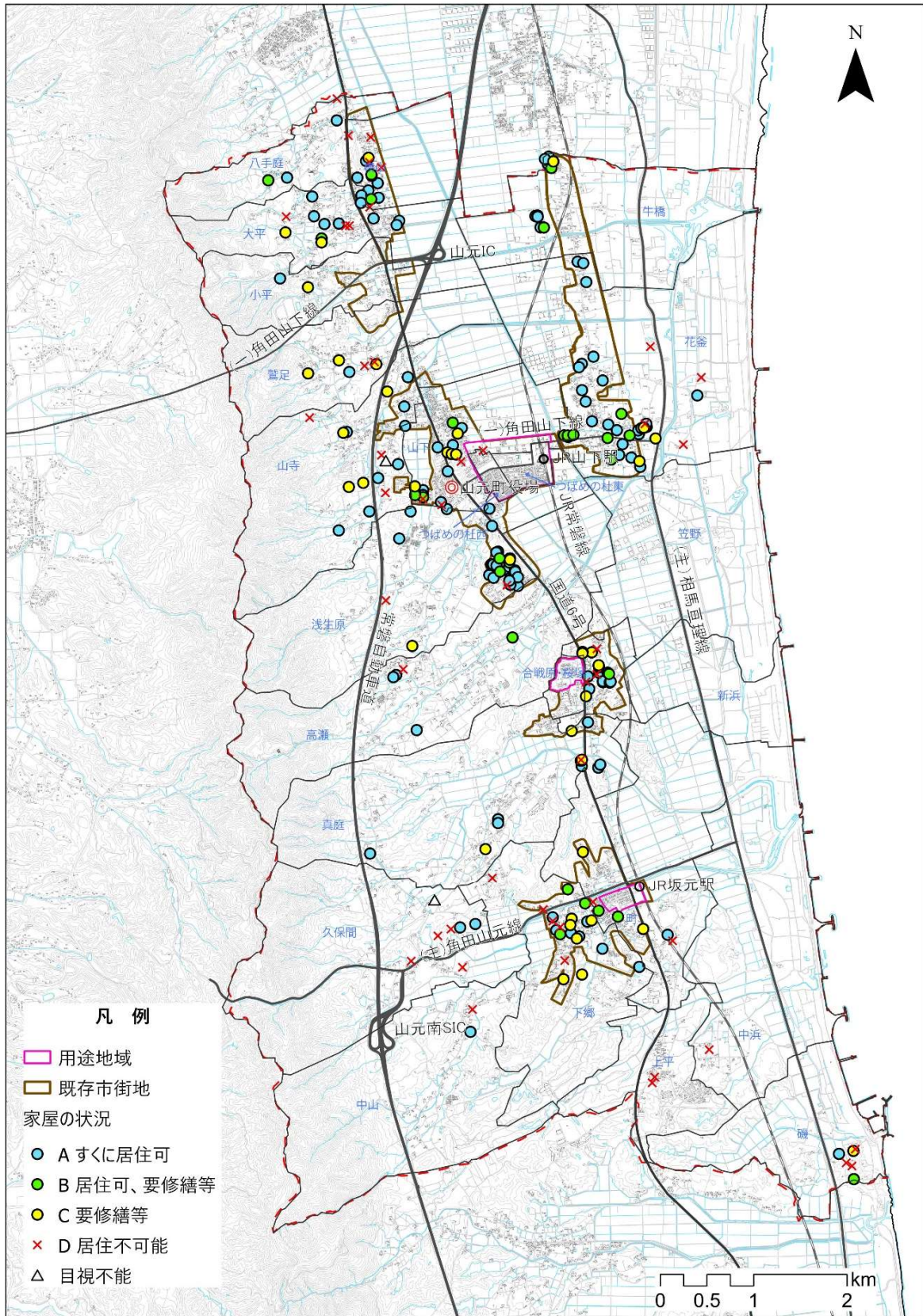
家屋の状況判定のランクと判定内容

ランク	判定内容	件数
A	すぐに居住できる状態	124
B	居住できる状態ではあるが簡単な修繕または手入れが必要	29
C	修繕又は手入れを行えば居住できる状態	39
D	居住不能またはかなりの修繕を行わなければ居住できない状態	47
判定不能	敷地外からの目視調査の際に、建物の状態が視認できないもの	2
		計 241

空き家分布数(行政区別)



空き家の分布図(行政区別)



出典：山元町

(4) 都市交通

本町には、鉄道(JR 常磐線)、タクシー、町民バス等(町民バス、デマンド型乗合タクシー)による地域公共交通が整備されています。

また、これらに加えて、スクールバス、福祉有償運送、病院や商業施設による送迎サービスなど、様々な移動手段が地域の移動資源として活用されています。

地域公共交通の運行状況

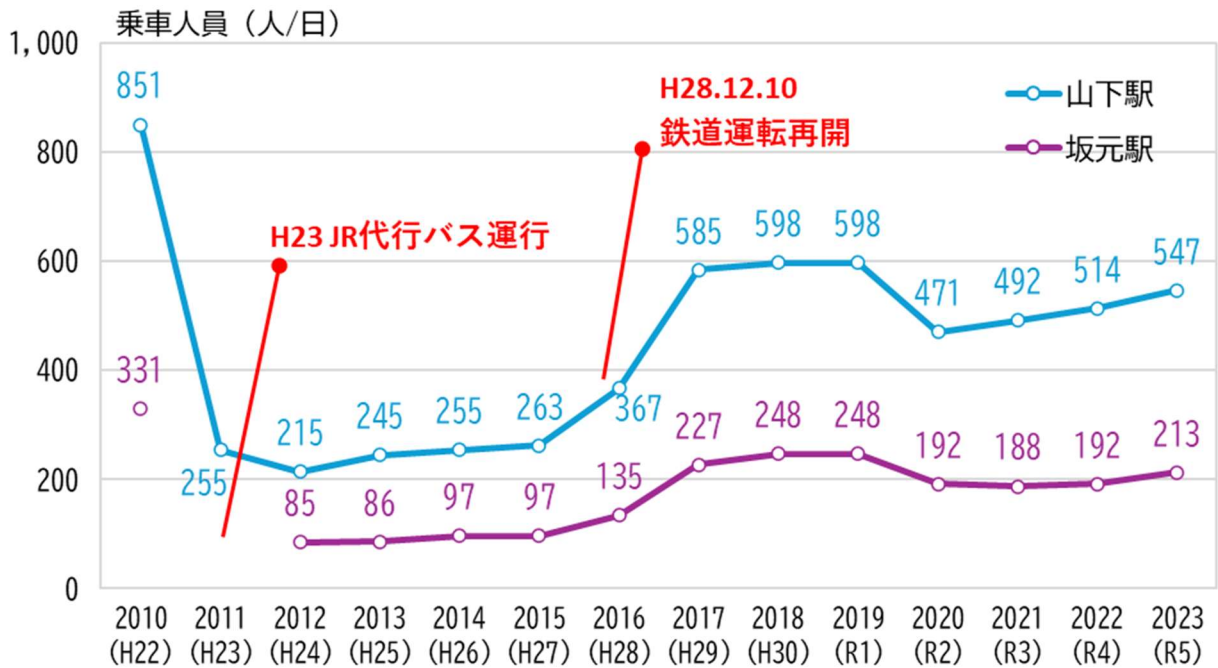
種類	概要
鉄道	JR 常磐線
町民バス(地域公共交通事業)	定時定路線
デマンド型乗合タクシー (地域公共交通事業)	利用者の乗合いにより運行
タクシー	町内のタクシー事業者
その他の移動資源	スクールバス、福祉有償運送、 介護タクシー、福祉・生活サービス

【鉄道の利用者数の推移】

鉄道については、本町と岩沼・仙台方面、並びに原ノ町・いわき方面を結ぶ JR 常磐線が町域を南北に縦貫しており、町内には山下駅と坂元駅の2駅が設置されています。

JR 常磐線の利用者数は、平成 28(2016)年の鉄道運転再開以降、増加傾向を示しています。令和元(2019)年から令和2(2020)年にかけて(坂元駅については令和3(2021)年まで)見られる一時的な減少は、新型コロナウイルス感染症によるものと考えられます。その後は、利用者数は緩やかに増加へと転じています。

鉄道乗車人員の推移



出典：山元町統計書、JR 東日本 HP

【町民バス及びデマンド型乗合タクシー】

本町では、地域公共交通事業として、定時定路線型の町民バス及び区域運行型のデマンド型乗合タクシーを運営しています。

町民バスは、運行開始当初の平成 11(1999)年度から平成 22(2010)年度までの間、6 路線・1 日 14~15 便を 2 台体制で運行していました。

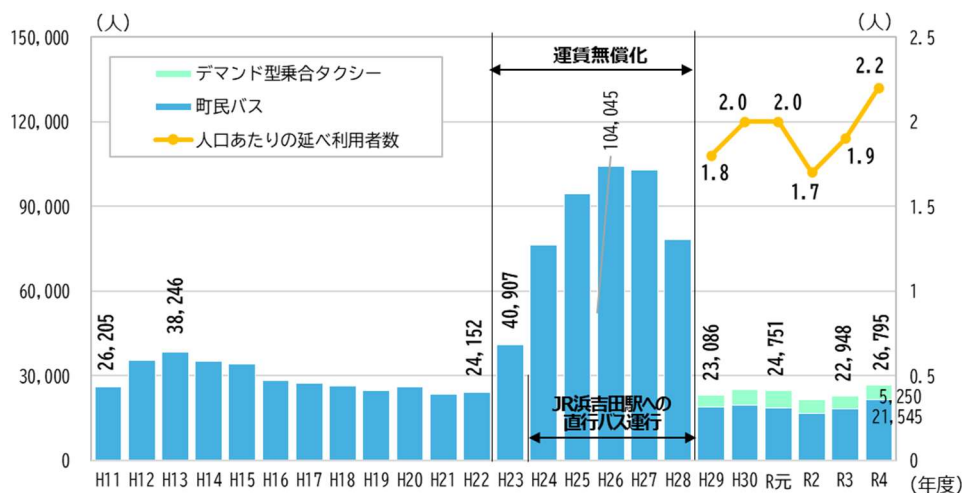
東日本大震災後の平成 23(2011)年度には、2 路線、各路線 1 日 8 便を 2 台体制で運行し、平成 24(2012)年度以降は、最大 5 路線・1 日 55 便に拡充するとともに、JR 浜吉田駅への直行バスとして 1 路線・1 日 21 便を 5 台体制で運行しました。これらの運行拡充に加え、運賃無償化措置の影響もあり、平成 23(2011)年度から平成 28(2016)年度にかけては、利用者数が際立って高い水準で推移しました。

その後、利用者の需要に応じて運行するデマンド型乗合タクシーのサービスを開始しましたが、町民バスの利用者数と合わせた全体の利用者数は、震災前の町民バス利用者数と概ね同程度で推移しています。

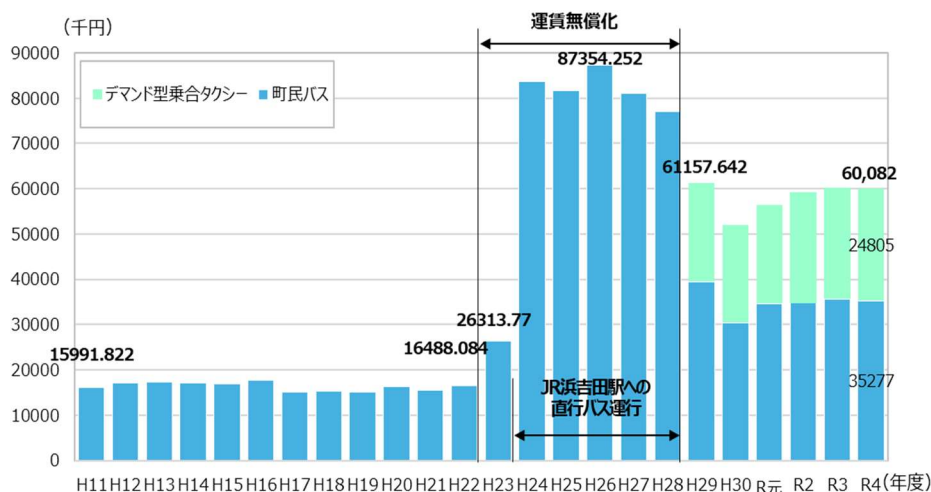
また、運行経費は、震災前の平成 22(2010)年度と比較して、約 3.5 倍に増加しています。

※令和 7(2025)年 1 月から町民バス「予約運行型(予約便・通学便)」及び「定期運行型」に名称を変更
 運行経費は、車両購入(備品購入費)を除いた金額

町民バス等の延べ利用者数・人口あたりの延べ利用者数の推移



町民バス等の運行経費の推移



出典：山元町地域公共交通計画(令和 7 年 7 月)

■町民バスの概要

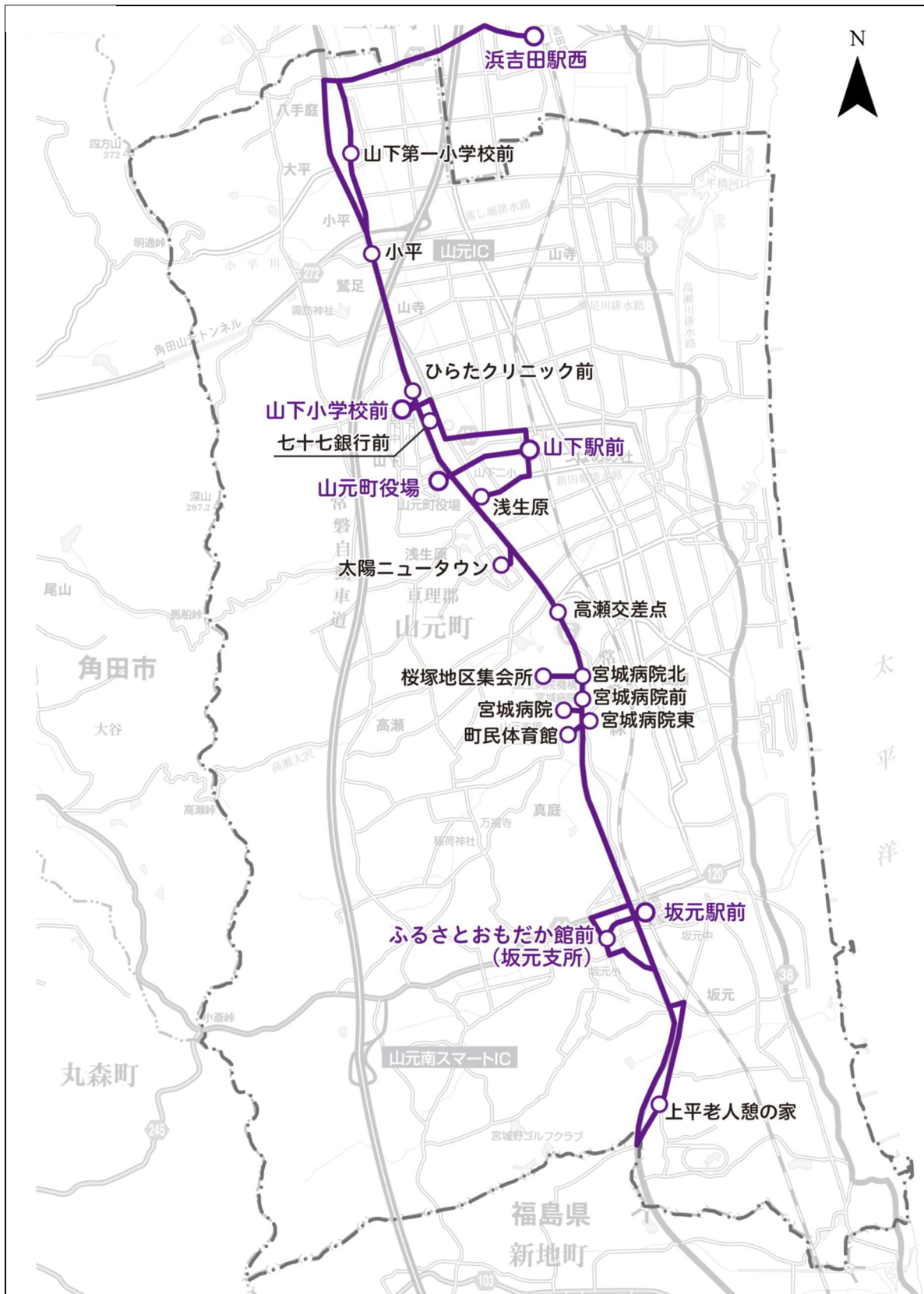
町民バスは、あらかじめ定められた運行ルート及び時刻に基づいて運行する、定期運行型の路線バスです。

- ・運行日：月～金曜日(土・日・祝、12月29日～1月3日運休)
- ・運行便数：1日5便運行
- ・運行路線：次頁路線図参照
- ・運賃：現金又は回数券

種別		一般	小中高生、75歳以上、 障害者等	障害者等 (小中高生・75歳以上)
普通運賃		300円	100円	50円
回数券		3,000円 (300円券×11枚)	1,000円 (100円券×11枚)	500円 (50円券×11枚)
定期券	1か月	6,000円	2,000円	1,000円
	3か月	18,000円	6,000円	3,000円
	6か月	36,000円	12,000円	6,000円

出典：山元町の地域公共交通(令和7年1月版)より編集

定期運行型町民バス路線図



出典：山元町の地域公共交通(令和7年1月版)

■予約運行型町民バスの概要

予約運行型町民バスには、一般利用を対象とした「通常便」と、小中学生を対象とした「通学便」があります。町内在住で、事前の利用登録を行った方が利用できます。

【通常便】

希望する便を予約して、他の予約者との乗合により、「自宅前」から「指定乗降場所」まで、または「指定乗降場所間」の移動に利用可能です。

- ・運行日：月～金曜日(土・日・祝、12月29日～1月3日運休)
- ・運行便数：1日6便運行

午前便				午後便	
1便	2便	3便	4便	5便	6便
8:30 発	9:30 発	10:30 発	11:30 発	13:30 発	14:30 発

- ・運行区域：町内全域(自宅前⇄指定乗降場所、指定乗降場所間)
- ・運賃

種別	一般	小中高生 75歳以上	障害者等	障害者等 (小中高生・75歳以上)
普通運賃	300円	100円	100円	50円
回数券	3,000円 (300円券×11枚)	1,000円 (100円券×11枚)	1,000円 (100円券×11枚)	500円 (50円券×11枚)

出典：山元町の地域公共交通(令和7年1月版)より編集

【通学便】

希望する便を予約して、他の予約者との乗合により、「バス停留所」と「学校」間等の移動に利用できます。

- ・運行日：月～金曜日(土・日・祝、12月29日～1月3日運休)
- ・運行便数：1日2便運行(登校便、下校便)

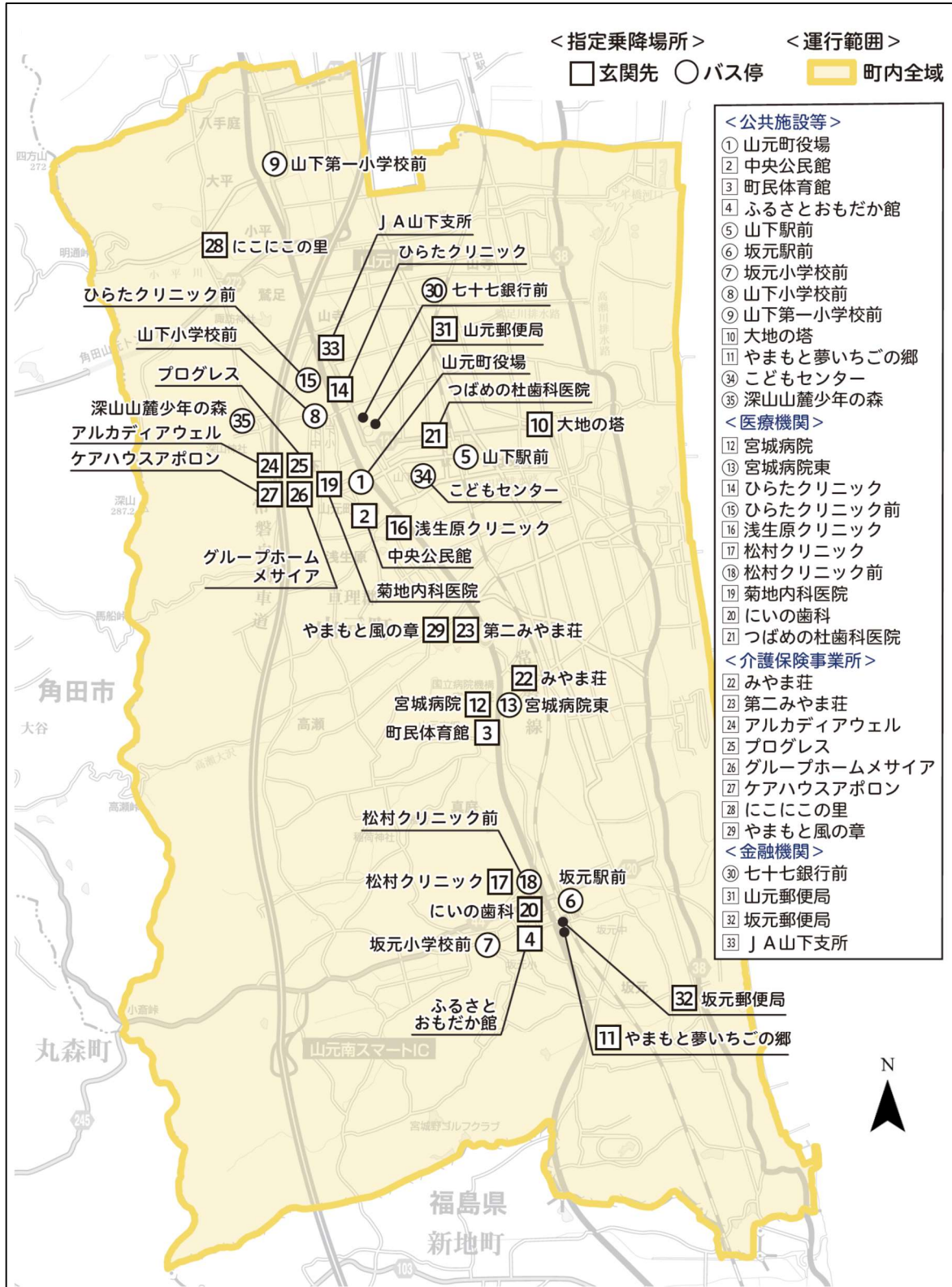
午前便	午後便	
登校便	下校便	※運行時刻は利用登録状況に応じて決定
7:00 発	15:30 発	※運行時刻は利用登録者に通知

- ・運行区域：利用登録時に指定したバス停留所と対象の学校間
- ・運賃(障害のある方及びその介助人は半額(手帳の提示が必要))

種別	小中学生	
普通運賃	100円	
回数券	1,000円 (100円券×11枚)	
定期券	1か月	2,000円
	3か月	6,000円
	6か月	12,000円

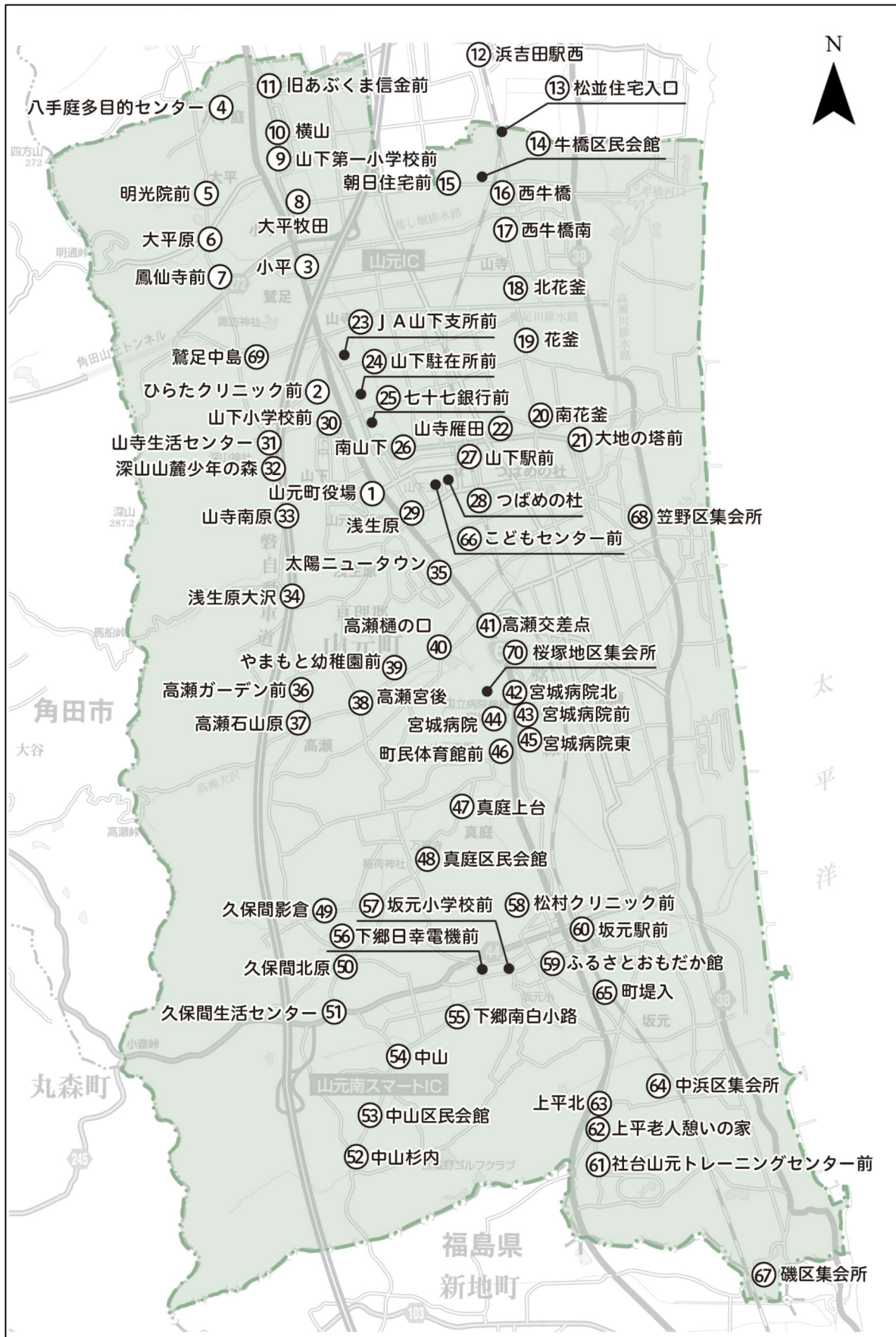
出典：山元町の地域公共交通(令和7年1月版)より編集

予約運行型町民バス(通常便) 指定乗降場所



出典：山元町の地域公共交通(令和7年1月版)

予約運行型町民バス(通学便) 利用可能なバス停留所



出典：山元町の地域公共交通(令和7年1月版)

(5) 都市機能

生活サービス施設(都市機能)の立地状況について整理します。整理する項目は、以下のとおりです。

生活サービス施設(都市機能)の項目

項目	施設内容
商業施設	スーパーマーケット、ホームセンター、ドラッグストア、コンビニエンスストア、商店、その他
金融施設	銀行、郵便局、農協
教育・子育て施設	小学校、中学校、幼稚園・保育所、子育て支援施設、その他の学校(山元支援学校)
医療施設	総合病院、一般病院、歯科
介護・福祉施設	介護サービス、介護事務所、高齢者居宅サービス、サービス付き高齢者住宅
行政・コミュニティ施設	公共施設、集会所

【商業施設】

施設区分	施設名称	住所
スーパーマーケット	フレスコキクチ山下駅前店	つばめの杜 1-9
商店等	山中商店	大平字小屋前 30-7
	肉と油彩のわくわく市場	山寺字石田 20-1
	魚やたけだ	山寺字山下 94
	レストランわか菜	山寺字樋前 31
	侷総合衣料森屋	山寺字山下 73
	有限会社鈴や	山寺字山下 31-2
	Brot Dorf(ブロードルフ)	山寺字町東 63-2
	E/L cafe-au lait	浅生原字作田山 2-63
	清水商店	浅生原字日向 45-1
	お弁当深山	浅生原字上新井田 95-1
	杜のかまど	高瀬字東石山原 46
	やまもと夢いちごの郷	坂元字荒井 183-1
	花坂魚店	坂元字町 39-1
	総合衣料いづみや	坂元字館下 63-4
森薬局	坂元字町 56	
ホームセンター	コメリハード&グリーン山元店	小平字北 20-1
	DCMニコット山元店	山寺字桜木 169-1
	ワタキPRO	山寺字新清水 35
ドラッグストア	ツルハドラッグ宮城山元店	山寺字石田 45-1
	薬王堂山元SC店	つばめの杜 1-6
コンビニエンスストア	ファミリーマート宮城山元インター店	小平字北 20-4
	ローソン山元町山寺店	山寺字石田 21-1
	セブンイレブン山元高瀬店	高瀬字紅葉 87
	ヤマザキデイリーストア山元町店	高瀬字合戦原 51-23
	ローソン坂元駅前店	坂元字町東 31-1
	ローソン亘理山元店	坂元字上平北 1-1
その他	ヘアサロン道化師	大平字牧田 2-1
	髪・切りハウスつじ	つばめの杜 3-17-12
	ヘアサロンたけだ	高瀬字合戦原 113-1
	こばやし美容室	坂元字道合 69-1
	さとう美容室	坂元字館下 97-1

【金融施設】

施設区分	施設名称	住所
郵便局	山下横山簡易郵便局	大平字横山 36
	山元郵便局	山寺字山下 39-2
	山下東簡易郵便局	山寺字頭無 161-1
	宮城病院内簡易郵便局	高瀬字合戦原 100
	坂元郵便局	坂元字町東 31-1
銀行	七十七銀行 山下支店	山寺字山下 64-52
農協	J Aみやぎ亘理 山下支店	山寺字赤坂 53
	J Aみやぎ亘理 坂元支店	坂元字町東 1-53

【教育・子育て施設】

施設区分	施設名称	住所
子育て支援	山元町こどもセンター	つばめの杜 1-2
幼稚園・保育所等	学校法人やました学園ふじ幼稚園	山寺字上西田 123
	山元町立つばめの杜保育所	つばめの杜 1-2
	なないろ保育園(小規模保育園)	つばめの杜 3-13-2
	学校法人山元中央学園やまもと認定こども園	高瀬字竹の内原 41
	宮城病院つくし保育園(事業所内保育所)	高瀬字合戦原 100
小学校	山元町立山下第一小学校	大平字握 6
	山元町立山下小学校	山寺字樋前 12
	山元町立山下第二小学校	つばめの杜 1-3
	山元町立坂元小学校	坂元字館下 159-1
中学校	山元町立山元中学校	山寺字畑中 29
支援学校	宮城県立山元支援学校	高瀬字合戦原 100-2

【医療施設】

施設区分	施設名称	住所
総合病院	独立行政法人国立病院機構 宮城病院	高瀬字合戦原 100
診療所	菊地内科医院	浅生原字作田山 2-72
	ひらたクリニック	山寺字石田 21-3
	松村クリニック	坂元字道合 37
	浅生原クリニック	浅生原字日向 20-2
歯科	にいの歯科	坂元字道合 39-1
	つばめの杜歯科医院	つばめの杜 1-5-2

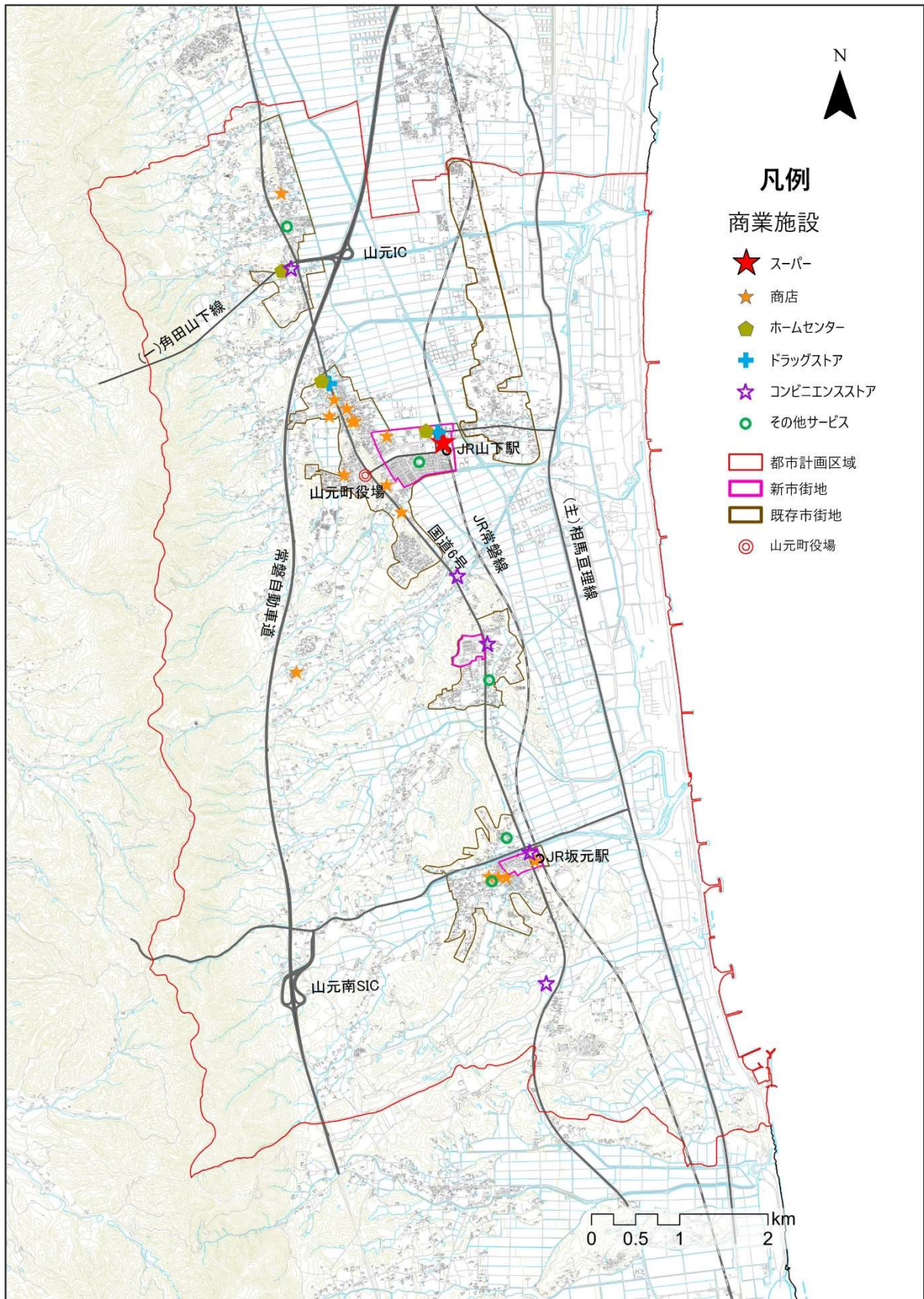
【介護・福祉施設】

施設区分	施設名	所在地
介護サービス	デイサービスえん	山寺字畑中 10-7
	アルカディアウエル	山寺字堤山 8-5
	山元町デイサービスセンター知楽荘	高瀬字合戦原 111-82
	さくらデイサービス	高瀬字合戦原 54-2
	デイサービスひまわり	高瀬字合戦原 100-41
	すみれデイサービス	坂元字町 44-1
	やまもと訪問看護ステーション	高瀬字合戦原 54-2
	風の章ヘルパーステーション	高瀬字合戦原 100-41
	独立行政法人国立病院機構宮城病院 訪問看護ステーション「かけはし」	高瀬字合戦原 100
	山元町社会福祉協議会 定訪問介護事業所	真庭字名生東 119-1
	株式会社ニチイ学館 ニチイケアセンター山下	山寺字山下 32
介護事業所	指定居宅介護支援事業所ランディング	山寺字堤山 8-5
高齢者居宅 サービス	グループホームメサイア	山寺字堤山 8-3
	ケアハウスアポロン	山寺字堤山 8-3
	特別養護老人ホームみやま荘	高瀬字合戦原 111-11
	特別養護老人ホーム第二みやま荘	高瀬字合戦原 100-40
サービス付き 高齢者住宅	にこにこの里	小平字北ノ入 56-2
	やまもと風の章	高瀬字合戦原 100-41

【行政・コミュニティ施設】

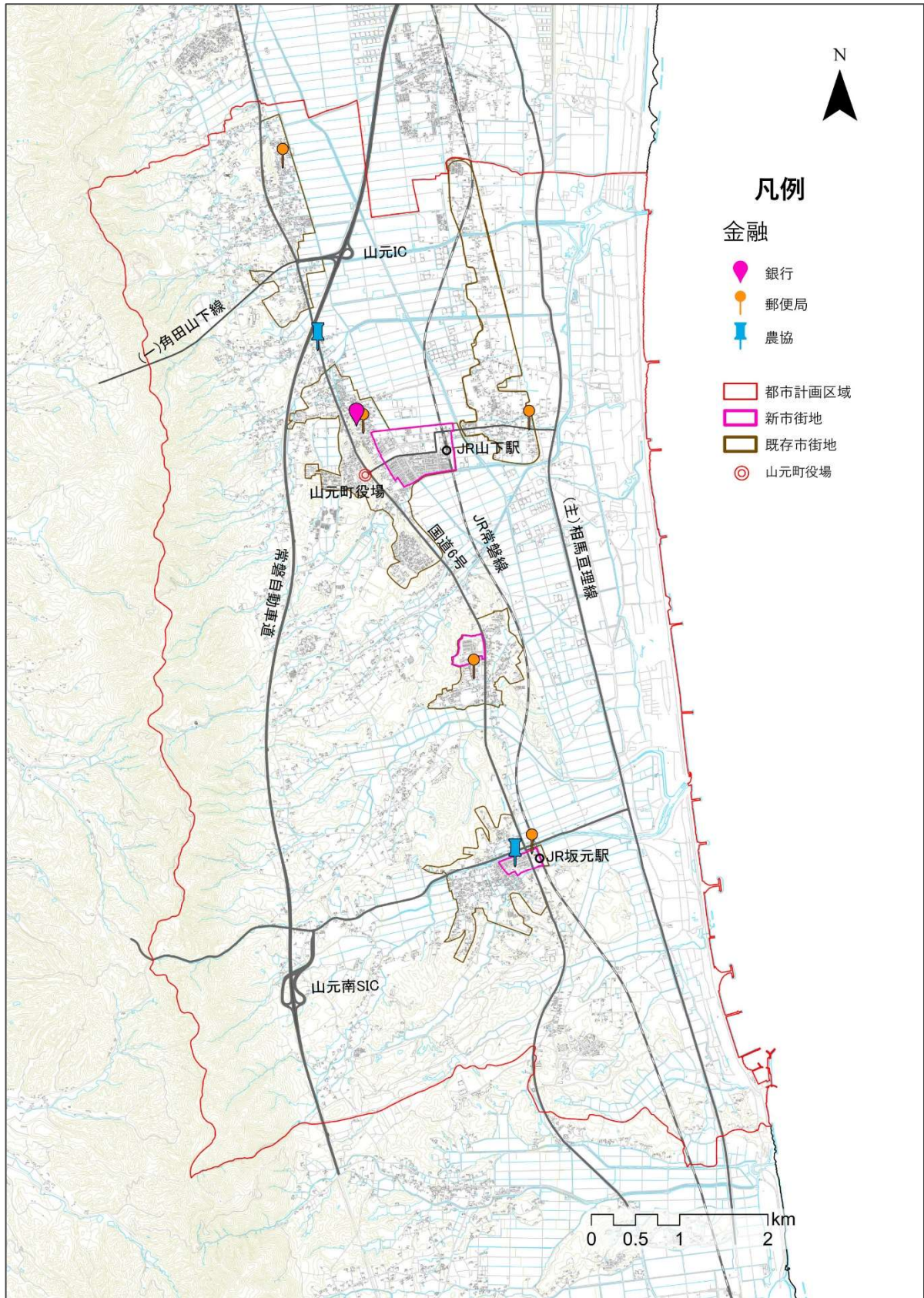
施設区分	施設名称	住所
行政	山元町役場	浅生原字作田山 32
	坂元支所(坂元地域交流センター内)	坂元字町東 1-60
公民館・集会場	中央公民館	浅生原字日向 12-1
	つばめの杜東集会所(つばめの杜東区)	つばめの杜 3-18
	つばめの杜西集会所(つばめの杜西区)	つばめの杜 4-28
	花釜区交流センター(花釜区)	山寺字北頭無 66-11
	牛橋区民会館(牛橋区)	山寺字西牛橋 41-44
	真庭区民会館(真庭区)	真庭字原 65-1
	中浜区集会所(中浜区)	坂元字中永窪 36-31
	横山老人憩の家(横山区)	八手庭字横山 47-3
	大平生活センター(大平区)	大平字清水 25-2
	小平老人憩の家(小平区)	小平字館 13-2 外
	鷲足公会堂(鷲足区)	鷲足字中島 55-2
	山寺生活センター(山寺区)	山寺字谷原 89-3
	山下生活センター(山下区)	山寺字石田 44-4
	浅生原公会堂(浅生原区)	浅生原字新宮前 21
	高瀬農村集落多目的センター(高瀬区)	高瀬字竹の内原 53
	合戦原学童(合戦原区)	高瀬字合戦原 30-5
	桜塚集会所(桜塚自治会)	高瀬字合戦原 100-17
	久保間生活センター(久保間区)	坂元字上作内 13
	中山区民会館(中山区)	坂元字熊の堂 16-1
	下郷区公会堂(下郷区)	坂元字館下 93-3
	町老人憩の家(町区)	坂元字町 58-1
	上平老人憩の家(上平区)	坂元字下原 30-1
磯区集会所(磯区)	坂元字木ノ岡 34-1	
笠野地区集会所(笠野区)	高瀬字西北谷地 129-24	
八手庭農村集落多目的センター(八手庭区)	八手庭字北向 38	
その他	勤労青少年ホーム	浅生原字日向 12-1
	山元町防災拠点・山下地域交流センター (つばめの杜ひだまりホール)	つばめの杜 1-8-8
	山元町民体育館・町民グラウンド	高瀬字合戦原 100-1
	山元町防災拠点・坂元地域交流センター (ふるさとおもだか館)	坂元字町東 1-60

商業施設の位置図



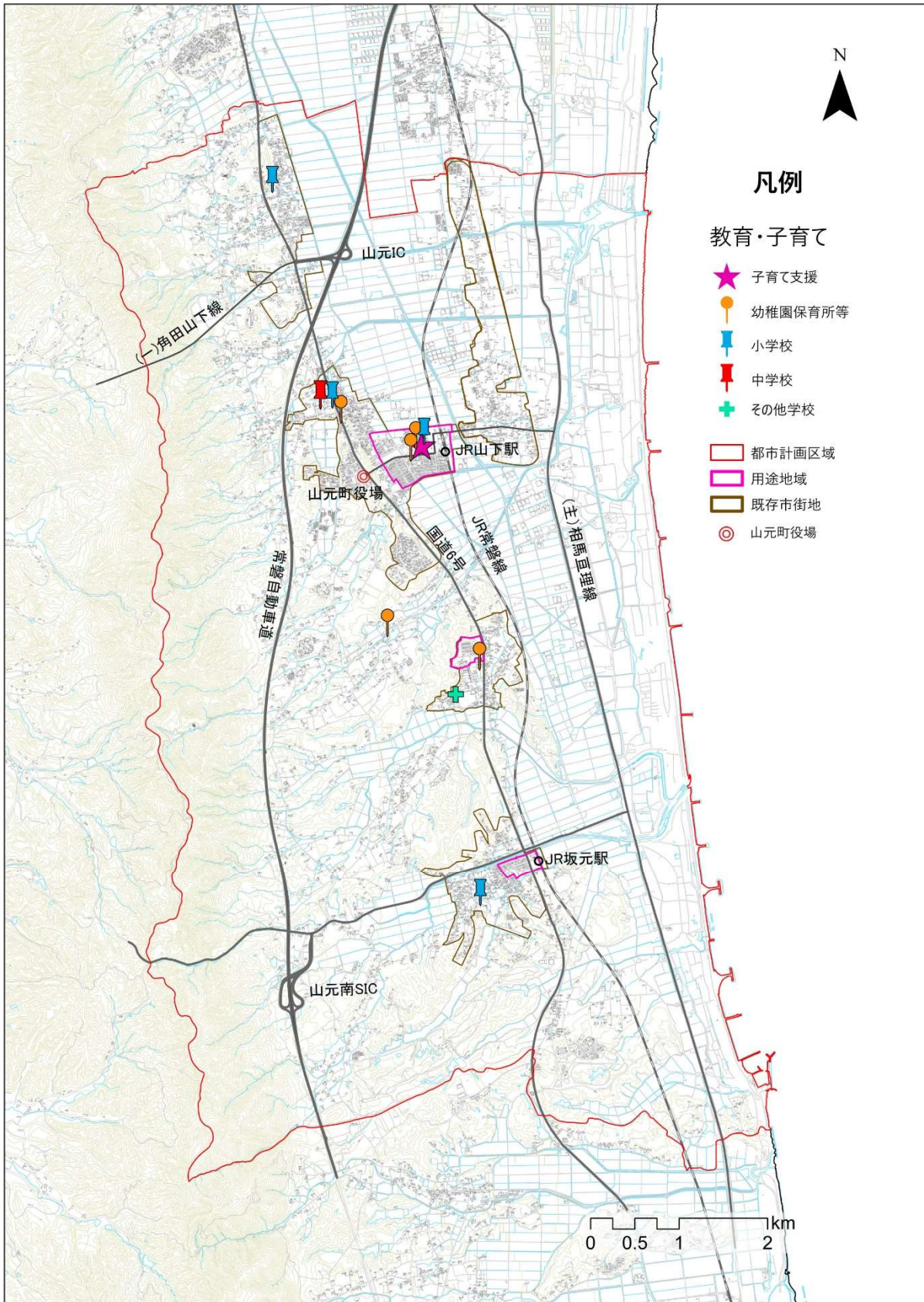
参考資料：オンライン地図サービス

金融施設の位置図



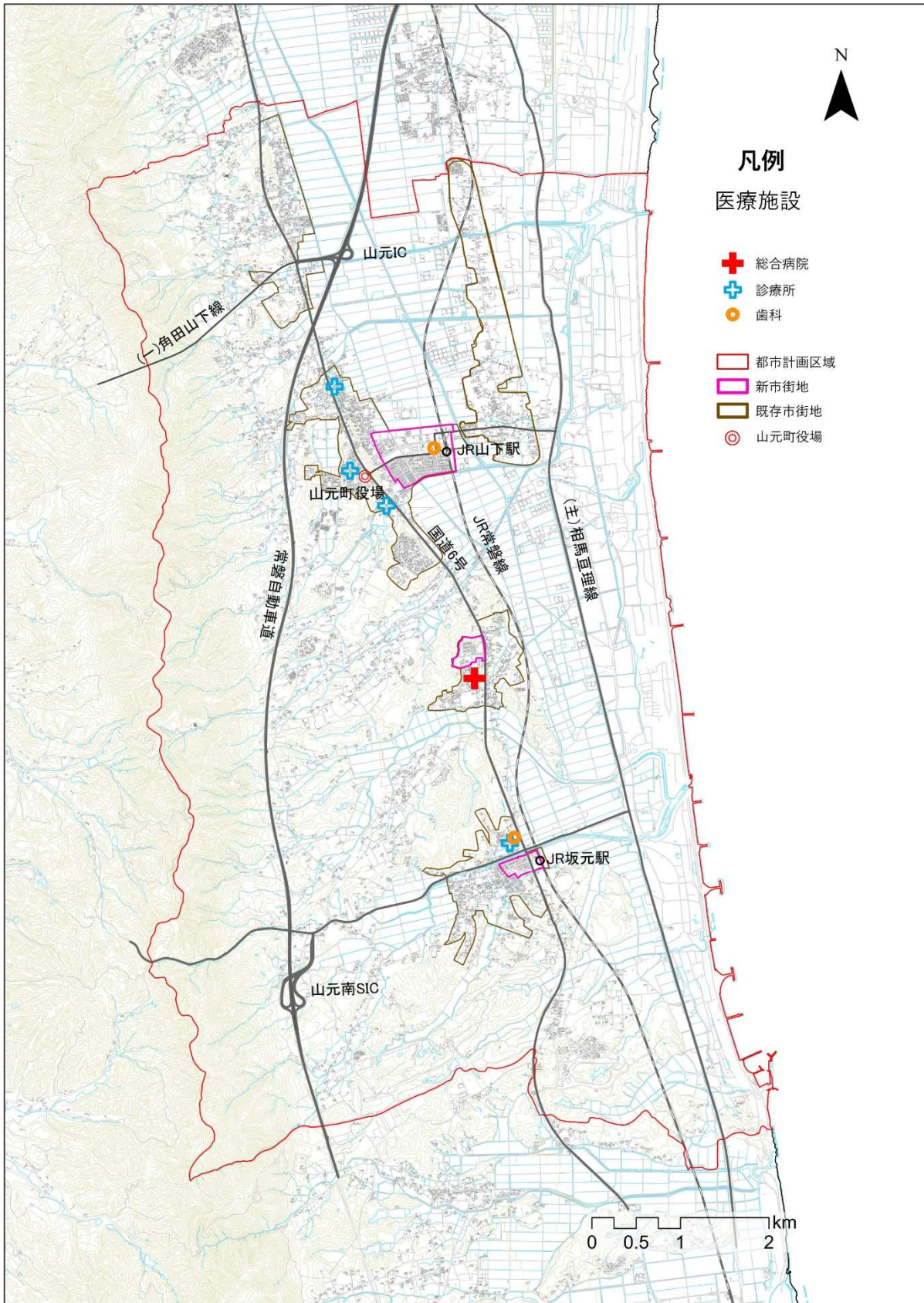
出典：国土数値情報

教育・子育て施設の位置図



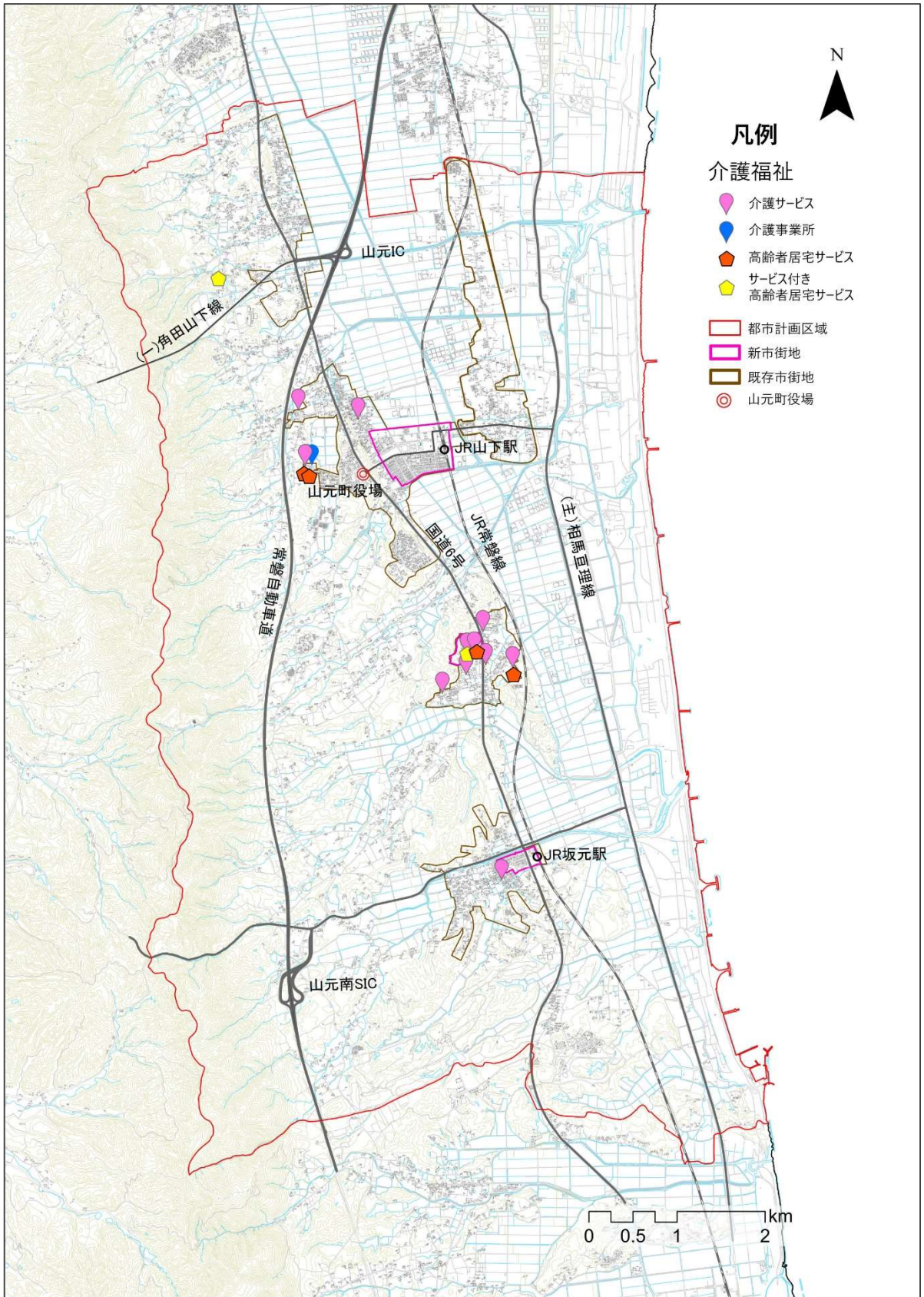
出典：国土数値情報、山元町

医療施設の位置図



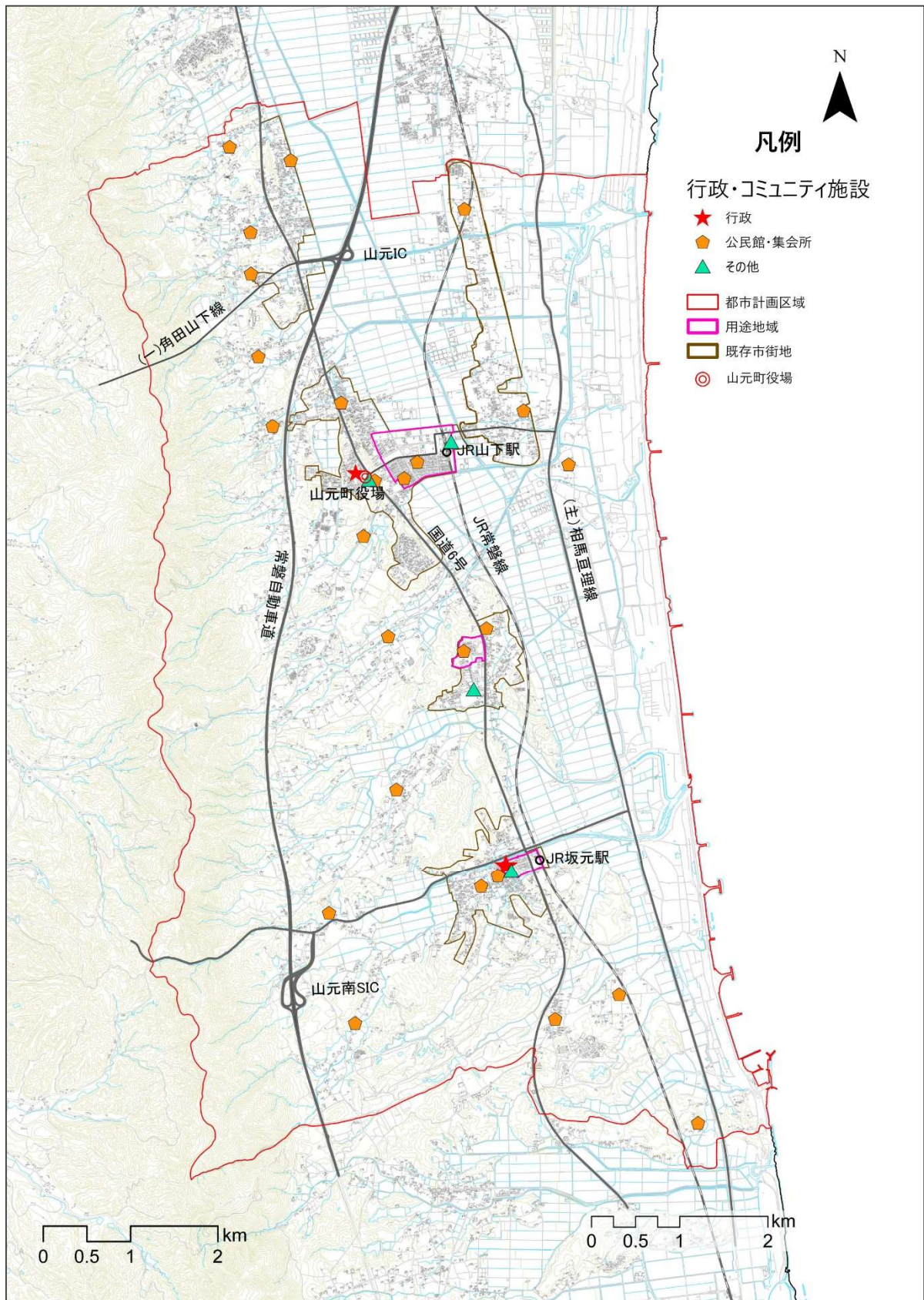
出典：国土数値情報、山元町

介護福祉施設の位置図



出典：国土数値情報、山元町

行政・コミュニティ施設の位置図



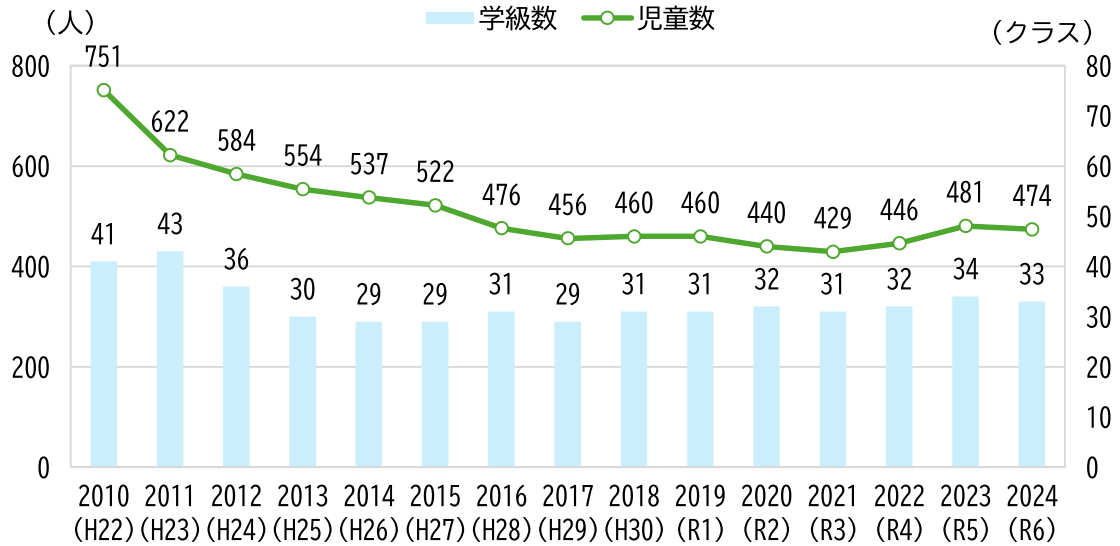
出典：国土数値情報、山元町

【児童・生徒数の推移】

小学校の児童数は、平成 22(2010)年から平成 29(2017)年にかけては減少していましたが、近年は概ね横ばいで推移しています。

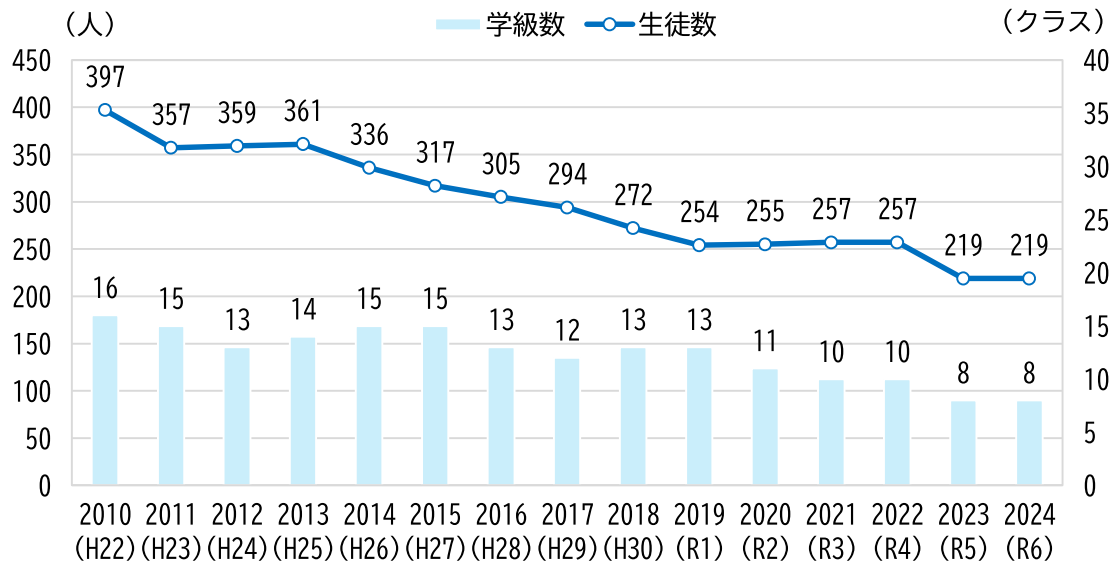
一方、中学校の生徒数は減少傾向が続いています。中学校については、令和 3(2021)年 3 月末に坂元中学校が閉校となり、現在は山元中学校の 1 校体制となっています。

小学校児童数の推移



出典：山元町

中学校生徒数の推移



出典：山元町

(6) 都市施設

①道路

本町の交通体系は、常磐自動車道、国道6号、主要地方道2路線及び一般県道1路線の計5路線により構成されており、町の交通の骨格を形成しています。このうち、主要地方道相馬巨理線については、津波からの防災機能を有する高盛土の堤防機能を兼ねた道路として、東日本大震災後に改築されました。

道路交通センサスによる昼間12時間上下交通量を見ると、平成27(2015)年と令和3(2021)年を比較した場合、多くの観測路線において交通量の減少が確認されています。これは、震災復興事業の進捗に伴う大型車両の通行量減少等が影響しているものと推測されます。

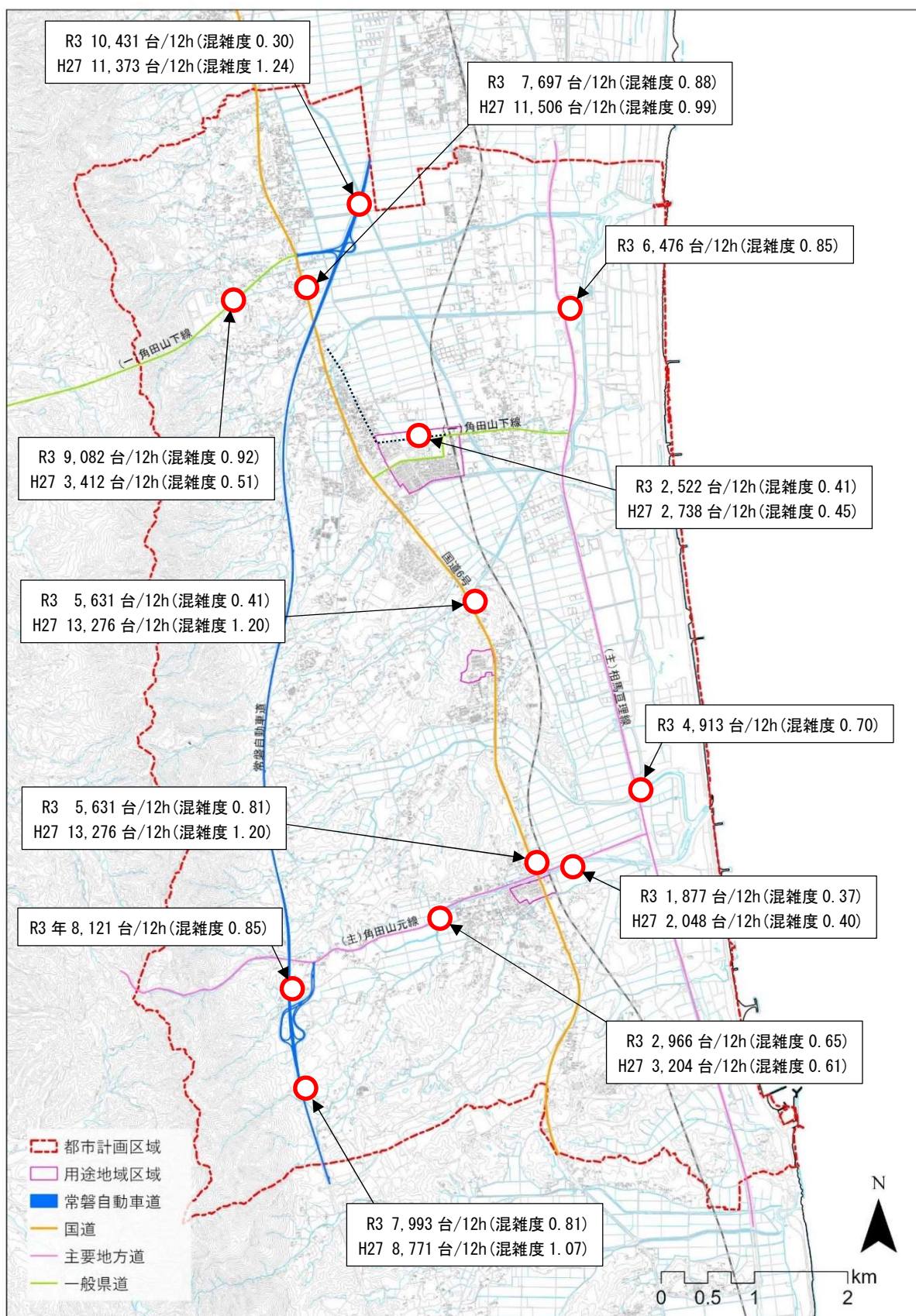
一方で、交通量が増加している路線も見られ、一般県道角田山下線では、9,082台/12h(混雑度0.92)であり、平成31(2019)年4月に開業した「道の駅かくた」への来訪者増加による影響と考えられます。

○混雑度：道路の交通容量に対する交通量の比

▼混雑度の目安(公益社団法人日本道路協会)

- ・混雑度1.0未満：昼間12時間を通して、道路が混雑することなく円滑に走行できる
- ・混雑度1.0～1.25：昼間12時間のうち混雑する可能性のある時間帯が1～2時間(ピーク時間)ある
- ・混雑度1.25～1.75：ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性の高い状態

交通体系と交通量



出典：令和3年度交通センサス(国土交通省)

②公園

都市公園は、地区公園1箇所、近隣公園3箇所、街区公園6箇所の計10箇所が位置付けられています。

令和2(2020)年国勢調査人口の1人当たりの都市公園面積は10.9㎡であり、都市公園法施行令に示されている「住民1人当たりの都市公園面積の標準(10㎡以上)」を上回っています。

また、都市公園に位置付けられない公園として、農村公園等が3箇所整備されています。

公園の現状

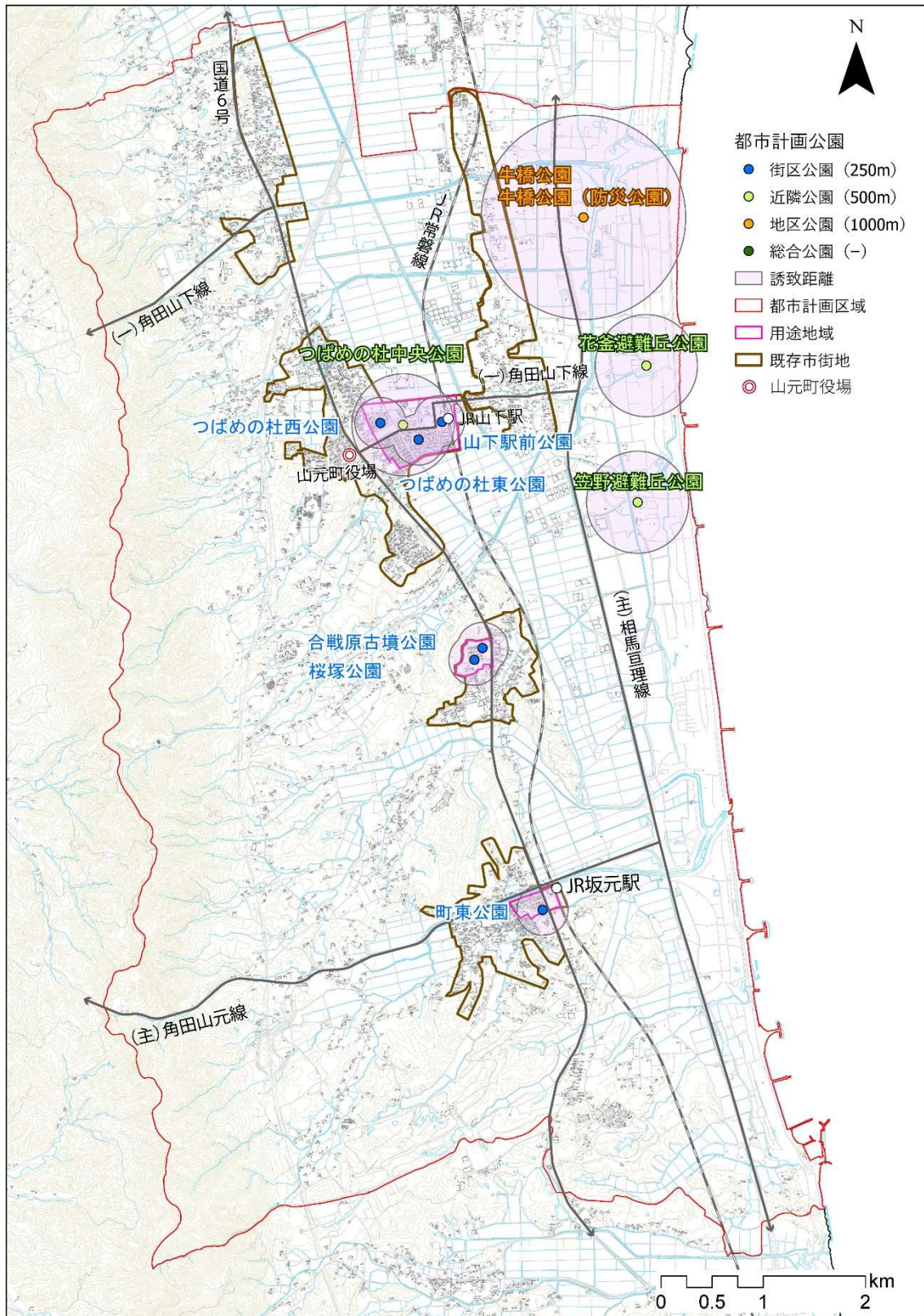
種別		面積(㎡)	箇所	備考
都市公園	地区公園	59,003	1	牛橋公園(既設分52,000㎡(H26.7復旧)+防災公園7,003㎡(H28.12告示))
	近隣公園	56,257	3	新山下1箇所、花釜避難丘公園(H28.12告示)、笠野避難丘公園(H28.12告示)
	街区公園	16,220	6	新山下3箇所、宮城病院2箇所、新坂元1箇所
	小計	131,480	10	10.9㎡/人(R2国勢調査人口12,046人)
その他の公園	農村公園	3,385	2	小平農村公園、上郷の森農村公園
	その他公園	1,690	1	磯崎山公園
	小計	5,075	3	
合計		136,555	13	11.3㎡/人(R2国勢調査人口12,046人)

都市公園一覧

種別	公園名	計画面積(ha)	計画面積		備考
			供用(ha)	整備率(%)	
地区公園	牛橋公園	5.20	5.20	100	計画決定(S63.4.5)
	牛橋公園(防災公園)	0.70	0.70	100	都市公園(条例)
近隣公園	つばめの杜中央公園	1.50	1.50	100	都市公園(条例)
	花釜避難丘公園	2.06	2.06	100	都市公園(条例)
	笠野避難丘公園	2.06	2.06	100	都市公園(条例)
	山下駅前公園	0.28	0.28	100	都市公園(条例)
	つばめの杜東公園	0.14	0.14	100	都市公園(条例)
	つばめの杜西公園	0.14	0.14	100	都市公園(条例)
	桜塚公園	0.05	0.05	100	都市公園(条例)
	合戦原古墳公園	0.70	0.70	100	都市公園(条例)
	町東公園	0.32	0.32	100	都市公園(条例)

出典：平成31年度巨理・山元地区都市計画基礎調査(一部編集)

都市公園位置図



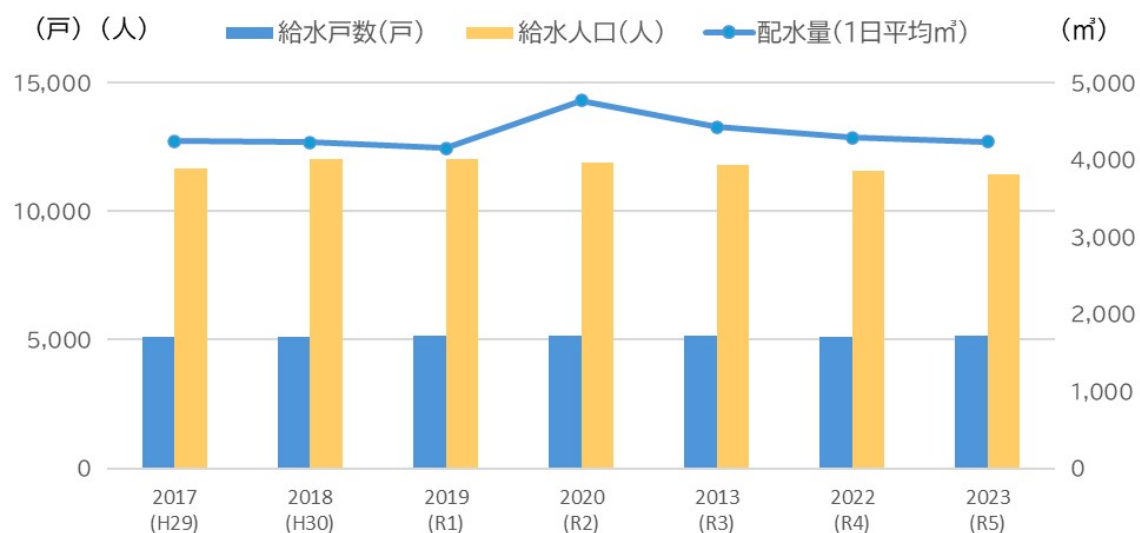
出典：平成 31 年度巨理・山元地区都市計画基礎調査を基に作成

③上水道

平成 29(2019)年から令和 5 (2023)年までの推移を見ると、給水戸数は概ね横ばいで推移しており、給水人口については微減傾向となっています。

一方、配水量については、令和 2 (2020)年に増加が見られます。これは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、在宅勤務や自宅待機の増加により、家庭内での水使用量が増加したことによる影響と考えられます。

給水戸数、給水人口、配水量の推移



区分	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)	2020年 (R2)	2013年 (R3)	2022年 (R4)	2023年 (R5)
給水戸数(戸)	5,087	5,114	5,142	5,137	5,145	5,088	5,171
給水人口(人)	11,676	12,042	11,997	11,902	11,796	11,579	11,423
配水量(日平均m³)	4,236	4,222	4,150	4,763	4,425	4,286	4,229

出典：山元町

④下水道

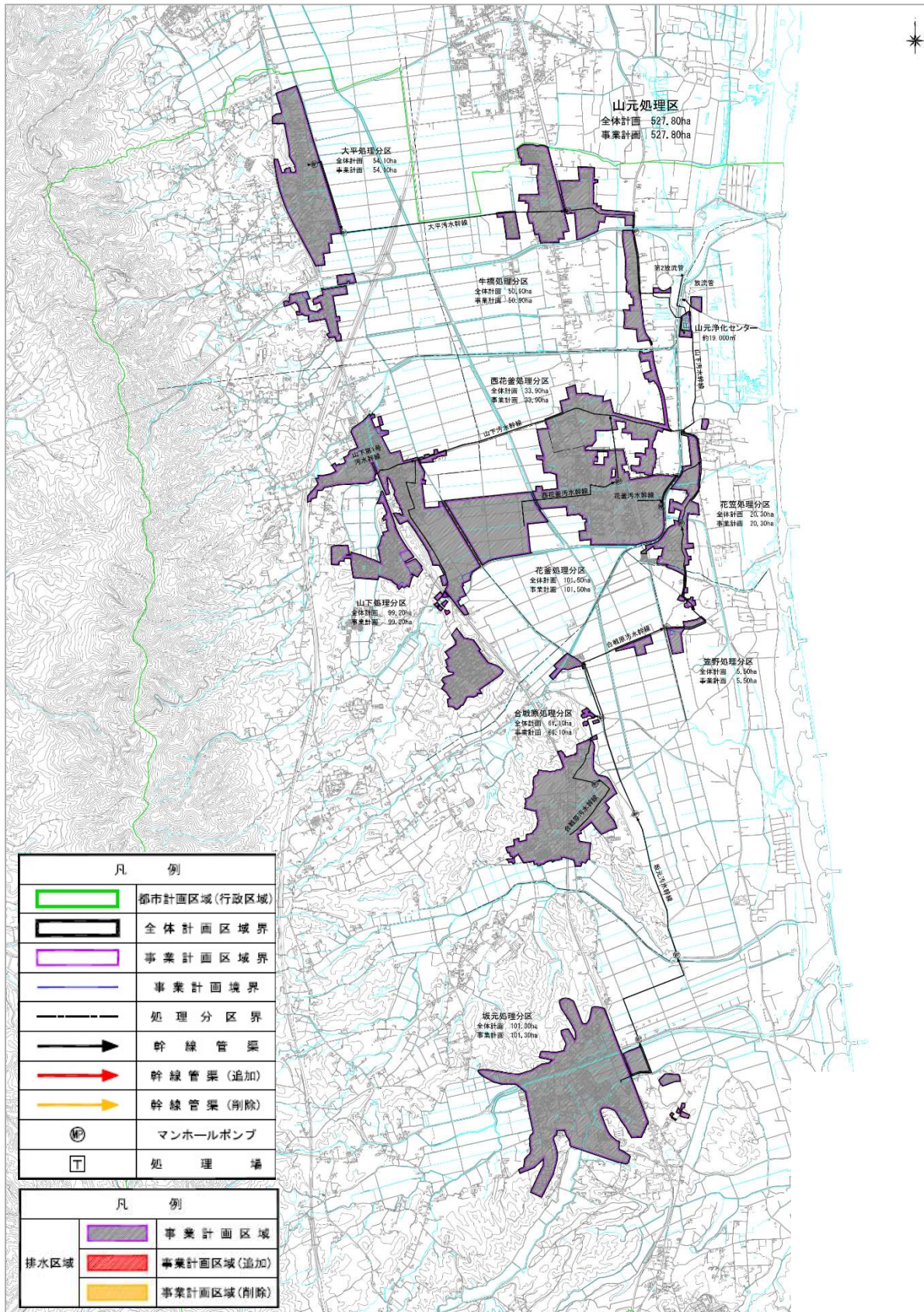
下水道については、東日本大震災により東部地域の市街地が流失したこと等を受け、計画内容の見直しが行われています。坂元地区においては、農業集落排水処理区域から公共下水道処理区域への変更が行われたほか、磯地区には新たに下水処理場が整備されました。

下水道の変更計画

分類	処理区名称	変更概要
灘	大平処理分区	・削除区域：未整備区域
	牛橋処理分区	
	西花釜処理分区	
	花笠処理分区	
	笠野処理分区	
	山下処理分区	
	花釜処理分区	
	合戦原処理分区	
	坂元処理分区	・削除区域：未整備区域(平成 30 年公共下水道へ編入)
水	中浜地区	・処理場：廃止
	上平地区	・区 域：変更なし ・処理場：変更なし
	磯地区	・区 域：変更あり ・処理場：新設

出典：山元町

下水道区域図(将来の整備予定)



出典：山元町下水道計画一般図(汚水)(令和4年)

(7) 災害対応

【避難所・避難場所】

本町における避難所、避難場所及び福祉避難所は、以下のとおりです。

■指定避難所

指定避難所は、想定される災害による影響が比較的少ない場所に立地し、各種災害により家屋被害を受けた、またはその恐れがある住民等を、一時的に収容するための施設です。

	名称	住所	概要	収容面積
■	山下第一小学校	大平字握 6	R C 3階	371 m ²
	山下小学校	山寺字樋前 12	R C 3階	484 m ²
	山元中学校	山寺字畑中 29	R C 2階	1,675 m ²
	中央公民館	浅生原字日向 12-1	R C 2階	815 m ²
	勤労青少年ホーム	浅生原字日向 12-1	R C 2階	278 m ²
	山元町民体育館・町民グラウンド	高瀬字合戦原 100-1	R C 1階	1,312 m ²
	坂元地域交流センター (※) (ふるさとおもだか館)	坂元字町東 1-60	R C 2階	588 m ²
	旧坂元中学校	坂元字山作 1	R C 3階	805 m ²
	坂元小学校	坂元字館下 159-1	R C 3階	638 m ²
	山下第二小学校 (※)	つばめの杜 1-3	R C 2階	1,347 m ²
	山下地域交流センター (※) (つばめの杜ひだまりホール)	つばめの杜 1-8	R C 3階	2,397 m ²

(※)大津波警報発表時には開設しません

出典：山元町地域防災計画(山元町防災会議)

■福祉避難所

福祉避難所は、介護を必要とする高齢者や障害者等、一般の避難所では生活に支障をきたす恐れのある方を対象とし、必要な配慮や支援を提供するための避難所です。

	名称	住所
■	介護老人保健施設 アルカディアウエル	山寺字堤山 8-5
	ケアハウス アポロン	山寺字堤山 8-3
	さくらデイサービス	高瀬字合戦原 54-2
	デイサービスえん	山寺字畑中 10-7
	山元町デイサービスセンター 知楽荘	高瀬字合戦原 111-82
	特別養護老人ホーム みやま荘	高瀬字合戦原 111-11
	障害者支援施設 静和園	真庭字名生東 72-2
	山元町共同作業所	真庭字名生東 75-7
	ミニホーム愛広館	真庭字名生東 119-1
	デイ・ハウスにここ	小平字北ノ入 56-2
	すみれデイサービス	坂元字町 44-1
	宮城県立山元支援学校	高瀬字合戦原 100-2

出典：山元町地域防災計画(山元町防災会議)

■指定緊急避難場所

指定緊急避難所は、地震による火災や津波などの災害が発生した際に、生命の安全を確保するため、住民等が一時的に避難するための場所です。

名称	住所	概要	収容面積
■ 八手庭農村集落多目的センター広場	八手庭字北向 38-2	広場	1,000 m ²
山下第一小学校グラウンド	大平字握 6	グラウンド	5,000 m ²
小平農村公園	小平字館 18-1	広場	900 m ²
山下中学校グラウンド	山寺字畑中 44	グラウンド	6,000 m ²
山下中学校野球場	山寺字畑中 46-1	グラウンド	10,000 m ²
山下小学校グラウンド	山寺字樋前 12	グラウンド	4,800 m ²
山寺深山グラウンド	山寺字堤山 44-1	グラウンド	4,700 m ²
深山山麓少年の森駐車場	山寺字新山 85	駐車場	2,400 m ²
浅生原区公会堂前広場	浅生原字下宮前 57	広場	1,400 m ²
山元町体育文化センター駐車場	高瀬字合戦原 110-3	駐車場	900 m ²
真庭グラウンド	真庭字原 62	グラウンド	3,300 m ²
旧坂元中学校グラウンド	坂元字山作 1	グラウンド	20,000 m ²
山元町役場駐車場	浅生原字作田山 32	駐車場	10,700 m ²

出典：山元町地域防災計画(山元町防災会議)

■防災公園等

防災公園等は、津波襲来時において沿岸部の利用者が速やかに一時避難できるよう、築山（避難丘）を備えた公園等の施設です。

名称	住所
■ 牛橋公園(避難丘)	山寺字東泥沼 163
花釜避難丘公園	山寺字浜 140-5
笠野避難丘公園	高瀬字合戦原 111-82

出典：山元町地域防災計画(山元町防災会議)

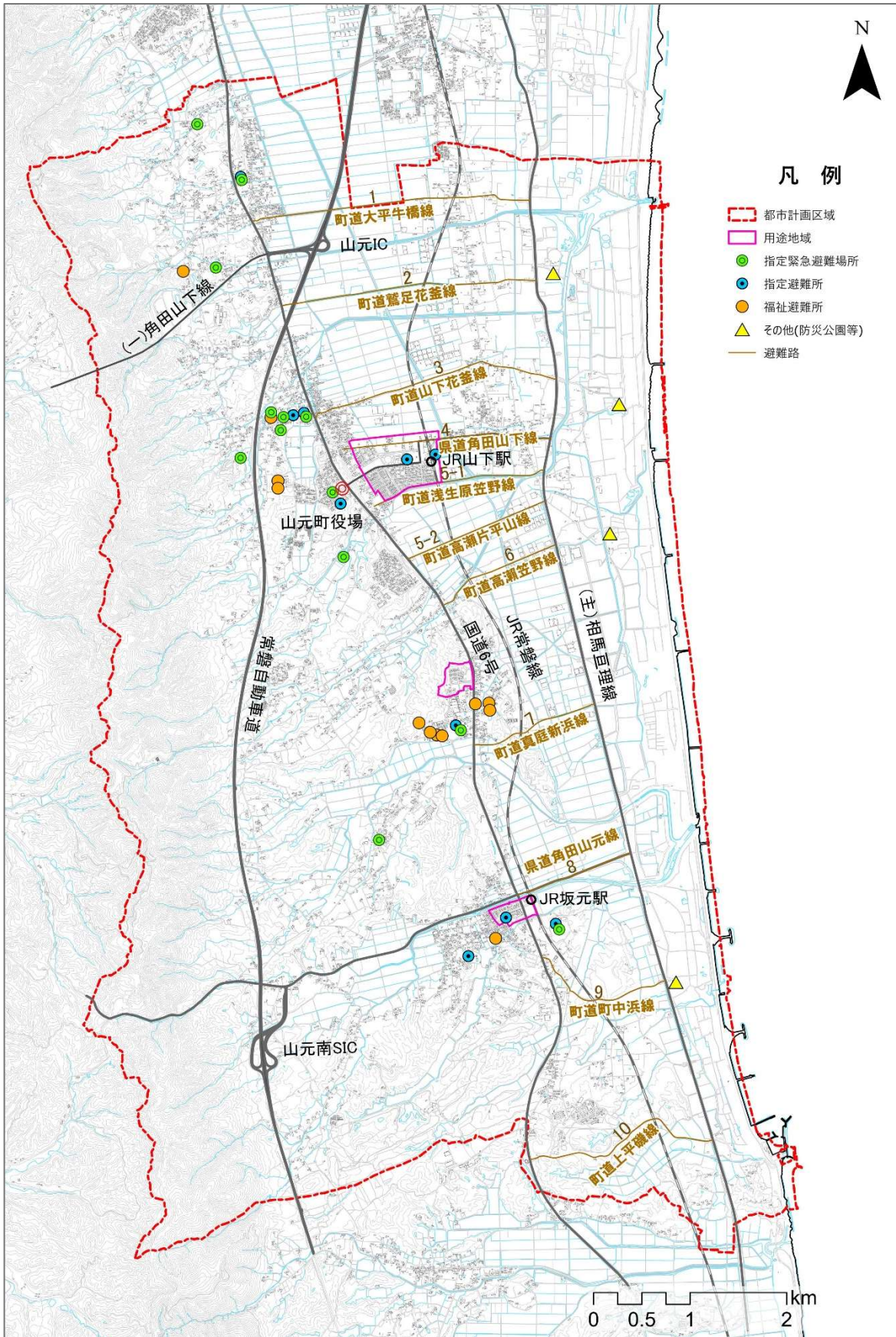
■避難路一覧

避難路は、災害時に住民等が安全に避難所や緊急避難場所へ移動するための経路で、東西方向の 11 路線が位置付けられています。

No	名称	No	名称
1	町道大平牛橋線	6	町道高瀬笠野線
2	町道鷲足花釜線	7	町道真庭新浜線
3	町道山下花釜線	8	県道角田山元線
4	県道角田山下線・町道鷲足山下線	9	町道町中浜線
5-1	町道浅生原笠野線	10	町道上平磯線
5-2	町道高瀬片平山線		

出典：山元町地域防災計画(山元町防災会議)

指定避難所・指定緊急避難場所・避難路・防災公園



出典：山元町地域防災計画 令和6年6月(山元町防災会議)

【防災ため池】

防災重点農業用ため池は、町内に 25 箇所あります。

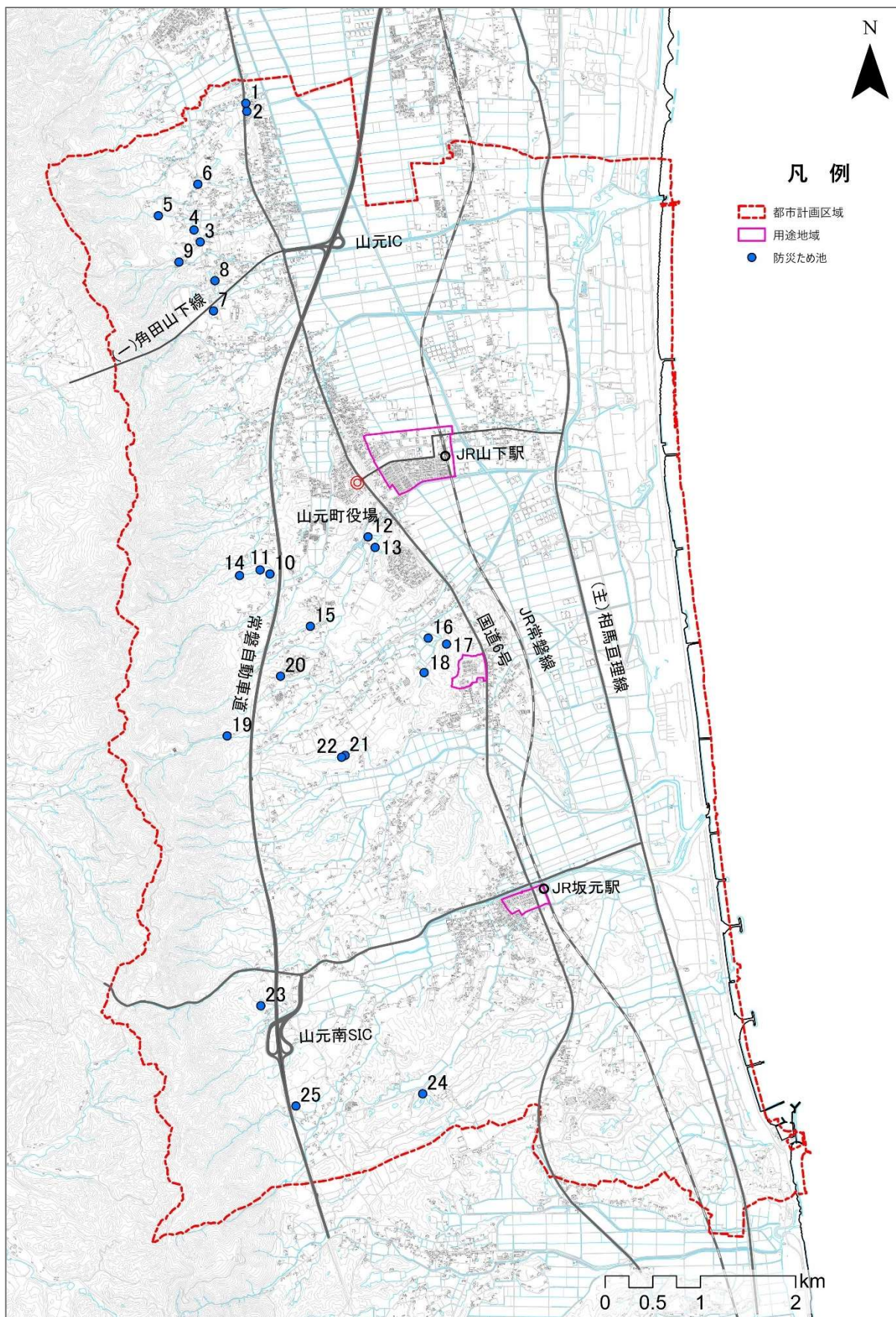
地域防災計画では、洪水、土砂災害、浸水等による被害を防止し、農地や農業用施設等を保全するため、農業用排水施設の整備、更新及び補修のほか、老朽化した防災重点農業用ため池の補強、低位部における排水対策、降雨等による農地の侵食防止対策などを一体的に実施することとしています。これらの取り組みを通じて、農地防災事業を総合的に推進し、災害の発生防止を図ることとしています。

防災重点農業用ため池(令和6年3月31日現在)

地区番号	名称	堤高(m)	堤長(m)	有効貯水量(1000m ³)	受益面積(ha)	予想される施設の被害	予想される被害の程度		管理者
							地区名	住家数(戸)	
1	前田北	2.2	180	3.1	8	堤体決壊	八手庭	20	山元町
2	前田南	3.5	165	7.7	8	堤体決壊	八手庭		山元町
3	土取場南	2.5	114	1.8	2	堤体決壊	大平	32	山元町
4	土取場北	3.5	150	13.3	20	堤体決壊	大平	70	山元町
5	味噌野	4.8	110	9.1	6	堤体決壊	大平	35	山元町
6	雨溜	4.0	136	7.4	15	堤体決壊	大平	36	山元町
7	馬場	3.5	215	8.9	10	堤体決壊	小平	10	山元町
8	館	2.5	211	11.4	20	堤体決壊	小平	13	山元町
9	柳沢	4.5	132	3.6	8	堤体決壊	小平	38	山元町
10	山王1	5.1	161	26.7	20	堤体決壊	浅生原	254	山元町
11	山王2	4.4	70	4.9	20	堤体決壊	浅生原		山元町
12	下宮前1	3.5	229	14.5	20	堤体決壊	浅生原	170	山元町
13	下宮前2	5.5	130	11.3	20	堤体決壊	浅生原		山元町
14	浅生原温水	6.5	30	5.8	20	堤体決壊	浅生原	254	山元町
15	箱根	4.6	68	1.5	3	堤体決壊	浅生原	15	山元町
16	田中	4.2	271	23.9	30	堤体決壊	高瀬	19	山元町
17	中島	3.0	62	4.1	2	堤体決壊	高瀬		山元町
18	大久保	4.5	58	5.4	6	堤体決壊	高瀬		山元町
19	山神(1)	3.3	60	9.6	23	堤体決壊	高瀬	14	山元町
20	石山	4.9	111	5.1	10	堤体決壊	高瀬	16	山元町
21	館1	3.8	53	12.5	20	堤体決壊	真庭	9	山元町
22	館2	4.0	56	1.0	10	堤体決壊	真庭		山元町
23	蛙館	3.8	105	12.5	10	堤体決壊	久保間	19	山元町
24	渋沢	6.7	80	55.0	70	堤体決壊	中山	70	山元町
25	鈴ヶ入	4.0	70	1.1	2	堤体決壊	中山	7	山元町

出典：山元町地域防災計画 令和6年6月(山元町防災会議)

防災重点農業用ため池



出典：山元町地域防災計画 令和6年6月(山元町防災会議)

(8) 地価

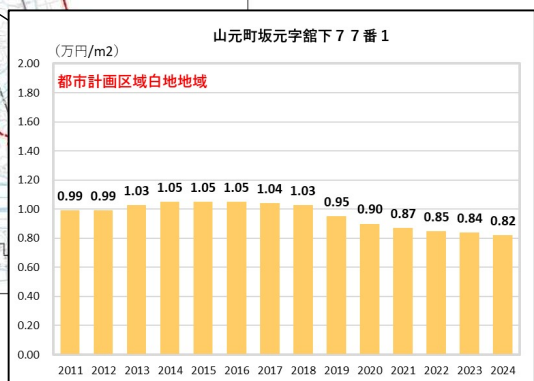
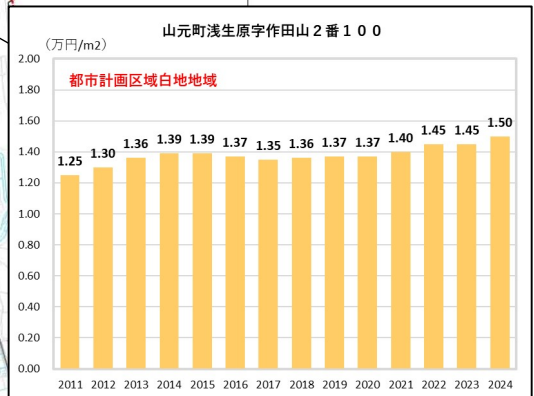
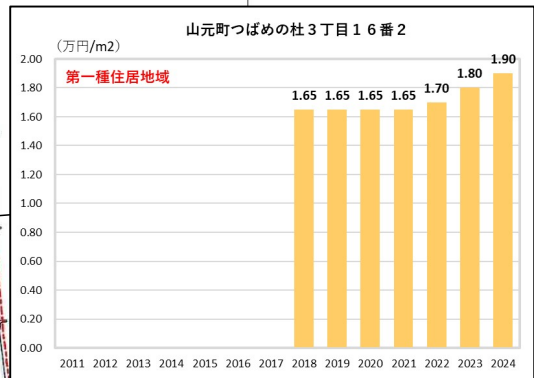
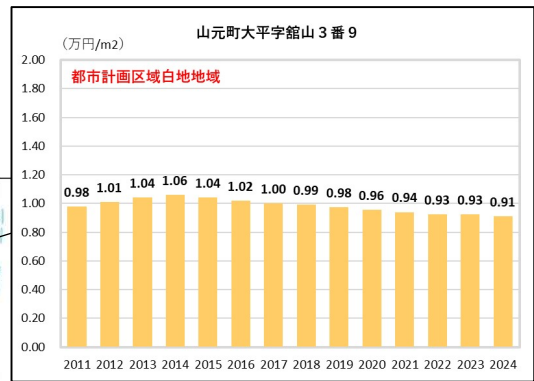
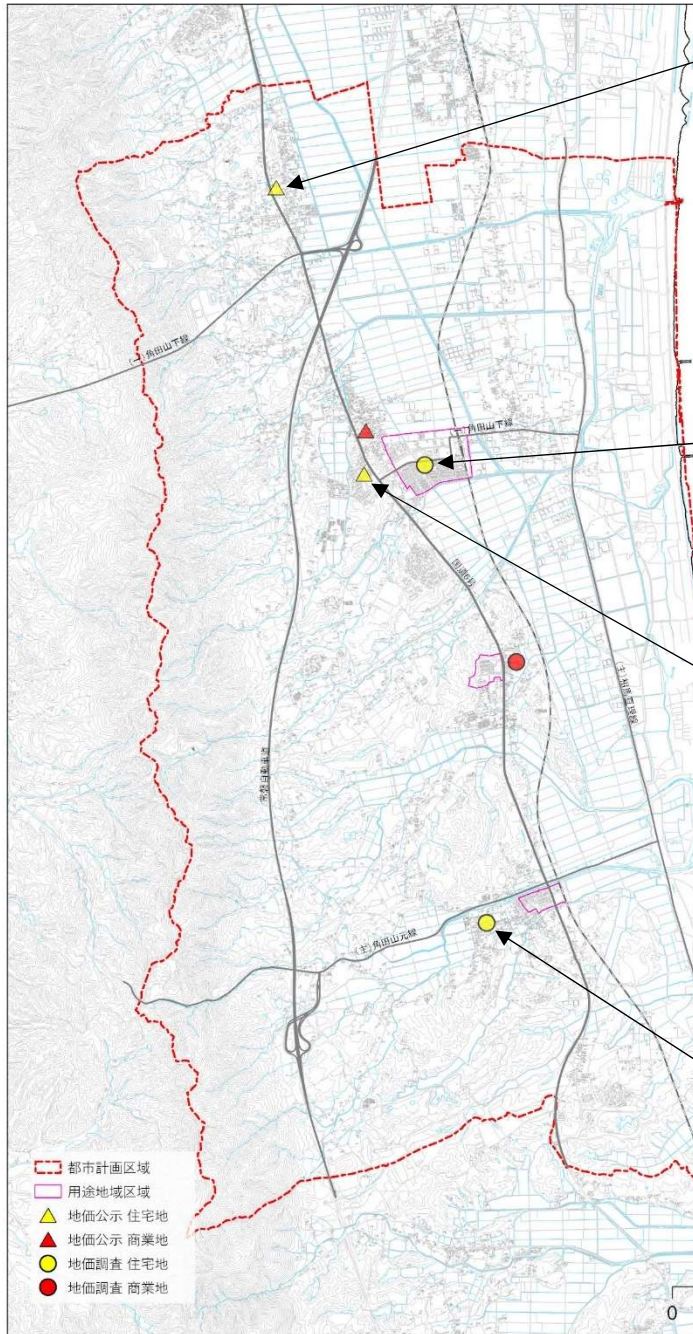
震災以降の地価公示及び地価調査の結果を基に、地価の動向について整理しました。

住宅地において地価が最も高いのは、第一種住居地域に指定されているつばめの杜地区であり、1.65万円/㎡以上で推移しています。同地区については、令和2(2020)年以降、上昇傾向が見られます。

また、用途地域外ではありますが、つばめの杜地区の新市街地に近接し、役場周辺に位置する作田山団地においても、地下の上昇が確認されています。一方、これら以外の地域では地価は下落傾向にあり、特に坂元地域において比較的顕著な下落傾向が見られます。

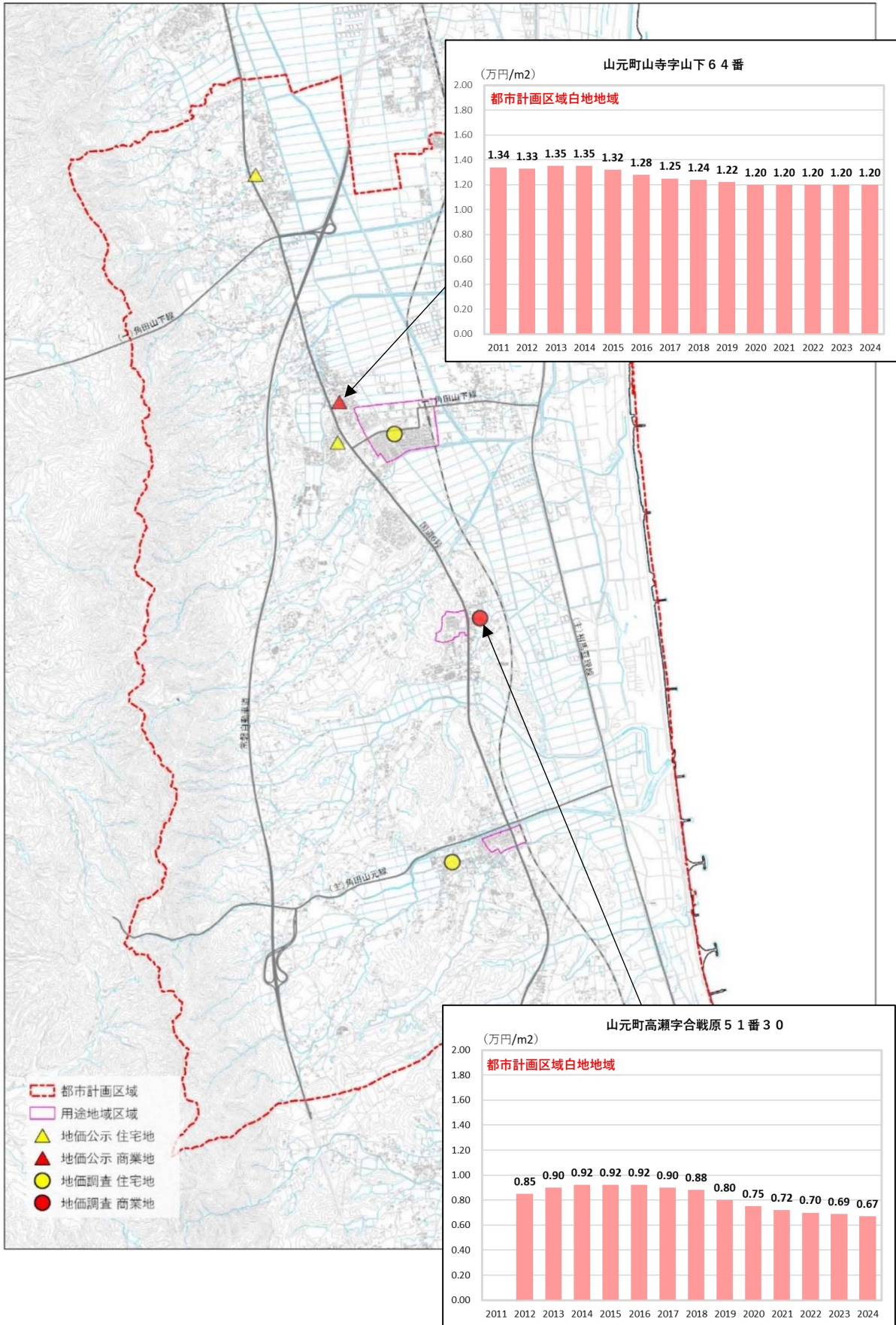
商業地については、山下字山下(山下地域)において、近年は1.2万円/㎡程度で概ね横ばいで推移しています。一方、高瀬字合戦原では、地下の下落傾向が続いています。

地価の動向(住宅地)



出典：令和6年地価公示(国土交通省・宮城県)

地価の動向(商業地)



出典：令和6年地価公示(国土交通省・宮城県)

(9) 財政

【歳入・歳出の推移】

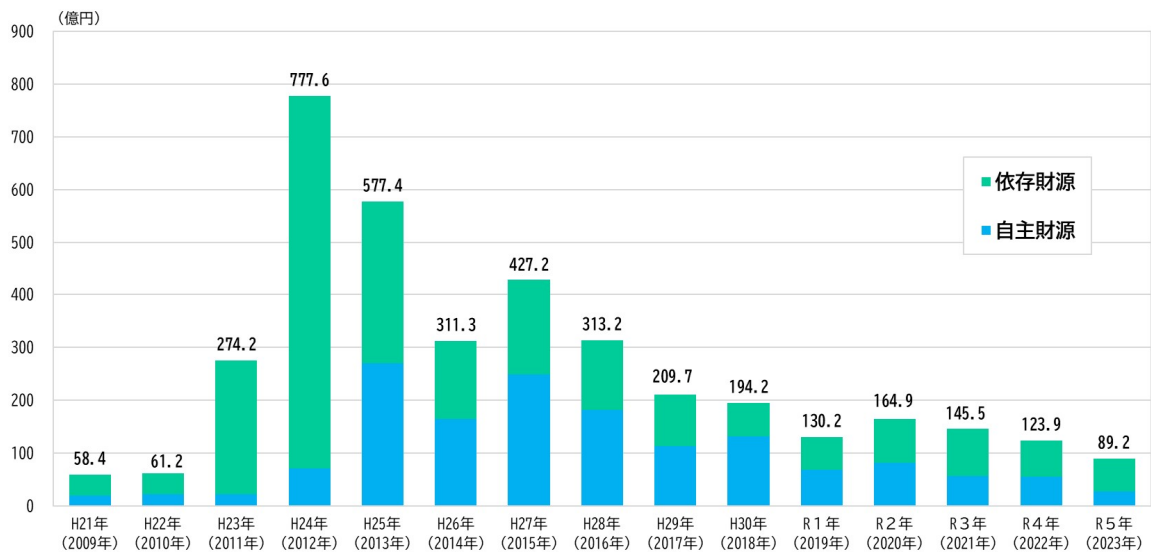
○歳入

東日本大震災が発生した平成 22(2010)年度の翌年度である平成 23(2011)年度以降、依存財源が大幅に増加し、平成 24(2012)年度にピークを迎えています。

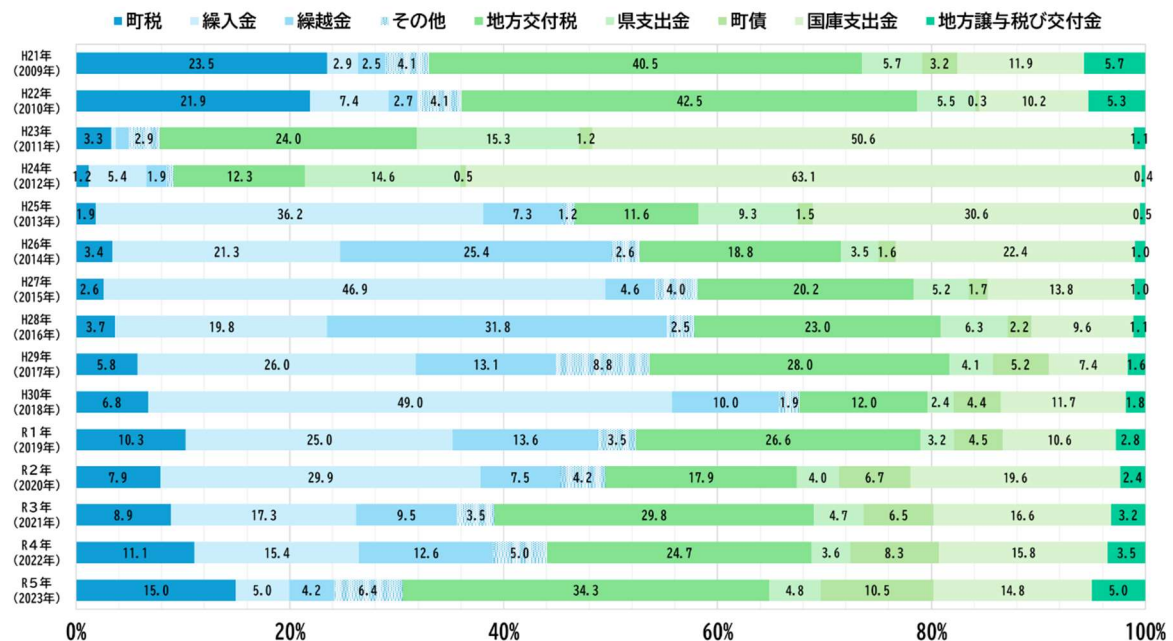
歳入の内訳を見ると、平成 23(2011)年度から平成 24(2012)年度にかけては、国庫支出金が歳入の 50%以上を占めており、震災復興交付金を活用した各種震災復興事業が、歳入総額を押し上げた主な要因となっています。

その後、震災復興事業の縮小に伴い国庫支出金が減少するとともに、税制上の持例措置の終了などの影響を受け、近年は町税の割合が増加傾向となっています。

歳入の推移



歳入の内訳(青系：自主財源、緑系：依存財源)



※その他の内訳：使用料、財産収入、寄付金等

出典：山元町

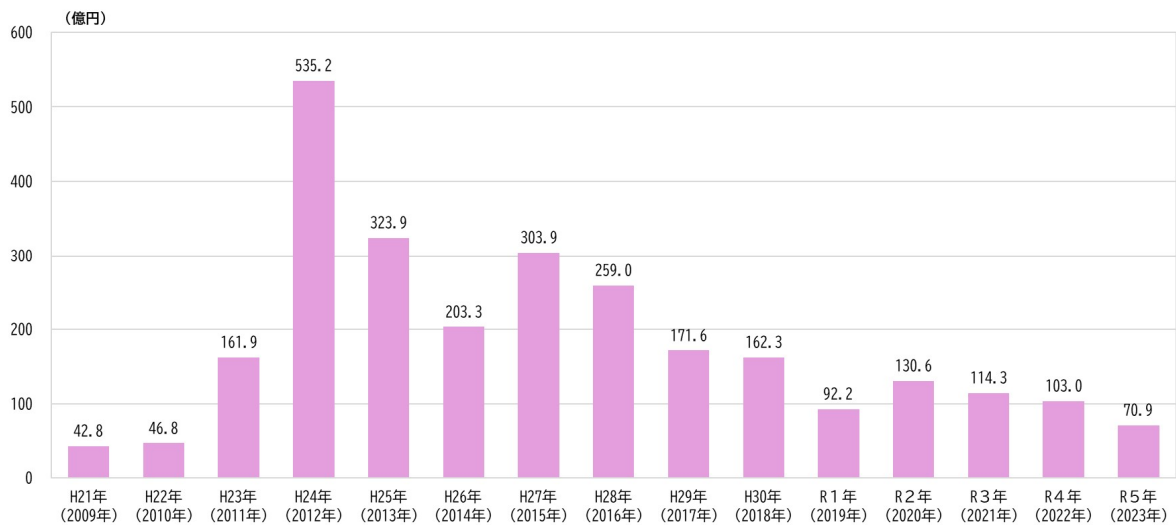
○歳出

歳出については、東日本大震災の影響により、平成 23(2011)年度以降に大きく増加しています。平成 24(2012)年度をピークとして、その後は年度ごとに増減は見られるものの、全体としては減少傾向で推移しています。

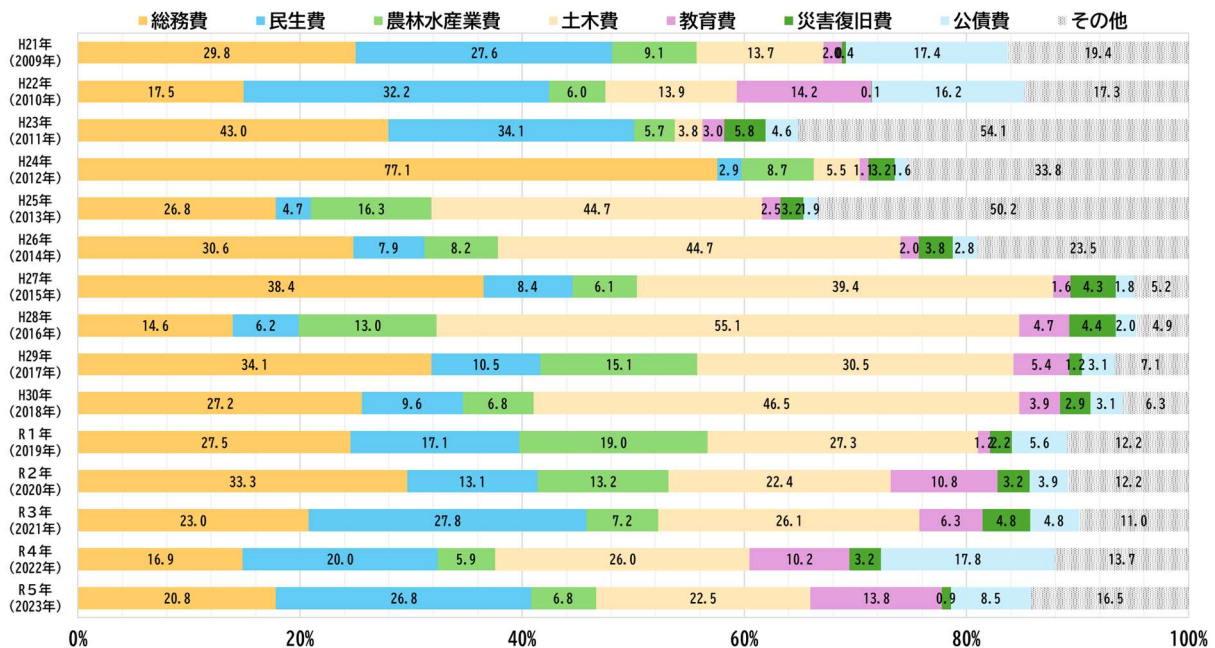
歳出の内訳を見ると、平成 25(2013)年度以降は、震災復興事業の実施に伴い、土木費が歳出全体の 40~50%を占める水準となっていました。復興事業の進捗により、令和元(2019)年度以降は 20%台まで低下しています。

一方、平成 29(2017)年度以降は民生費が増加傾向にあり、高齢化の進行等を背景として、今後も福祉関連の歳出増加が見込まれます。

歳出の推移



歳出の内訳



※その他の内訳：議会費、衛生費、労働費、商工費、消防費等

出典：山元町

【整備年度別公共施設】

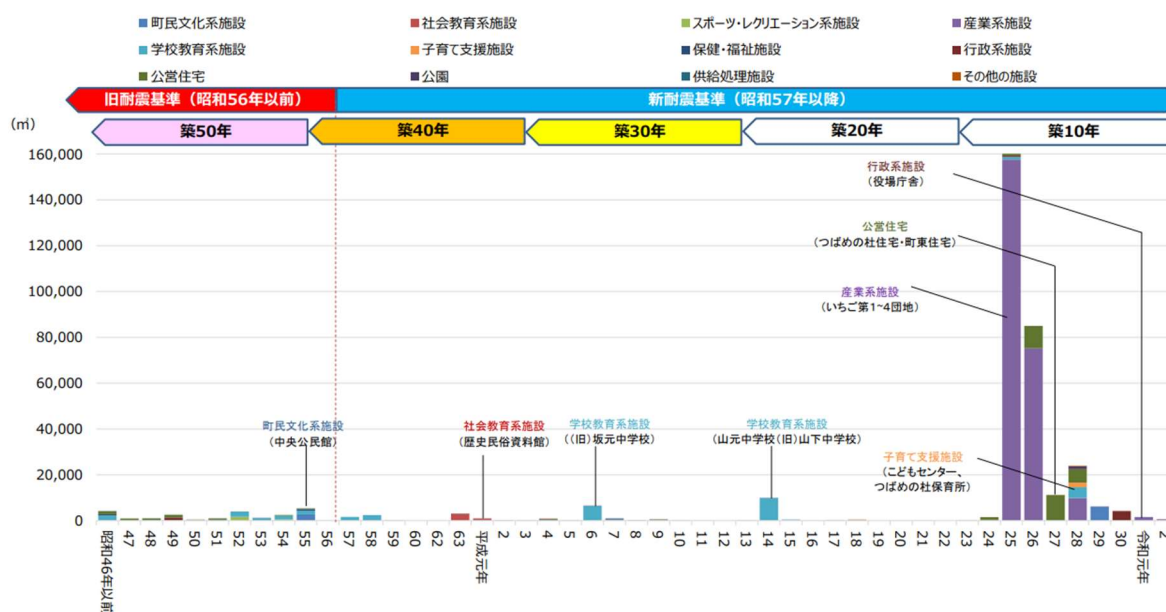
「山元町公共施設等総合管理計画(改訂版)(令和4(2022)年2月)」によると、本町では、東日本大震災からの復興事業に伴い、平成25(2013)年以降に多くの公共施設が再整備されています。

また、将来の改修・更新等に係る費用や財政負担の影響を把握する観点から延べ床面積に着目すると、約91%が築30年以下となっています。

一方で、スポーツ・レクリエーション系施設及び保険・福祉施設では、築40年以上の施設が一定割合を占めており、社会教育系施設についても築31年～40年の延べ床面積の割合が高い状況にあります。このことから、今後、施設の建て替えや集約化等について検討を進める必要があります。

さらに、山元町公共施設等総合管理計画(改訂版)(令和4(2022)年2月)を受けて改訂された「山元町公共施設個別施設計画(令和8(2026)年3月)」では、令和6年度末時点の公共施設の保有状況が整理されており、令和2(2020)年度末時点と比較して、延べ床面積で約8,000㎡の削減が行われています。

建築年別公共施設の延床面積



出典：山元町公共施設等総合管理計画改訂版(令和4年2月)

用途別施設の経過年数の状況（棟数）

		40年以上（S55以前）		31～40年（S56～H2）		築30年以下（H3～R2）		合計
		実数	割合	実数	割合	実数	割合	
町民文化系施設	棟数（棟）	8	53.3%	4	26.7%	3	20.0%	15
	延床面積（㎡）	3,595.2	34.2%	583.4	5.5%	6,341.1	60.3%	10,519.7
社会教育系施設	棟数（棟）	3	30.0%	4	40.0%	3	30.0%	10
	延床面積（㎡）	75.2	1.8%	3,629.1	86.4%	495.2	11.8%	4,199.5
スポーツ・レクリエーション系施設	棟数（棟）	2	33.3%	1	16.7%	3	50.0%	6
	延床面積（㎡）	2,054.5	86.6%	82.5	3.5%	235.9	9.9%	2,372.8
産業系施設	棟数（棟）	0	0.0%	0	0.0%	46	100.0%	46
	延床面積（㎡）	0.0	0.0%	0.0	0.0%	244,977.5	100.0%	244,977.5
学校教育系施設	棟数（棟）	10	27.0%	4	10.8%	23	62.2%	37
	延床面積（㎡）	8,477.0	24.1%	3,789.1	10.8%	22,845.2	65.1%	35,111.2
子育て支援施設	棟数（棟）	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%	4
	延床面積（㎡）	0.0	0.0%	0.0	0.0%	2,297.7	100.0%	2,297.7
保健・福祉施設	棟数（棟）	6	54.5%	0	0.0%	5	45.5%	11
	延床面積（㎡）	1,837.8	69.7%	0.0	0.0%	799.4	30.3%	2,637.2
行政系施設	棟数（棟）	9	28.1%	2	6.3%	21	65.6%	32
	延床面積（㎡）	1,341.9	20.1%	30.0	0.5%	5,293.7	79.4%	6,665.6
公営住宅	棟数（棟）	42	11.9%	0	0.0%	311	88.1%	353
	延床面積（㎡）	5,560.0	14.4%	0.0	0.0%	33,146.8	85.6%	38,706.8
公園	棟数（棟）	1	2.6%	2	5.1%	36	92.3%	39
	延床面積（㎡）	10.0	0.7%	26.3	1.8%	1,426.2	97.5%	1,462.5
供給処理施設	棟数（棟）	15	57.7%	6	23.1%	5	19.2%	26
	延床面積（㎡）	150.6	11.9%	224.2	17.7%	893.8	70.5%	1,268.5
その他の施設	棟数（棟）	0	0.0%	2	33.3%	4	66.7%	6
	延床面積（㎡）	0.0	0.0%	207.1	17.6%	968.4	82.4%	1,175.5
合計	棟数（棟）	96	16.4%	25	4.3%	464	79.3%	585
	延床面積（㎡）	23,102.2	6.6%	8,571.6	2.4%	319,720.8	91.0%	351,394.6

出典：山元町公共施設等総合管理計画改訂版(令和4年2月)

公共施設の現状（令和2年度～令和6年度の増減）

施設類型	令和2年度末				令和6年度末				増減		
	棟	棟	延床面積(㎡)	割合	棟	棟	延床面積(㎡)	割合	棟	棟	延床面積(㎡)
町民文化系施設	12	15	10,520	3.8%	12	15	10,543	3.9%	0	0	23
社会教育系施設	6	10	4,200	1.5%	4	11	4,286	1.6%	-2	1	86
スポーツ・レクリエーション系施設	3	6	2,373	0.9%	4	11	3,554	1.3%	1	5	1,181
産業系施設	16	46	244,978	88.7%	18	45	236,854	88.3%	2	-4	-8,124
子育て支援施設	4	4	2,298	0.8%	5	5	2,385	0.9%	1	1	87
保健・福祉施設	9	11	2,637	1.0%	8	10	2,255	0.8%	-1	-1	-382
行政系施設	21	32	6,666	2.4%	22	27	6,330	2.4%	1	-5	-704
公園	20	39	1,463	0.5%	20	39	1,463	0.5%	0	0	0
その他の施設	6	6	1,176	0.4%	5	5	655	0.2%	-1	-1	-521
総計	97	169	276,311	100.0%	98	1659	268,324	100.0%	1	-4	-7,987

出典：山元町公共施設個別施設計画(令和8年3月)

2-4. 広域的条件

(1) 広域交通網

広域交通網の中核を担う常磐自動車道は、東日本大震災の影響を受けましたが、全線が平成27(2015)年3月1日に開通しました。これにより、震災前から供用されていた山元ICに加え、新たに山元南スマートICが整備され、平成29(2017)年4月から供用が開始されています。


また、国道6号が町域を南北に縦貫しており、広域的な幹線道路として重要な役割を果たしています。

鉄道については、東日本大震災後に内陸部への移設復旧工事を進めていたJR常磐線の工事が完了し、平成28(2016)年12月10日から運転を再開しています。

これらの広域交通網の整備により、仙台空港まで車で約20分、仙台駅まで鉄道で約40分といった、良好なアクセス性が確保されています。

広域交通網図




通勤通学流動(流出) 

従業・通学市町村	平成 27(2015)年			令和 2 (2020)年		
	総 数	就業者	通学者※	総 数	就業者	通学者※
山元町に常住する者	6,186	5,678	508	5,958	5,531	427
①自町で従業・通学	2,941	2,857	84	2,791	2,725	66
自宅	730	730		752	752	
自宅外	2,211	2,127	84	2,039	1,973	66
②他市町村で従業・通学	3,186	2,771	415	3,057	2,704	353
県 内	2,708	2,306	402	2,618	2,277	341
仙台市	826	620	206	756	583	173
名取市	292	237	55	250	218	32
角田市	228	228		273	272	1
岩沼市	380	339	41	365	328	37
大河原町	76	60	16	68	55	13
柴田町	119	109	10	100	93	7
丸森町	74	72	2	64	64	
亘理町	574	529	45	548	505	43
その他の市町村	139	112	27	194	159	35
県 外	449	439	10	439	427	12
相馬市	202	199	216	211	5	
新地町	105	104	110	109	1	

※通学者は 15 歳以上

単位：人

通勤通学流動(流入) 

従業・通学市町村	平成 27(2015)年			令和 2 (2020)年		
	総 数	就業者	通学者※	総 数	就業者	通学者※
山元町に従業地・通学地のある者	6,272	5,410	862	5,321	5,216	105
①自町に常住	3,648	2,857	791	2,791	2,725	66
②他市町村に常住	2,517	2,477	40	2,344	2,330	14
県 内	2,151	2,111	40	2,060	2,046	14
仙台市	307	307		241	238	3
名取市	153	153		155	155	
角田市	282	281	1	252	252	
岩沼市	218	218		204	204	
大河原町	67	67		60	60	
柴田町	131	130	1	128	128	
丸森町	87	87		89	89	
亘理町	750	738	12	804	793	11
その他の市町村	156	130		127	127	
県 外	366	366		284	284	
相馬市	98	98		118	118	
新地町	153	153		139	139	

※通学者は 15 歳以上

単位：人

出典：政府統計(e-Stat) (平成 27 年・令和 2 年国勢調査)

(2) 買い物動向

本町の商圏は、広域型の「名取商圏」に属しています。宮城県商工金融課による「消費購買動向調査」を基に、前回調査(平成 24(2012)年度)の商圏と比較すると、商圏の範囲が縮小しており、超広域型が消滅は消滅している状況が確認されます。

商圏分類の推移

商圏類型	前回(平成 24 年度)	今回(令和 3 年度)
超広域型 広域型商圏の中でも広域行政圏を超えて広く県域を範囲とする商圏	1 商圏 ⇒仙台青葉	商圏なし
広域型 商圏範囲が主として広域行政圏的な広がりを持ち吸引人口が 10 万人以上	6 商圏 ⇒仙台太白、仙台宮城野、仙台泉、 名取 、旧古川、旧石巻	7 商圏 ⇒仙台青葉、仙台太白、仙台宮城野、仙台泉、 名取 、旧古川、旧石巻
地域型 商圏範囲が主として広域行政圏に準ずるか若しくはその一部に相当する広がりを持ち吸引人口が 2 万人以上	6 商圏 ⇒多賀城、利府、大河原、富谷、旧迫、旧気仙沼	6 商圏 ⇒多賀城、利府、大河原、富谷、旧迫、旧気仙沼
地区型 上記以外の規模の小さな商圏	1 商圏 ⇒旧志和姫	1 商圏 ⇒旧築館

本町が属する商圏



出典：令和 3 年度宮城県商工金融課「消費購買動向調査(概要版)」

2-5. その他

(1) 指定文化財

本町における町指定文化財は、下表のとおり 14 件あります。

このうち、「大條家茶室此君亭」については、令和6(2024)年11月に修復が完了し、現在は一般公開されています。

町指定の文化財一覧

番号	種別	名称	指定年月日
1	記念物	唐船番所跡 (とうせんばんどころあと)	昭和 47(1972)年 9 月 18 日
2	有形文化財	養賢堂の襖絵 (ようけんどうのふすまえ)	昭和 47(1972)年 9 月 18 日
3	記念物	榎の老樹 (かやのろうじゅ)	昭和 50(1975)年 9 月 13 日
4	有形文化財	竹に雀の紋章入り羽織と御達書 (たけにすずめのもんしょういりはおりとおたっししょ)	昭和 51(1976)年 11 月 30 日
5	有形文化財	唐船番所日記 (とうせんばんしょにつき)	昭和 51(1976)年 11 月 30 日
6	有形文化財	琵琶及びその古文書 (びわならびにそのこもんじょ)	昭和 52(1977)年 9 月 22 日
7	記念物	蓑首城跡 (みのくびじょうあと)	昭和 53(1978)年 10 月 2 日
8	有形文化財	霊仏霊社及び坂元戦記 (れいぶつれいしやならびにさかもとせんき)	昭和 58(1983)年 6 月 25 日
9	有形文化財	大條家茶室此君亭 (おおえだけちやしつ しくんてい)	平成 14(2002)年 8 月 26 日
10	有形文化財	蓑首城大手門 (みのくびじょうおおてもん)	平成 14(2002)年 8 月 26 日
11	記念物	中島館跡 (なかじまたてあと)	平成 15(2003)年 6 月 30 日
12	記念物	井戸沢横穴古墳群 (いどさわよこあなこふんぐん)	平成 15(2003)年 6 月 30 日
13	記念物	愛宕山館跡 (あたごやまたてあと)	平成 15(2003)年 6 月 30 日
14	記念物	大條氏御廟 (おおえだしごびょう)	平成 16(2004)年 11 月 29 日

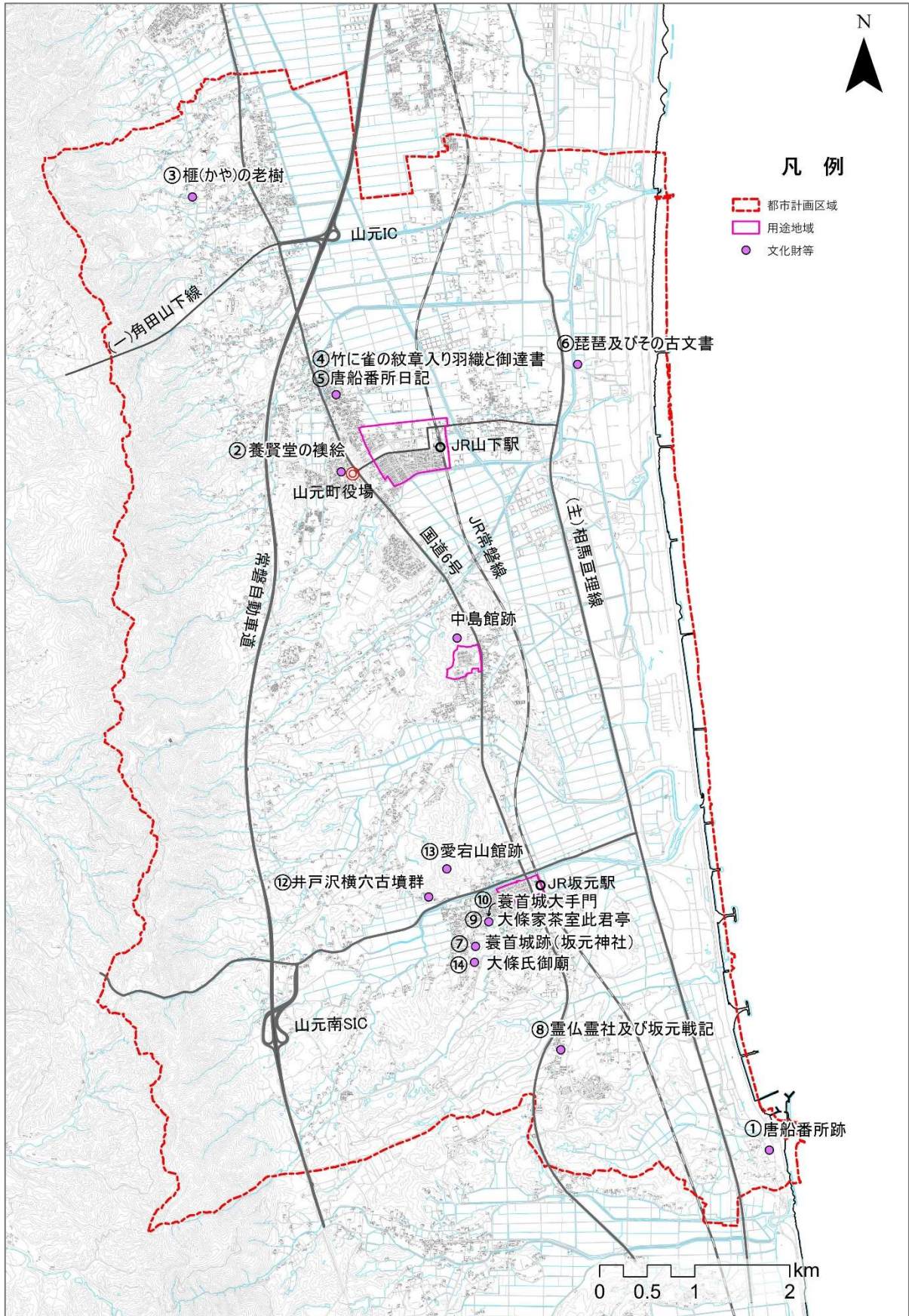
出典：山元町教育委員会(R6.4月現在)

大條家茶室此君亭



天保3(1832)年、伊達家28代(仙台藩12代藩主)伊達斉邦(なりくに)が重臣大條道直(おおえだみちなお)に与えた茶室。木造平屋建て、三畳台目・四畳半・十畳の三間で構成されている。

町指定文化財の状況



出典：国土地理院、山元町教育委員会